

特集わが家の親子ゲンカ

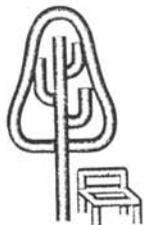
時事放談 女性議員の哀歓

ああ、細切れキャリア人生



読んで、書いてネットワークキング





高齢者世話ホーム

油壺エデンの園

(神奈川県三浦市)

終身利用(同一施設内介護)型 有料老人ホーム

老後の住まいの選択肢の一つ、有料老人ホームについて、あなたはどのぐらいご存じですか。社会福祉法人聖隷福祉事業団の設置運営する油壺エデンの園は、健康管理・介護・医療環境の整ったホームとして、昭和61年の開園以来、常に高い評価をいただいております。ご自分のため、ご家族の将来のために、是非一度ご見学下さい。

一般居室 7戸空室
入居者募集中

- 入園金 1人=2990万円～ 2人=4390万円～
- 管理費(月額)1人=79,300円/2人=115,200円
- 総戸数/302戸(介護居室32戸)
- 共用施設/附属診療所(17床)、大浴場、大食堂、茶室、喫茶コーナー、図書室、多目的ホール、理美容室など

▼諸磯湾から望むエデンの園(外観)



事業主体: 社会福祉法人聖隷福祉事業団

フリーダイヤル

みな よいろうこ

●資料請求・お問い合わせ先 エデンの園入居者募集センター東京事務所



0120-37-4165

大月書店 東京都文京区本郷2-11-9
電話03(3813)4651(代表)

●男女共同参画社会づくりとは

21世紀 女と男の

北京から日本へ

小宮山洋子著
46判・1545円

北京での世界女性会議の意義をふまえ、男女が平等に暮らせる日本社会をつくるために、いま何が必要かを問いかけます

Ⅰ世界女性会議「北京」

北京会議開催までの大きな流れ/多彩で元氣なNGOフォーラム/政府間会議と行動綱領/積極的に活動したNGO/日本へのヒント

Ⅱ女と男でつくる社会「日本」

性別による偏りのない社会/職場での平等/仕事と家庭の両立/政策・方針決定への男女共同参画/女性の権利は人権/推進体制の強化

———主な内容———

●動物介在療法の先進的とりくみを紹介

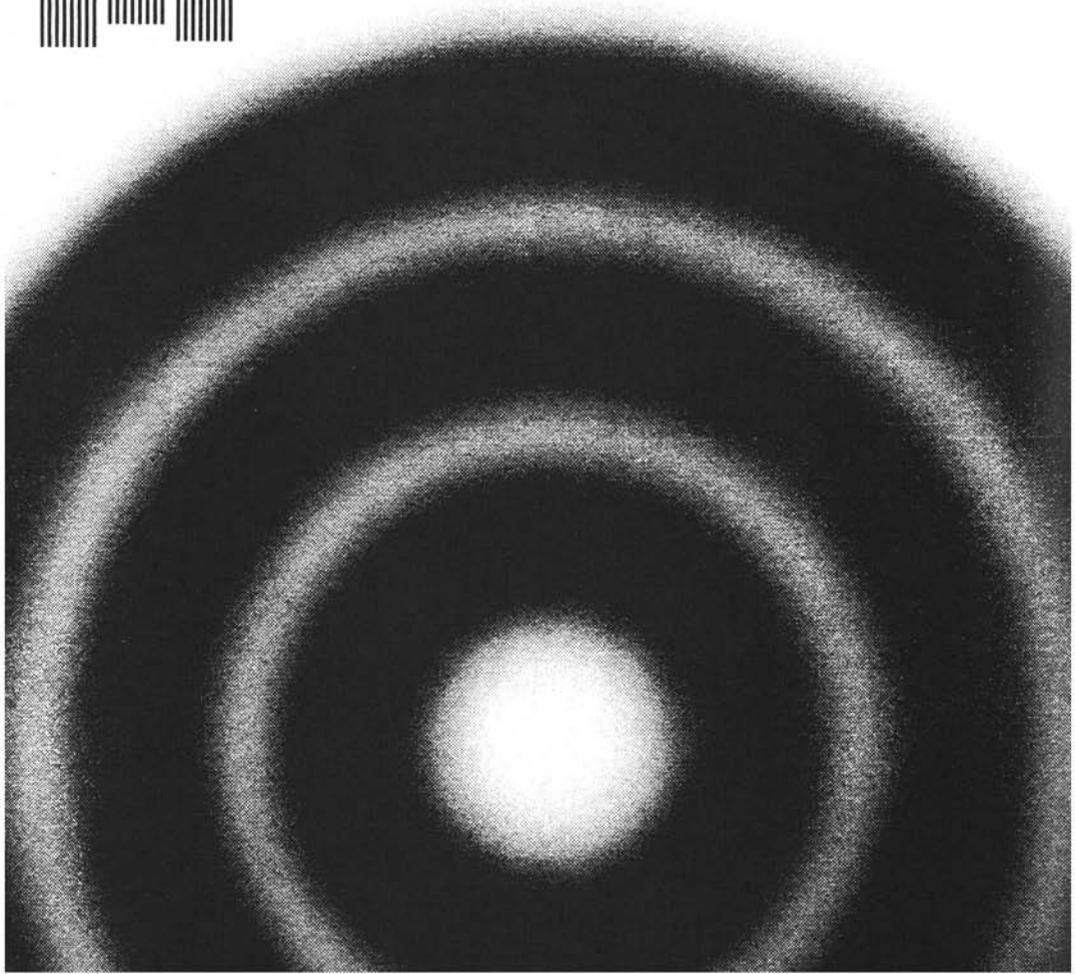
人はなぜ 犬や猫を飼うのか

人間を癒す動物たち

有馬もと著 心の病いを癒し、老いる孤独をサポートする動物たちとの古くて新しい関係を考えます。46判・1500円



● ——— 読んで、書いて ネットワーキング



読んで、書いて ネットワーキング わいふ二六言

目次

4 ヴアラエティ・ライフ⑪

妻役、母役、それからもう一人の「私自身」を探しつつづけて 森本邦子さん

写真提供・文ノ森本邦子さん

特集 わが家の親子ゲンカ

10 長男の反抗 十河温子

17 ママ、普通の家庭に戻せうよ 匿名

22 エッセイスト・クラブ

福田由利子・高宮みか・浅田節子

中松ミナ子・田中喜美子

32 マイジヨブ・マイホビー

福田幸子

37 おすすめの一冊 春菜ももこ

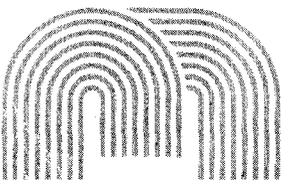
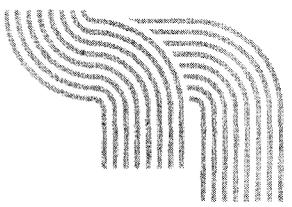
77 城築久代

89 米山真梨子

38 インドから来た明治の男 ④ カトリ 薫

46 家族と私

山田永子・鈴木まりも・匿名・浅川涼子



56 私の職業体験記

ああ、細切れキャリア人生 田村理恵

61 平成おったまげーション②⑨ 西田淑子

62 サーフレッシュ

荒木裕子・荻田一枝・福田由利子
川久保郁実・国沢 伶・本庄たよ子
石井しのぶ・牟礼真衣子・宮崎貴子

70 大人になりかかった子供たち

仲村加代子

72 アトピー日記ー 西尾裕子

78 船乗りキハル氏航海日記 松本とみよ

83 スパリー言

本間玲子・黒崎和子・宮崎貴子
中野耀子・村上裕子

90 ワーキングマザー

加藤泰子

92 情報コーナー

93 わいふネット

94 時事放談④「女性議員の哀歎」

内田秀子・中田 京・中田慶子

104 コミック●痛快ノ一般人③⑥ 栗田笑

108 パラダイスの国から② 新井純子

116 おさない子を育てる

さいたまゆみ・鈴木三代・友納けい子

122 フリースペース

伊藤琴子・木村委美・原 眞智子

128 母の特別養護老人ホーム転入所(前) 匿名

134 わいわいがやがや

米良恭子・吉長真子

136 ブック情報

138 私もひとこと

三好敬子・クワシイ智美・山橋ゆり・松本とみよ
伊藤てる子・布施孝子・高田晴美・木村ますみ

大原清子・塩野直子・あひる

山田浩子・関 由美子・河重悦子
鈴木美奈・石黒久美・庄子予吏子

141 老人ホーム情報センター発

142 私が訪ねた有料老人ホーム

特定有料老人ホーム「リバティハウス」

144 ファム・ポリテイク編集室より 田中喜美子

投稿規定 146 次号投稿募集
編集室から 151 編集だより 152 148

バックナンバー 12 お友達にわいふを 35
わいふ原稿整理方針 71 文章講座のおすすめ 91
自費出版はわいふへどうぞ 95

■表紙/レイアウト・工房はやし
■AD・林 佳恵

イラスト・梅村苺・奥島千恵子・小沢恵子
カステラネンコ・小林正子・小宅昌枝
佐藤端江子・田沼千恵・田村幹代・鳥居禎子
西宮さき・橋本美智子・山田京子



妻役、母役、それからもう一人の「私自身」を探しつづけて

森本邦子さん



一九九六年八月、私は「ニューヨークの街角」に立っていた。空には真夏の太陽が照り輝き、その光の眩しさに思わず目をどじた一瞬、忘れもしない遠い夏の日が甦ってきた。

一九五四年、京都女子大の国文科に入学し、やつと「家」からの

脱出、逃走の一步を踏み出したばかりの夏。図書館でふと手にした「婦人公論」の中に「人間でいられるニューヨーク」といった内容の文章を読み、遥かアメリカで仕事をし、のびやかに生きている日本女性に尊敬と憧憬で胸を熱くしたのだ。

心理カウンセラーとしての日常



埼玉県私立幼稚園PTA連合会での講演、テーマは、「子どもの心のサインがキャッチできていますか」200人の会場から質問がとぶごとしきり



一対一の面談の他に、グループカウンセリングも談笑をまじえながらするときも



「さあ好きな絵を8こ描いてね」と子どもたちに用紙を配っている。幼稚園で



幼稚園や学校の教職員を対象に事例を提示しながらの研修。熱がこもると手も足も動く

一九九三年の暮れ、私と共同で仕事をしていた夫は、突然、旅先で亡くなった。既に息子と娘は自立し、巣立っている。老親は健在とはいえ、限りなく自由の身の私なのだ。

「今、私はニューヨークにビジネスで来ている。そして、つかの間の休日を美術館めぐりをしている。ああ、このままこの地で住みたい。ヒルの谷間で願望は燃え上がった。」

能力を開花させようとする女たちへメッセージ



葛飾区女性センターの公開フォーラム「女が変われば男も変わる」芹沢俊介氏と。70代、80代の女性の参加者も含め熱気がたちこめる



差間小学校PTAの講演会のあと、著書にサインを。「アツ、みんな売れちゃった、後から送るわ」と嬉しい悲鳴



第8回イキイキ子育てセミナー東大教授・汐見穂幸氏をゲストに「人間の発達と老い」をテーマに、東京都婦人情報センターで



葛飾女性センターの夜間講座、男性学セミナー「男が変わる、世の中も変わる」のグループワーク。60代、70代の男性から20代まで



神奈川辻堂女性セミナー91年度の受講生と、一年後に再会。彼女たちは着実に「自分探しから自分育て」をし、能力を開花させている

一九八〇年、一人娘だから養子
をとり家を継ぐのが当然と決めら
れていた私は、それをしない結婚
をした。長男を保育園に預け、小
学校の教師をしていたが、第3子
を出産直後に亡くして、体調をく
ずしやむぬなく退職した。休養中
に、法務省の法務技官（心理職）
だった夫がいる環境から心理学を
学び、再び娘を産み再出発した。

一九七三年、ミネルヴァ心理研
究所を設立。心理テストと親子の
カウンセリングの仕事を始めて、
心のバランスを崩した子の母親
は、「言論の自由」も「平等な夫
婦関係」すら望まない女性達であ
る事実に、唯々仰天。

一九八一年、私立幼稚園の副園
長を兼任。「女性と労働」の分野
にも関心を抱く。

一九八五年、ボランティアで電
話相談、「幼稚園一〇番」を開
設。

一九八六年、第一回「イキイキ
子育てセミナー」を開催。現在ま
で十二回つづく。

一九九〇年、クレヨンハウスの
オープンスクールで「子育てと女
の自立」を半年間開催。

一九九四年、シンガポールの幼
稚園に招かれて以後、九五年、ドイ
ツ、スイス、九六年、ニューヨーク。
九七年夏には東欧の予定まで
入ってしまった。世界の果てまで
行く私です。

世界にでると心のびやか



マレーシア研修の折、アラブの女性と。家族関係や職業についての交流会で



ニューヨークの日本人幼稚園での講演。テーマは「日本の幼児教育の現状と問題点」

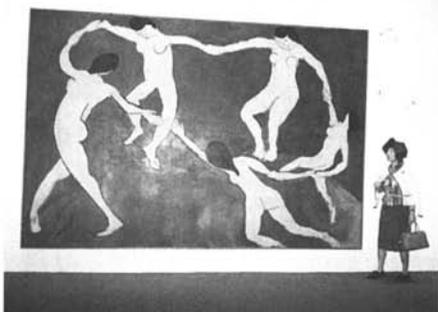


ニューヨーク在住の新進気鋭の画家、喜藤一峰氏と。こんな楽しい話らしいも

ドイツ・キュウケンネスト幼稚園訪問の際、子どもたちと踊る私



ニューヨーク近代美術館。マチスの絵のそばで、テッサンの素晴らしい息をのむ



私の故郷、福井の若狭、三方五湖のほとりです。学生時代から、お互いの変わる姿に惚れ合って38年

K.K.ファンタジーの 編集・取材記者に なりませんか。

取材し、取材されることは、お互いにとって
すごいカウンセリング効果がある、と体験的に思うのです。
あなたの未開花の能力をいかし、
その奥深い楽しみを一緒に味わってみませんか。

仕事の仕組み

自宅で、ファックスか電子メールでのやりとりになります。アンケートに答えていただいたり、お友達にアンケートの配付をしていただいたり、企画や取材、原稿をお願いすることもあります。

条件

20～30代の女性で好奇心旺盛な方。
原則として子育て経験者(妊娠中の方も可)。

謝礼

1カ月に1度の定例アンケート(記述か配付)で年間5千円～1万円。任期は1年間。

選考方法

- 400～800字程度のエッセイ「私の性格」を書いて郵送してください。
- 氏名、年齢、職業、住所、電話番号(FAX番号)、お子様の年齢、性別(または妊娠何カ月か)を書いてください。
- 第1期は10人程度の方をお願いしようと思っています。採用の結果は個々にご連絡します。

締切り/平成8年12月20日

宛て先

〒150 東京都渋谷区恵比寿西2-2-6
恵比寿ファイブビル308

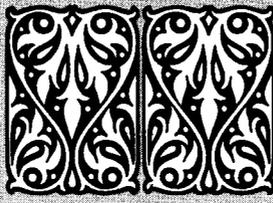
(株)K.K.ファンタジー
「編集記者」係

K.K.ファンタジーは
女の心と体のシンクタンクを
目指しています。

K.K.ファンタジーは妊娠・出産・育児&女の人の体をテーマにした仕事をしています。現在は雑誌や単行本の編集がメインですが、将来はビデオやCD-ROM等の制作もするつもり。これまでによくある、専門家の考えを翻訳して伝えるだけの編集態度ではなく、ふつうの人の声を爆発的に生かした、肉体的なりアリティあるものを作っていきたいと思っています。

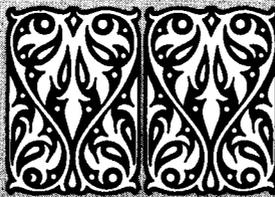


★にんぷ学(大和書房刊)
最近K.K.ファンタジーの編集した単行本です。



特集

わが家の親子ゲンカ



特集

わが家の親子ゲンカ

長男の反抗

東京都日野市●十河温子

荒れる息子

現在高校三年生の長男が中学三年生の時のことである。

彼が中学三年生になる四月、私は「これから子供の本格的な反抗期が始まる。高校受験もある。きつと大変だろう。でもどんなことがあっても私自身は冷静でいよう」と心に決めていた。ところがそのような固い決心も、予

想をはるかに越える息子の変化に、もろくも吹き飛んでしまった。

息子はまるで魔物がとりついたかのようになってしまう。これがほんとうに私が産み育ててきた子供なのであるのか。彼が幼いころ、一緒にハイハイをして遊んだのが嘘のようだ。彼は愛らしかった。それなのに今では会話をすればすぐにボルテージが上がってしまい、ふてくされて、

「こちやこちや、こちやこちや、うるせえんだヨー！」
と夕飯のシチューをひっくり返したりするのである。

ゆっくり話し合うなどということができないまま、私はすっかり冷静さを

失っていった。

彼が荒れるのには原因があった。三年生前期の生徒会会長選挙への不出馬、そのことに対する教師の裏切り者呼ばわりの発言、多くの教師への不信、受験体制に乗り切れない自分への苛立ち、今考えてみればいろんな要因があったと思う。

本人は何もかもわかっていてやっているんだ、だから親は黙っておけというが、何もかもわかっていて帰宅が夜中の十二時近くになるといえるのだろうか。自分が一体何をやっているのか。かつていてタバコを吸うのだろうか。単に「つまんねエ」という理由だけで生徒集会を抜け出して、姿をくらまし

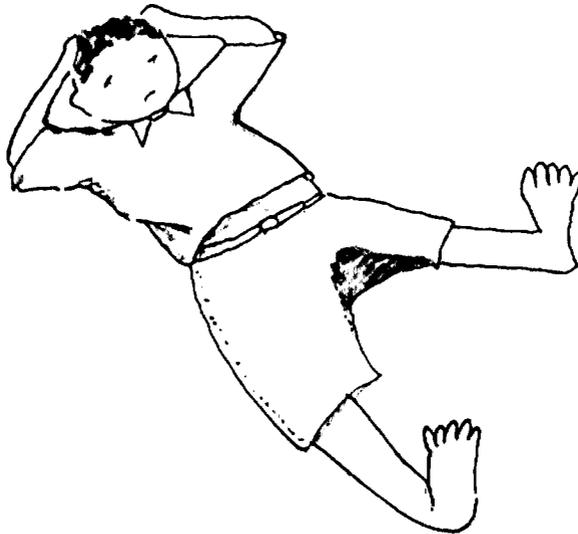
てしまうのは、あまりにお粗末ではな
かろうか。私はそんな自制心・自律心
の弱い子供に育てた覚えはない。私自
身のことを思い起こせば、厳しい校則
の中でつまらない思いをしたこともあ
ったが、法にふれるほどの強烈な彼の
反抗は私の理解を越えていた。ただ、
ただ、「どうか警察のご厄介になるこ
とはありませんように」と祈るばかり
であった。

家出騒動

そしてクライマックスは家出事件で
迎えた。夫の、
「出ていけ！」

の一言で息子は何のためらいもなく、
さつさと荷物をまとめて出ていこうと
した。きつかけは取るに足らないこ
と。年上の者に対することば使いはど
うあるべきかで言い争いになつての末
である。

彼の言い分には矛盾があった。そこ
を父親に指摘され、反論できないまま



逃げようとしたのである。父は昨年世
間を騒がせた人になぞらえて、「わが

職場のジョーユー氏」といわれたぐら
い口をよく回る人である。ああいえば

こういう、こういうえばあいう夫を、十五歳の子供が論破できるわけではないのである。

家出少年を見送れば、パトロールの警官に補導され、親はその身柄を引き受けに行かなくてはならない。先の見えた話である。だから私は息子を引き止めた。思いついたことばは、

「出て行くんなら、持っているお金を全部返してちょうだい！」

すると息子は私の意に反して、すんなりポケットからお札を出して、まともや出て行くこうとした。

私は息子を玄関の外まで追いかけた。そして顔を思いっきりひっぱたいてやろうと彼に飛びかかった。が、相手は一八〇センチメートルもある大男である。いとも簡単にかわされてしまった。

次は、肩から斜めにかけているバッグのひもをつかみ、振り回してやろうとした。そして逆にこちらが庭に投げ飛ばされてしまった。くやしい。実にくやしい。力では勝てないのである。どんな説得も効き目がない。夫は一体

何をしているのだろう。私は振り絞るような声で夫に助けを求めた。

夫はそれまで家の中で黙っていたのである。対策を練ってでもいたのだろうか。やおら玄関へやって来て、外の息子に向かつて、

「出ていくなら荷物を置いて、洋服も脱いで裸で出ていけ。お前の持っているものは、全部家で買ったものだからな」

素っ裸では表を歩けるわけではない。息子は観念したのか、自分の部屋へかけ上がった。行つた。

私は何とか彼を家の中に引き戻せた。安堵感から泣けてきた。そしてオイオイと泣いた。情けなくて泣いた。

私は三年生になって塾通いを始めた長男の健康管理、三歳になる三男の育児、病気でもないのに一日中寝間着姿でいる姑の世話、そして中一の次男のことも忘れてはいけなさと、あらゆることに真正面から取り組んでいた。

それなのに息子は困難から逃げようとはかりしている。だから彼の弱さが

★わいふバックナンバー

248号 ウマイ話にだまされた

249号 夫の職業と妻の生活

250号 女の友情

251号 集合住宅での子育て

252号 うちの子のおばあさんおじいさん

253号 阪神大震災

255号 家事サービスを利用してみたら

257号 ああ、マンション暮らし!

258号 時事放談「私たちのゴミ問題」

259号 夫の過労死は他人ごとか?

260号 トラブル旅行記

261号 嫌われる姑・好かれる姑

どうせ死ぬなら上手に死のう
死ぬのに必要な手続きのすべて
一三〇〇円

こんなにふえた

安くはいれる有料老人ホーム
― 付 退院後の療養・リハビリに老人保健施設
二五七五円

シリーズ老後の暮らし

お年寄りが安全に暮らすために
一五〇〇円

変わる主婦・変わらない主婦
一五〇〇円

お申し込みは電話でどうぞ。
☎〇三―三二六〇―四七七―

情けなくて仕方がなかったのである。私は疲れていた。能力の限界も感じた。完全にオーバーワークである。ほとほと一人で蒸発したいと思った。

昔、流行った歌に、

「あなたの息子を信じなさい。ホラ信じなさいゆ……」

というのがあったが、私はどうしても「あの子は大丈夫」とは思えなかった。彼の様子を見てみると、不本意にも口うるさい親になっていくのである。ことの善し悪しはもつと幼いころにたた

き込んできたつもりであったが、足らなかつたのであろう。親として、せめて十八歳になるまでは、自分の子に全面的責任を持たなくてはならない。

高校に入つてもしたい放題

悶々とした日々を送り、志望校も決められぬままに十二月を迎えた。一枚だけ残っていた学校説明会にラッキ―！とばかりに母子二人で出かけた。学校側の説明はうまかつた。私は心酔

し、息子はやる気になって、「オレ、この高校へ入つたら生徒会やる」

とやけに素直だった。

その夜から息子の必死の追い込みが始まった。

年が明けて二月の受験で、第一志望校に合格するという満足のいく結果を得ることができた。二カ月間自分を律して勉強をし、目標を達成したことは立派だったと思う。

私は嬉しかつたし、息子も希望に胸をふくらませていたことであろう。

しかし、入学後、若葉の美しい季節になるころには、早くもそんな神妙さは消え失せ、再び彼のしたい放題が始まった。

元の木阿弥である。それは今どきの高校生の先端を走るかのように、スケールが増大していった。

夜はまずまともに帰つてこない。夕飯を作つても残つていく日が続く。連絡をして頼んでも友だちの手前、公衆電話を探して「かあちゃん」に話す





のは恥ずかしいことという。毎日毎日どこに行くのと問えば、「カラオケエー」の返答。

「夕食は？」
「焼き鳥屋」
学校帰り制服を着てカバンをさげ

て、サラリーマンのよく行く焼き鳥屋に行くのである。

カラオケ三昧の日々から、夏はキャンプ、バーベキューパーティ、サーフィン。冬はスキーにスノーボード。私の怒りを尻目に楽しそうである。親のきつい叱責と冷たい視線に、さぞ後ろめたいことであろうに、彼は全くめげない。すごいエネルギーである。

学校へはジェルで固めた頭をして行って、生活指導の先生に洗い場まで連れて行かれ、「頭を流せ!」。髪を伸ばしていて教科担任の先生に引っぱられた。「そろそろ剃ったらどう?」と。ポケットに手をつっ込み、ズボンの裾をポロポロにして足を引きずって歩く。

休日のネックレス、指輪、香水、白のヘアバンドはまだ許せた。難関の、アルバイト、茶髪、ピアス、バイクは何とかくい止めることができた。しかしポケベルを、親に内緒で友だちから借りてきた知恵には、脱帽せざるを得なかった。

日中だけでは遊び足りないのか、家

族が寝静まった真夜中に、寝床を抜け出し朝帰りしたこともある。凶に乗った行状は学校に知れることとなり、母子でお説教を受けに行つたこともある。これだけはないようにと再三注意していたのに残念でたまらなかつた。

高校生が遊ぶのには限度がある。自分の身分に見合つた遊びをして楽しむのが節度というものである。これは大人にもいえることだが、それを何度言つてもわかつてくれない。

「大人はみんな子供のころの気持ち忘れちゃうのさ」と息子はどうそぶく。

「今日は泊ってくるから」「そう、OK」「酒、タバコ? 皆やっていらいんじやない? 見つからないようにね」「旅行に行くから」「いくらいるの?」と一万円札を渡すのが理解のある理想の親なのか?

うちは異常だ、もう化石だと彼にどんなに罵倒されても、私は自分の信念を曲げなかつた。狂っているのは息子のほうだ。ささやかな妥協をすること

はあったが、親として言うべきことは壁に向ってでも叫んだ。ダメなものは絶対にダメだ。私は断固として息子と

闘った。私にとってはまさに「地獄の日々」であった。

この春、彼はようやく高校三年生に



なった。成長したのか少し落ち着いてきた。私たち親の話に耳を傾けるようになり、私も普通のトーンで話しかけられるようになった。もうきつと遊びに出かけることはないだろう。少しホッとしていると、ある日曜日、突然に、「釣りに行ってくる」と早朝から海へ出かけてしまった。まだやめない。もう彼には勉強への意欲など失せてしまったのかと再び失意の底につき落される。

花火事件

人生はそんなに甘くはない。止めの一発がやってきたのだ。

それは、打ち上げ花火を口の中で爆発させるというものであった。何ということ！ 一体どうやって？ 私の頭は混乱した。救急隊の人からの電話は夫が受けてくれたので、又聞きの私は状況をよく飲み込めない。命を縮めるとはこのことだ。

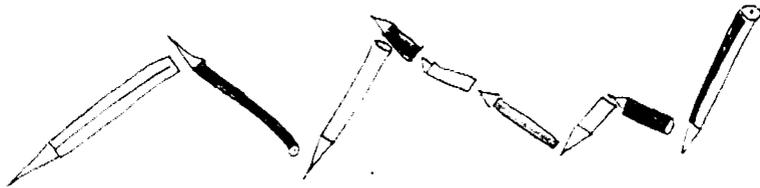
とにかく生命には別状ないとのこと

なので、とりあえず夫だけ病院へ車を飛ばした。私は姑と末の子をまだ寝かしつけていなかったのである。ほんとうに夫のいる夜でよかった。息子は意識もはっきりし、事故の重大さの割にはケロッとしていたという。ひとまず安心である。

花火を口にくわえるということ自体考えられないことなのに、まして爆発口を口の中に入れて火をつけるなどは、気が狂っているとしか考えられない。一応隣にいた友人に確かめたが、「こつちじゃない?」「そうかなあ?」と迷いながら火をつけてもらったという。

爆発後、ころげ回る息子を友人たちは最初はふざけているのだと思つたという。息子はいつもそんなふうにふざけていたのか? 事の重大さを知つた彼らは、持っている携帯電話で救急車を呼んでくれたのだ。

口の中は焼けただれ、火葉が粘膜にこびりついていくらゆすいでも取れない。当然食事はできない。終日の点滴



のため入院となった。一週間、健康な男の子が一滴の水も咽を通すことができないのである。いいお灸である。夫と二人、ずつと警告していたことが現実のものとなり、息子は弁解の余地がなかった。

あまりのめずらしさに、若い医者が次々に息子の口の中をのぞき込む。これはもう学会発表ものである。こんな症例などまづないであろう。

幸いにも咽の奥の口蓋垂こうがいすいを吹き飛ばしてしまつただけで、重い後遺症も残らずにすんだ。焼けただれていた口も元通りになり「男前」は保たれた。運のいい子だ。

この自分の体を傷つけるということ、彼の「大あばれ」は終わった。以後もうバカなおふざけはないものと思いたい。

九月に入ってようやく受験体制に加速がついてきた。いい調子だ。これで自分の能力の新たな発見ができ、それを喜びとしてくれれば、私の苦勞も報われることと思う。

ママ、普通の家庭に 戻そうよ

匿名

インナーチャイルド

ドアをあけると娘の靴があった。私は、北海道への団体ツアーから帰ってきたところである。羽田へ迎えにきてくれたGと近所の寿司屋に入ったので、娘も呼ぼうと何回も電話をかけたが出なかった。時計は九時をまわっていた。「ずっといたよ」とぶすつとMがいった。ものすごく機嫌が悪い。いやな予感が走った。

「ひとの洗濯物をなんでさわるんだよ、なんで茶碗を洗ったり、あちこち掃除したりするんだよ。ママの部屋で猫は鳴き続けているし、ベッドはひっくり返っているし、トムはリビングに閉じ込められてヨダレだらけになっ

ているし、やなんだよう。気持ち悪いんだよう」とまくしたてはじめた。

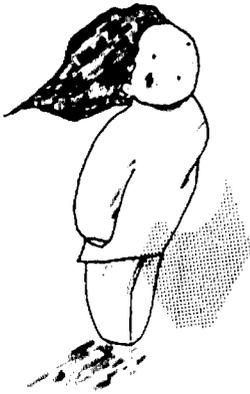
「ちよつとMちゃん、私はね、今北海道から帰ったばかりなんだよね、三十九名の参加者のなかで、娘にどなりつけられている人がどこにいるのよ、いい加減にしてよ」

目の下に隈をつくり、蒼白な顔で今にもつかみかからんばかりだ。自分の言い分のみ、あることないこと被害妄想と誇大妄想、思い違い勘違いをシェーカーでガシヤガシヤかきませたよう

にとめどなくガンガンわめきたてる。

「あなたの周りのものはみんな不幸になるんだよー、おばあちゃんだって追い出したくせに、Gさんだってママはヒスだっていやがつてるし、友達もいないくせに」

「心理学なんか勉強したって、私をパンツひとつにしてベランダへ放り出したり、年中殴りつけていただろう」「Gさんと並んで歩いてるの近所の人みんな家になんかいたくないんだよー」



と泣き叫ぶ。

なるほど私の部屋のベッドはマットレスがむき出しで片側が持ち上げられているし、山になっていたMの洗濯物がきれいになくなっていた。使った食器も洗わず、次々に出しては流しを山にしていたのを、Gが洗ったという。

ベッドも、犬があちこちにオシッコをかけていたので、シーツをはがし洗



つてくれたのだ。

「俺はね、親の留守で娘だけがいる処にきたら、何をいわれるかわからないから、いない時にきたんだよ。植木に水をやつて二時間もあれば掃除なんかできるから、やつてやつたのに文句なんかいうことないだろう」

「私に説教なんかしていないで、家にかえつて自分の子どもに説教しな」

とMはGに迫っていった。

「Gさん、やりすぎだよ。Mがどうしても植木の水道りを嫌だつていうから貴方に頼んだのに、それだけでよかったのに」

Mが洗面所に汚れものを積み上げておくのを、私が洗うと怒る。いつまでも洗濯物を洗濯機から出さないのですと、触るなあ、つてどなる。それでそのまま出かけてしまったのだ。彼のまめさがうらめしかった。

「私は神経症なんだよ、精神病になりかかっているんだよ、精神病になっちゃってからじゃおそいんだよ、中学の時からずーつといい続けているのに」
「と猫の爪磨きやベッドパットを投げつけると、

「うちは普通じゃないよ、普通の家庭に戻そうよ」

とMは泣きながらうずくまってしまうた。

「やならさつきと出ていけばいいじゃないか、二十八にもなるのに、もうすぐ三十だよ」

「出ていきたいよー、こんなうちになんかいたくないよー、小学校五年生でどうして家を出られるんだよー」と目の前で泣く娘の姿は小学生のまま、インナーチャイルドを抱えた、まさにアダルトチャイルドの姿だと愕然としてしまった。

母親の火遊び

Mのいう小五の時とは、私とGとが交際を始めた時であり、Uとの別れがもつれていた時でもあった。

Uとは東京からS県のS市へ引越して間もなく知り合ったのだが、当時五十二歳で三十七歳だった私とは十五歳も違っていた。

花でも、壺でもなんでもミニチュアが好きで、彼の家の周囲は小さな公園のようにかわいいた家や橋がかかり、木々が植えられていた。そして十二階のわが家のベランダにも、ミニ和風庭園を出現させてしまった。

しかし「火遊びだよ、僕には妻も娘

もいるからね」と独身の私に引導を渡しながら、朝に夕に駅で私を待っていて、家にもしばしばやってきた。Mは彼を毛嫌いした。

まめで親切で趣味も悪くなかったが、私の心は醒めていた。嘘もすぐわかった。家族の食べ残しの蜂蜜を「ウマイソー」と持つてきた時「火遊びはもう終わり」と通告した。

Uの身勝手さに鼻じらんできたころ、Gが近づいてきた。

私が物心ついた時から、父に愛人とその子どもがいた。家は貧しく両親は不和だった。五人兄弟姉妹だったが、仲のよいきょうだいとはいえないかった。六歳上の次兄と二歳下の妹は二十代から精神分裂病を病んでいた。夢に描く家庭の温かさとはほど遠かった。

子どものころから、私にはいつも自分の居場所がなかった。淋しくて誰かに抱き締められたいといつも望んでいた。母には頼りにされたが愛されたという実感はない。夜尿症だった私は、叱られることが多かった。

Gは優しくかった。私に経済的な負担をかけまいとした。Mにも優しくかったし、Uを嫌っていたMがGにはなついていた。

しかし交際を始めるのとつぱり「女房にばれたら別れてくれよ、俺には子どもがいるから」とGもいった。

子持ちでも独身の女に、所帯持ちが交際を頼みながら、なんて身勝手な言い分だろうか、頼まれなくなつていつも「今日でお別れ」になるかも知れないと、覚悟はしている。

Gとの関係は迷惑をかけず、かけられずという暗黙の了解で、今日に到るまで「火遊び」は十七年間も続いている。この間私は数回の病氣、入院手術をしたが、親よりも、兄姉よりもいたわりと思いやりで援助してくれた。母は八十五歳で田舎に一人で暮らしている。その母のところへ私と一緒に行き、優しくあれこれ手伝いをしてくれる。

MはGが自分の家のように自由に振る舞うことをきらい、ママは不倫をしているんだと私を憎悪している。中学

のころから、それはひどくなつた。何が正しいか学校で勉強してゐるんだからとMは正論で詰め寄る。会社で、うまくいかなくなつてから、特に、Gをうつとうしがる。

Mの自立

Mは二年ほどワンルームマンションに一人住まいしたことがある。部屋を借りると同時に、会社を辞め函館へ帰るといふ、三年間交際した恋人の彼とも別れた。フリーターや保険の外交員、ナイトクラブのアルバイトなどで暮らしていた。

淋しいからと、家主には内証で犬を飼つた。部屋代は六万円、就職した会社の月給は住宅手当を入れても十六万円、生活が困窮するのは目に見えていた。

ひどい食あたりで五日間入院したが、その時の所持金は千円しかなかった。内証で飼っていた犬がけたたましく吠えること、生活が苦しいことなど

の理由で「貯金をするために」と家へ戻つてきた。

大喧嘩のはてに五十万円私から引き出し、部屋を借りるのに連帯保証人も強引に引き受けさせて出て行つたのに、戻つてきても同じ繰り返しではなにかという危惧はあつた。

間もなく、また騒ぎが始まつた。「生活費を払いたくない、私は貯金をするために帰つてきたのになんで四万円もとるのか」といふ。

投稿文章で母親の秘密を知る

いつからこんな娘になつてしまつたのだろうかと思う。よく笑い、聞き分けのよい子だつた幼児期。一年生になり友達と喧嘩をする、睨みつけられて怖いと他の生徒がいう。まず落ち着いて席に座る練習をして下さい、と初めての家庭訪問で先生からいわれた。

無意識にオシッコや便が漏れてしまう遺尿や遺糞があり、小一の時T大学附属病院小児科のプレイルームへ通う

ことになり、以来五年間通つた。セラピストから、両親の間に溝があるからだと指摘された。

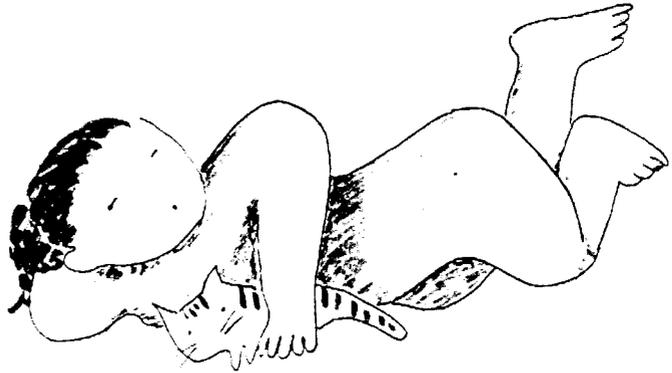
間もなく、賭事が好きで、家庭とか家族を顧みない夫と離婚をした。七年間の結婚生活に、私は絶望し疲れ果てていた。

Mが中学二年生の時、ある雑誌に投稿した原稿が採用された。その電話を聞いていたMが興味津々だったので、大人になったら読ましてあげる、といったのだがMは友達とこつそり読んだという。そしてみつともない、恥ずかしいといつて猛烈に怒つた。

内容は、夫と離婚をしてから交際をした男性達との顛末を書いたものだつた。それからMは、私がMの体に触れることを嫌がるようになり、親子の関係は険悪になつていった。

母親もアダルトチャイルドだつた

年齢や肉体は大人でも、肉親との関係で心が傷つき、子どものころに得ら



れなかつた愛を求め続けているという
インナーチャイルド。娘をアダルトチ
ヤイルド（A・C）にしてしまったけ
れど、私自身もまたA・Cだったと思

う。

Gと出会い、Gの大きな愛に包まれ
て、やっと私は自分らしく生きられる
ようになった。けれどその十数年間、

Mは孤独だったのかも知れない。Mと
の二人の生活をやり直すために、Gと
は別れなければならぬと思う。

大人になれない娘

Mは二度見合いをした。一度目はタ
イプじゃないと振り向きもしなかつ
た。二度目は心が動いたようだが、結
婚を怖いといひだした。

そしてデートに誘われると、具合が
悪くなって寝込んでしまった。「大人
になりたくないんだよー」と泣きだし
てしまう有様だった。

Mはこのままでは対人関係にも、仕
事にもつまずき、結婚も出来ず、淋し
い人生を送らなければならぬかも知し
れない。結婚なんかしないほうが幸せ
な人もいるよ、とNカウンセラーはお
つしやるが、普通の暮らしをさせてや
りたいと思う。Gとの別れは辛いけれ
ど、Mの人生には代えられない。あな
たのいうとおり普通の家庭に戻そう。
ケンカは止めて。

むかご

東京都武蔵野市

福田由利子（79歳）

玄関のブザーが鳴った。卓上の時計をちらつと見ると九時少し前である。招かざる客、と私がひそかに呼んでいる〇〇証券の勧誘員さんにしては、時間が少し早すぎる。

受話器を取り「はい」と返事をする、ブザーの主は東京電力の検針員だった。メーター器に薦がからんで針が見えないとのこと。急いで門をあけ「すみません。どうぞ」と言うと、検針は扉の外から出来るから、薦をのけてもらえばよいと言う。

家の北側へゆきメーター器にからんでいる薦をむしって取った。この薦は、隣家から根が我が家へ入りこみ、壁を登り、年毎に茂ってきた。今年で三年になる。私は薦は嫌いではない。この薦のおかげで、我が家の古びた壁がほどよくかくされるので満足している。

その薦にまじって、今年も自然薯のつるが長くのびている。自然薯とはやまのいものことである。私はこのやまのいものが好きだが、東京、少なくとも吉祥寺のストアーにはない。長いもとしてあるのが形が似ているが、水っぽくこくがない。

いつのころからか我が家の庭のあちこちに、やまのいものつるが春になると出て来ている。もめん糸ほどの細いのが、菊やバラの茎に巻きついていて、そのつるの中で薦と一緒に登っているのが一番長く、つるの太さもレース糸くらいある。ふと見ると細い葉のつけねに、むかごがついている。それはまだみどり色で、雨上がりの紅葉の葉先からおちる水滴ほどの、小さな小さな玉である。二つついている。

北九州市の八幡にいたころ、自称やまのいも掘りの名人と言う工具さんが、秋になるとやまのいもと一緒に、むかごを持って来てくれた。炭火のやかんにおこった七輪に、大きなほうろくをかけ、黒くみっちりの実のしまったむかごを気長に炒った。むかごめしも炊いた。国分寺に住んでいたころ、三鷹の三光院という尼寺へ、お茶の先生が招待して下さり、おおばく流という精進料理をご馳走になった。その時むかごめしが出た。それ以来一度もむかごに出会っていない。

秋が深まると、我が家の犬を連れて山へ入り、長

いやまのいもとむかごを持って来てくれた、あの酒好きの工具さんは早くに亡くなった。お茶の先生も昭和四十九年に亡くなられた。そして初めてむかごめしを我が家で炊いたとき「こんなもの、喰って大丈夫か？」といぶかしんだ夫も今は亡い。むかごの思ひ出は淋しい。

「むかご（零余子）、やまいもなどの葉のつけねに出来る芽」と私の小さな辞書にあった。

パスタ・ロボ

大阪府豊中市

高宮みか

パスタ・ロボとは麺料理専用として売り出されているパスタ鍋の名前である。

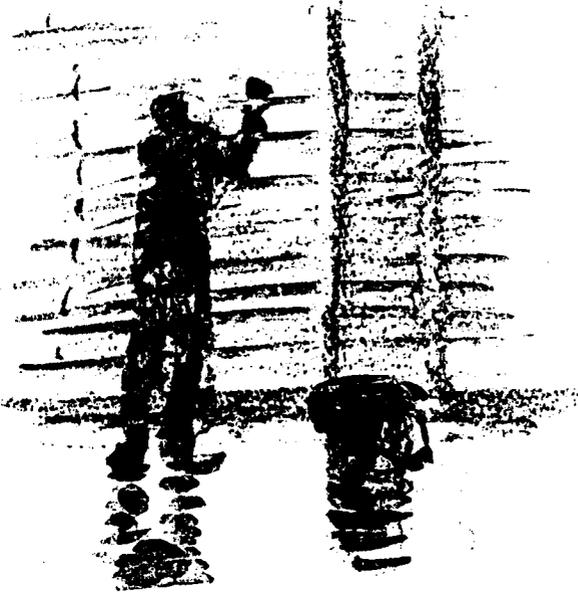
本体の深鍋に重ねるようにしてコランダーと呼ばれる穴開きの、いわばザルと、かぶせぶたが三段セットになっている。それぞれに柄がついており、本体は寸胴代わりの深鍋としてカレーやシチューを煮てもいいし、コランダーはとうもろこしや枝豆など

大量に茹でるときには便利という。

かぶせぶたはそのままボールとして使える。

なんと便利な鍋だろう。

格好いいじゃない、パスタ専用鍋だなんて。



格好いいのは分かっている。台所仕事にもっと情熱が持てたころ、欲しいと思ったこともある。

「だけど、だけどだ。」

ダイレクトメールのカタログを見ていた夫が、

「お！ これよさそうだぞ、買ったら！」

と、突然叫んで、あたかも自分の専売特許みたいのに、いいとこばかりを並べ始めたら、なんだか訳もなく腹がたってきた。

「さんざんなしでやってきたのに、今さら麵専用なんていらぬわよう」

「どうして？」

「もう置き場ないもの」

「使わないもの捨てればいい」

「それでなくてもステンレス鍋、近ごろ重くて、手首を痛めやしないかと心配なのに」

「コランダ―で麵を引き上げるんだから、鍋ごとざーっとやるより軽いぞ。おまけに余計なざるがひとつ捨てられる」

「お湯を捨てるときはもちあげるんでしょ。ざるは一つ増やして一つ捨てるんだから、捨てたことにはならないのじゃない？」

「これからはそば湯が飲める」

「二万六千円は高すぎるわよ」

「一生もんだぞ」

「人生もうたいして残ってないじゃない」

「じゃあ、なにか？ そのたいして残っていない人生をそば湯も飲まずに過ごすのか？」

「パスタ湯っていうのは聞かないけれどね」

「それじゃあ君は、パスタ・ロボをくだらない鍋だというんだな？」

「そんなこと言っていないでしょ！」

「じゃ、いったい、何を言いたいんだ」

「カタログを見ただけで、すぐ、さあ、買おう、と言わないでよ。いろいろ気持ちの準備というものがある」

「いつその準備ができるのさ」

「えい、うるさいわねえ！ そんなに買いたいななら好きにしたらいいじゃない！」

その日、街へ用事で出た夫は、もうパスタ・ロボの入った箱を抱えて帰ってきた。カードで買ったのだそうである。炊いてあつたご飯は明日にまわして、今日の肉の付け合わせはスパゲッティだという。

口径二四センチ、実容量五リットル、高さ三〇センチ、重量三・一キログラム。

「ええい、湯沸かし用のポットを使えばいいか！」と私は、家に一つしかない、今は把つ手の少し焼け焦げてよくれたステンレスのやかんを捨てて、新しい侵入者、パスタ・ロボの場所をこしらえた。

鍵だけが残った

神奈川県大和市

浅田節子（64歳）

もう一生使用することのないキイが、ここにあり。住む人がいなくなった実家が、やっぱり解体さ



れることになったから……。悲しそうに何かを訴えているかのようだ。

九年前父が他界し、一人暮らしの母が八十六歳で息を引き取り、一年が過ぎた。

いよいよ実家が消える日——私は古里に帰るか迷った。

無残に破壊される実家の姿を目前にしたら、ポロポロ泣けてくるだろう。身を切られるようで、いたたまれない気持ちになるだろう。

その上、父と母までも解体されるような錯覚に陥るだろう。

火事の時、燃え盛る炎の中に飛び込んで我が子を救う母親のように、思い出が一杯詰った家の中に飛び込みたくなるかも知れない。

やっぱり私は帰るのはやめた、勇気がなかったから……。

キイをじっと見つめていると、父母のさまざまな姿や、三人姉妹で過した古い思い出の数々が、そのキイの中から吹き出てくる。

五十代は何も分らないまま、六十代はバラ色の人生にしようと思ふくまされたが、現実にはキビシイ。実際に迎えてみると予期しない事が多く、荒波を乗り切る試練の時だと悟った。

安らげる古里は永遠にあると思いたかったし、こ

んなに早く失うとは思わなかった。

お墓参りに帰る時は、旧友の姉上が昔から続けている旅館が、実家代りになった。

三人姉妹も六十代になったが、二人の妹と語り合える、なつかしい旅館の一室が古里にあると思え



ば、むなしさも少しずつ消えてゆくような気分になつてきた。

いとおいしいキイをにぎりしめ、実家は消えても、父母の待つ宮崎のお墓に帰る時は、そつとバッグにしのばせよう——と思つた。

高下駄の音

和歌山県日高郡

中松ミナ子

すし屋の我が家では、三十年ほど前まで、夫も店の若い人たちも豆しほりの手拭いで「ねじり鉢巻」「高下駄」を履いて、調理場に立っていた。

誰が決めたのか、これが板前の定番スタイルらしくかった。

高下駄は水仕事をするには都合のよい履き物であり、調理台との釣り合いもよかつたらしい。

ある年の秋、一人の少年が「見習い」として我が家に住み込んだ。「どうして、すし職人に成りたいの？」ときくと、「ハイ。あの高下駄がカッコいいので履きたかつたからです！」と屈託なく言つたので、夫も私も思わず吹き出した思い出がある。

さて、この新入り少年は翌日には、向いの下駄屋で早速、高下駄を自前で調達してきた。

そして満面笑顔で、念願のソレにそろりと足の指を入れたのである。

我が家の新入りは最初、出前に始まる。自転車で

岡持ちを提げて次から次へと……。出前が途切れると、裏方で米を洗つたりすし皿の洗い物をする。長ぐつの方が適しているが、彼にとつては憧れの高下駄を履いて、足元はすっかり板前気分であつた。ようやく閉店、銭湯に行く彼が商店街をカラン、コロン、カラン、コロンと高い音を立てて歩いていくので、夫は苦い顔であつた。

とうとう「コラ！ 夜も遅い、近所迷惑な音を立てて歩くな！」と怒鳴ると、「ハイイ」と神妙にうなずいているが……。翌日には、またも同じ音が迎りに響くのだった。

ところで、この高下駄、こまめに洗わねばならず、ハマが擦り減つてくると堅いブラシを横に広げたようだ。しかも夫は足クセが悪いのか斜めに変形してくる。したがつて数足を洗い替えて履くのだが、実に洗い難い代物であつた。

定期的に回つてくるハマ替えのおじさんの手で、真新しいハマが入ると、調理場の土間やすぐ近くの八百屋辺りまで出かける夫の足元で、カラ、カラと心地よい音がした。

ある時「この一足も替えて欲しいけど、まだ洗つてないし……」と、汚れた高下駄を手に躊躇している私の手から奪い取るようにして、おじさんは「そんなコト気にせんてよろしい、一緒に替えまっさ」

と気軽に店の横で、コンコンと道具を使ってチビたハマをはずし、アツという間に取り替え完了。鼻緒がゆるんだり切れそうなら、ついでにキチンと直してくれた律義なおじさんだった。しかし、ある日このおじさんが「すんまへん。長い間、可愛いがつて貰いましたけど、もう寄せてもらえまへんねん。ワシも年やしこの仕事止めまねん。ほんまにおおきに」と頭を下げ廃業を告げたのである。やがてこんな地味な職業の人も絶えてしまい、下駄屋さんに特別に依託するよりなかった。だがこれには気兼ねとヒマがかかって、とに角面倒この上ない。そんなこん

なで我が家から高下駄が姿を消して久しいのである。五年前、店の立退き移転で物置きを片づけていたら、ハマのない高下駄が数足、ホコリをかぶって出てきた。若い日の夫の足形が、うっすら残っていた。思わず手のひらでなでてみた。

高下駄姿に魅せられて「すし職人」を目指した少年も四十代後半と成り、五人の娘や息子の父親であり、郷里で我が家と同じ「のれん」のすし屋の主と成っている。

秋の夜なが、耳を澄ますと、あの高下駄の音がすかに聞こえてきそうな……そんな気がする。



もう犬は飼えない

東京都新宿区

田中喜美子

犬のジヨリが死んだ。目の前で。

十五年生きたシエットランド・シープドッグの雌である。

顔がかわいいのだけが取り柄の、しょうのない犬だった。やんちゃで手前勝手なわがまま犬だった。

後ろから手をだして背中をなでようものなら、いきなり振り向いてガブリ、とやられる。ひざの上に手をかけてしつぽをふるから、かわいいかわいいと頭を撫でてやっている、だんだん機嫌がわるくなり、目を怒らせて鼻先にしわをよせてヒクヒクさせ、噛みつこうという顔になる。何のことかわからないけれど、おそろしくなつて手を引いてしまう。

こんな変な犬が世の中にあるものか。
紙くず籠には鼻をつつこんで、ティッシュペーパーをつまみ出し、食べてしまう。

ブラシをかけさせない。爪も切らせない。風呂などはもつてのほか。しかたないから、年に三回ぐら

い、ブラシをかけるときは鼻面をしぼつてしまう。洗ったのは十五年のうち六回くらいだ。

散歩が大きらい。連れ出そうとすると、玄関先で前足をつつぱり、尻をおとして猛烈な抵抗をする。

飼い主にはそれほどでもないのに、昔知っていた女の人があると、体をくねらして尾つぽを振り、ものすごくアイソをふりまく。やな奴だ。女の人に育てられた犬らしく、女性には愛想がいい。男にはすさまじい敵意をしめす。

悪いことをしたとき、たたこうとすると、とびついて向かってくる。私は犬専用のおもちゃを買った。

芸もない。おすわりとおあずけしか分らない。おあずけも、ちよつとの間だけ。途中でいやになつて「よし」ともいわないのにながつと食べだしてしまふ。

こう書くと、犬のしつつかたを誤つたバカ飼い主と思われそうだけれど、この犬の前にいた同じ犬種のフォスターは、実にいい犬だった。叱れば前足をそろえて頭をうなだれる。いたずらもほとんどしない。主人が帰つてくれば大歓迎。犬だからやはり、ジヨリと同じように盗みぐいはしたけれど、これは食べ物をおかつかつに出しておいたこちらが悪い。だから私は、子育てはどんなにやつても子どもの素質が



七〇パーセント、生まれつきはどうにもならんという論者である。

ジョリは要するに「悪い犬」なのだ。

取り柄は丈夫で病気をしないこと。車に酔わないこと。顔がかわいくて、楽しめること。美人の悪女である。

犬にはそれぞれの種類独特の特徴があるらしく、主人にめちやくちやに忠実というところは二匹ともなかった。要領がよくて適当なのだ。主人でなくても、誰からえさをもらっても平気である。スコッチテリアや芝犬などは忠実すぎて、困ることがあるら

しい。

いい犬であつたフォスターもそうだったが、二匹とも、主人が留守のとき、何かをひきずり下ろして食べてしまふとか、家の中でウンチをしてしまつたりなどの不祥事をしでかすと、同じ行動に出た。帰つてきても、いつもと違つて知らん顔。すつとすれ違つてそそくさとどこへやら姿をかくす。おかしい！と見てみると、やつているやつている、怪しからぬことを。

「あんたはほんとに悪い犬だねえ。はやく死んでしまいなさい。今度はダックス飼うからね」などひどいことをいつていた、その日が意外にはやくきてしまつた。

二カ月ぐらい前から、坂をころげおちるようになつて衰してきていた、といまになると思う。

朝晩顔を合わせても、じつと寝ていて立ち上がらない。シツポもめつたにふらない。声をかけても知らん顔で向こうを向いている。聞こえなかつたのだろうか。でもきちんと外へ出ておしっこもする。他人の姿が見えるとはえたてる。

その日も夫が連れてきたお客にほえたて、うるさいので檻のなかに連れこんだ。

お客が帰つて、出そうとしても出てこない。

「おかしいよ」と夫がいうので、行つてみると、と

ても辛そうだ。前足の間に顔を埋めて平たくなっているのだが、ただ寝ているというのではなく、ぐつてりして、何ともいえず苦しそうである。顔つきが変わっている。目がつりあがつて、シヨボシヨボしている。

「どうしたの、ジヨリ、どうしたの」といううち、いきなりゲツゲツと吐いた。茶色い固まりを二個ばかり。

あれれ、やった、と思ううち、顔をグツタリと左におとして、それつきり、動かなくなつた。

息をしていない。どこも動いていない。

「大変だ。ジヨリがおかしい。死んじゃつたみたい」

叫びながら夫にきてもらう。

「ほら、ほら」

夫は近寄ろうとして、近寄れない。おそろしくて、手が出ないのだ。私もだ。

「ね、死んでる、でしょ？」

ジヨリは両足の間に鼻を埋めて、顔がよく見えな

い。

「死んでる。死んじゃつたよ」

かわいそうに、かわいそうに、と私がいうと、夫

が両手で顔を覆つて泣き出した。

んでも泣かなかつたこの人は、犬が死ぬと泣くのである。もちろん私も。

あれからまだ二日。

家のなかがほんとに淋しくなつた。ただ寝ているというだけでも、生き物がある、ということは大したことだつたのだな、と思う。

「破る子のなくて障子のさむさかな」ではないが、たべものをだしつばなしても、屑籠をテーブルの上にあげなくとも、かまわない。床の上にある屑籠を見ると、ジヨリを思いだす。あいつもいなくなつてしまつたのだな、と思う。悲しさがこみあげる。

ほんとに悪い犬だつた。しょうのない犬だつた。でも、ジヨリはやはり、家族の一員だつた。

私たちはもうすぐ七十歳だから、もう犬は飼えない、と思う。犬を残しては死ねない。夫は「いい、ぼくは八十五まで長生きする。もう一度飼う！」という。

しかしその彼も、犬のいなくなつた淋しさとともに、ある解放感を感じているらしく「朝起こされなくていいでしょ」と私がいったりすると、否定はしない。

犬をもう、私たちは飼えないのだろうか。飼わないほうがいいのか。

(え・佐藤瑞江子)

マイジョブ・マイホビー

シルバータウンの住人

東京都足立区●福田幸子（50歳）

私は昨年の九月に、「介護ヘルパー」を養成する職業訓練校を受験した。五倍という競争率ゆえか、私の力不足か、補欠合格であった。

小柄な面接官に「机上の勉強より実践で

すよ。あなたのように体格のよい人は」と言われ、

「私はきちんと勉強してから、ヘルパーとして活動したいのです。よろしくお願いします」

と言いつつのだが……。

今、私は老人介護センターなるシルバータウンというところで働いている。担当は四階の寝たきり痴呆老人が多いフロア。

センターの介護ヘルパーは、入居者の洗濯や部屋の掃除までする。勿論、食事介助、入浴介助、オムツ交換、清拭、便の管理、血圧・体温測定、水分補給と限りなく仕事は続く。一日が終わると足は大根のように浮腫み、体は重い帷子かたびらをかけられたようになる。しかし心は軽く弾み、爽やかな気持ちで家路に向かう。

それというのも、入居者がそれぞれの個性とその人なりの自己主張をして、私に心地よい刺激を与えてくれるからだろう。

九十九歳になるきよさんは、舌を上手に操れないのに、懸命にことばを探す。

「あ、あ、ありがたい」「お菓子ちょうだい、この二つが口癖である。「何歳です

か？」という問いには、必ず「七十四歳！」と得意気に言う。彼女の人生の中で一番よい歳であったのか、それともそこで思い出が止まってしまったのか。

ある日、彼女が私に「名前はなんというの」と聞くので、「幸子です」と二度繰り返し教えた。覚えていないだろうと思ったが、次の日「私の名前知ってる？」と尋ねてみた。

「うーん、サッチャン」と返ってきた。

「すごい、覚えてくれたの。すばらしい、ありがとう」

と私は思わず、彼女の手を握っていた。

細い目を顔中のしわに溶け込ましさらに細くして、きよさんは嬉しそうに私の手を撫でていた。

毎日帰りに、必ず挨拶をしにいく梅子さんは九十七歳になる。私の姿を一日見ないと、

「今日は一度も顔見なかったね、どうしたの」と言ってくる。

彼女はオムツ交換の時や、診察（一日お

きに病院から医師が回ってくる)の時、両手を挙げて待っていてくれる。私は、やりやすいようにしてくれていると思っっているが、医師は病状の一種と思っっているようだ。食事はミキサー食(流動食)なので、元の料理がなんなのかまるで分からない。配膳の時、普通食を見てメニューを教えてあげる。

彼女は左耳が全然聞こえないので、右の耳元で「全部ませないでね」と念を押す。「うんうん、おいしそうだね」そう言いつつも、私の目の前で、おかゆの中におかずもデザートも全て混ぜ合わせ、満足そうに食べてしまう。観音様のような雰囲気漂わせている彼女を見て、私は何も言えなくなる。

浅草の仲見世で和装小物店のおかみさんだったという八十七歳の松子さん。彼女はボケ(私は痴呆ということばを余り使いたくない。同じだというけれど……)の症状として、よく言われる徘徊行動をする。

「頭が痛くて目が回るし、疲れたわあー」と言いながら、四階の廊下を歩き回る。

「子どもはよそ様が何と言おうと、母親の



私がよい子だと思えばそれでいいのよ」と子育て論を私に話す。

「うん、本当にそうよね」と答える間もなく、「どうしてこんなに細い腕になったのかしら」と自分の血管の浮き出た腕を撫でながら、私に聞く。

「私も同じよ」と言っ腕を見せ合う。

「若くていいわね」

「いくつに見える?」

「そうね、二十二、三歳かな」

「松子さん自分はいくつだと思っ?」

「そうね。私は二十四、五かしら、たいして変わらないと思っわよ」

「えー、そうね……ハハハ……」

彼女の家族の希望で、昼間はオムツを外している。時間を見ながらヘルパーがトイレに連れて行く。ズボン、パンツの下ろし方から便座に腰掛けること、始末の仕方その都度教えるが、四カ月経つた今も覚えられない。

「悪いわねー、あなたに手を掛けさせて。でも、あなたがいてよかったわー」とトイレに行くたびに、口癖のように言う。

手も足も身体にくつつけて、亀のように



丸まっているいちさん。風呂介助、オムツ替えなど身体に触ると、

「うおおー、うおおー、イテエーイテエー」と叫ぶ。声だけ聞いていると、老人虐待しているのではないかと誤解されそうだ。

ヘルパー二人、汗だくで彼女に取り組むが、足で腹や胸をけとばされ、どこにこんな力がひそんでいるのか信じられないほどである。

彼女は手を握り込み、脇も締め、そのままにしておくともして皮がむけ、爛れてしまふ。そのため毎日、指を一本一本伸ば

し、指の間、手のひら、脇などを消毒液で濡らしたタオルで拭く。「痛いよね。ごめんネとなだめつつ、毎日彼女の叫び声を聞きながら介助している。

九〇キ口はあろうかと思われる巨体を、脳梗塞のため動かせずにいる、七十四歳になる和夫さんは、ボケてはいない。それだけに辛い毎日なのではないかと私は思う。

「コーヒー入れて」「枕高くして」「フトン掛けてよ」「おかゆ食べたくない」。さぞかしワンマン亭主であったことだろうと思うが憎めない。入院している実家の父と

姿がだぶってしまったのだ。

その彼が、「あんた見ると涙がでるよ」と言う。「どうして？」と聞いてみた。

「分かんないなあー。どうしてだろう」と涙をにじませている。亡くなった奥さんの写真を大切にしている、先日の母の日には消灯台（サイドテーブル）の上に飾っていた。

「エーン、エーン」と幼子が人を求めるように泣く君子さんは八十四歳。食べることを楽しみにしている人である。小柄な彼女は、食事の時座布団を敷いて少し高くないと、ベッドにセットされたテーブルに届かない。

いつもまずはトレーの上の料理を、じっくり目で楽しんでから箸を付ける。首を回すことができない彼女は、人の動きを目で追う。その仕草がからくり人形のように、思わず周りの人の笑みを誘う。

ある日、あまり泣いてばかりいるので涙を拭いてあげながら、「可愛い顔がぐちゃぐちゃになるよ。目が涙で流れてなくなるよ」と言った。

「嘘ばかり、子泣きババアって言いたい

んでしょ」と言い返してきた。

同室の向かいのベッドの人は彼女を見て、「お地蔵様があそこに座ってる」と言う。そんな雰囲気を持ち合わせている君子さんは、四〇一号室の人気者である。

松子さんが食事用のエプロンにタオルやスリッパを包み、荷物を作ると、それを持って後に付いて歩く男性が、七十六歳になる一男さん。

税理士だったという彼は、「証明書もらえますか」とステーションのドアをノックしてやつてくる。朝の着替えの時には「仕事に行かなければならないので、三つ揃え出して」と必ず言う。いつまでも現役だと思っているのは彼ばかりではないが、ボケてしまつてからも、仕事仕事とそれから抜けれられない悲しさがあるように、私は感じられる。

「ガイドさん！ ガイドさん！」と私たちを呼び止める二郎さん。部屋の割り振りや、食事の心配をするので「旅行会社に勤めていたの」と聞くと、「そんなことどうでもいいじゃないか」と怒る。どうも自分が答えられないことには怒りを覚えるらしい。

「かあちゃん、かあちゃん」とベッドの上で念仏のように唱えているのを聞いた私は、「本当のお母さんのこと、それとも奥さんのこと」と尋ねてみた。



「奥さんのことだろうね」と他人事のように照れて言った。その顔の嬉しそうなことってない。大声出して「ねえちゃん、ねえちゃん」とヘルパーを呼び寄せる顔とはまるで違う。「奥さん幸せだね。きつと喜

お友達に“わいふ”をおすすめください

新しい定期購読者をご紹介くださった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

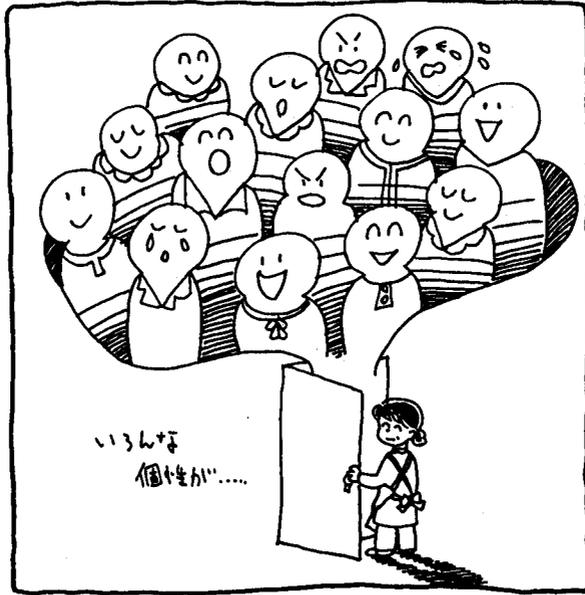
●定期購読者をお一人ご紹介くださることに誌代プラス送料とも一号延長。

“わいふ”年間分をプレゼントにお使いください

●結婚、赤ちゃん誕生のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにごつぞ。お申し込みいただければ、まず新読者にきれいなプレゼント・カードをお送りしてお知らせし、以後毎回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介の場合と同様に、お一人につき一冊分延長させていただきます。

●また多数ご購入くださる方は割引のご相談に応じます。



んでいるわよ」「そうかなあー。そうだといいけど」と、どんぐり眼が糸になった。毎日毎日少しずつ変化する彼女、彼らと接して、私は老いて生きるという意味を改めて考えさせられている。

ヘルパーとして勤め始めて六カ月。たいへんといわれるオムツ替えには初めから抵抗はなかったが、入れ歯洗いにはゾッととして鳥肌が立ってしまった。それも今では慣れ、毎回食べカスで一杯の口の中に指を入れ、嫌がる人の入れ歯も取って洗う。

「さっぱりして気持ちいいでしょう」と言う私のことばに、「うん」と頷いてくれるのが励みになっている。

四階の住人は三十八名。そのうち男性は九名である。食事の取り方にしても、話し方にしても、至って元気なのは女性。何かしてあげる度に「ありがとう」「すいません」も女性。ベッドから移動する時、怖がるのは男性。

まだまだたくさん個性に出会い、私を励まし、感激させてくれることだろう。

(本文中の人物は仮名)

(え・小宅昌枝)

ふだん着の虫草あそび

足もとの自然と仲よしになる22の方法

奥菌壽子 著

大阪市旭区 春菜ももこ

とにかく家庭菜園というものをすこくしてみたくなる。興味はあるけど、面倒臭そうで……!と思つて躊躇している人は結構多いのでは? かく言う私もその一人。が、この本を読むと、やってみようという気になる。というのもおきまり

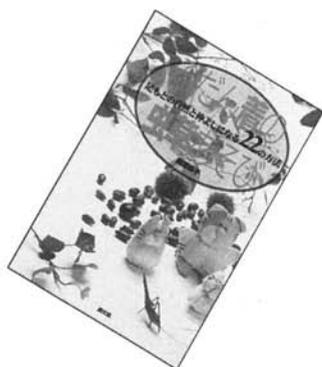
の「How to本」ではないからだ。堅苦しくない、難しくない、面倒臭くないのいいからとにかく楽しんでやおうというところがいい。にんじんのへたやカボチャの種を観葉植物化してしまうところなど、主婦らしくつて好感度花マル。

家庭料理研究家である著者は、面白い野菜料理を披露してくれるが、私が一番感心したのは、野菜くずを使った野菜染

めと、出来上がった染め物で作るメモクリップやくるみガビヨウだ。それは著者が試行錯誤を繰り返して編み出した傑作なのだが、その辺りの事情がエッセイ風に語られ、思わず苦笑してしまう。

また、ふんだんに織り込まれた大きいデッサン風イラストを見ているだけでも得した気分になる。図解として片付けるには勿体ないシロモノだ。とりわけ、街角の風景やハトウオッチング、著者の父親の書斎のデッサンなどは必見。

ざりがにの子供達をザリズジュニアと命名し、コンポスターの中を風と谷のナウシカのオームに見立て、道端の草花をメルモちゃんのキャンディート、とにかく楽しい。ウォーリーをさがせのオド



ローやとなりのトトロ、何と志茂田景樹氏まで飛び出してびっくり面白い。

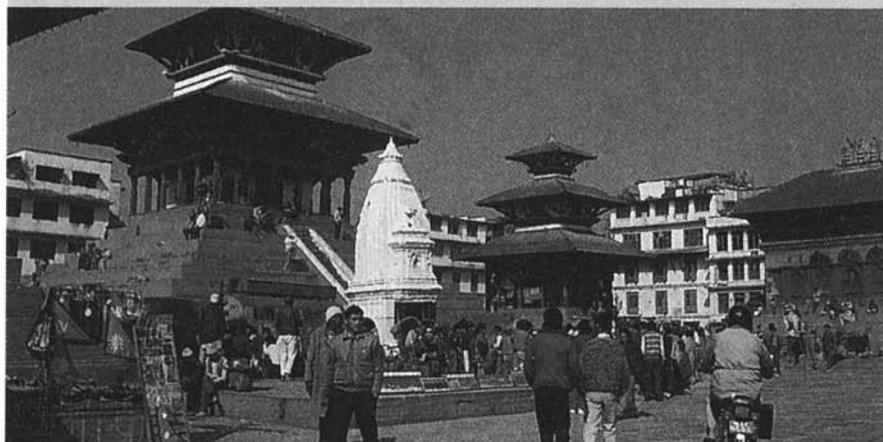
自然と楽しく暮らすヒントのオンパレードで、一緒になつてきよつとしたり、くすつと笑つたりと最後まで飽きることがない。単に素敵だわ、楽しいわにとどまらず、普段忘れていた大切なこと(エコロジーやアウトドアライフも現実には厳しい)もきつちりと押さえてある。ほかほかとした読後感で、自然が大好きになる素敵の一冊。ちよつと立ち止まって息をしてみようと思わせてくれる。

農山漁村文化協会 一三〇〇円

インドから来た 明治の男 ①

東京都武蔵野市

カトリ 薫



まず両親に感謝を

「ねえ、インド人と結婚するって本当!? エイズにならない? だってインドってアフリカにあるんでしょ?」

これは私の元同級生が、結婚前の私に実際にかけてきた電話。

彼女にしてみれば、私を心配しているということなのだろう。

「ちよつとそれは、インド人にもアフリカの人達にも、HIVに感染してしまった人達にも失礼だなあ」

「何から説明しようかな、そう、インドはね、中国と地続きなわけよ、だってほら孫悟空が歩いてつたんだから……」

縁あってインド人と結婚した。国際結婚が増えているとはいえ、まだまだ珍しい。だからこういった質問を受けるたびに、それをインドを知ってもらうための機会と考えたいのだ。いちいち怒っているは一生涯ため。

私につかまっただが運のツキで、それ

から延々と地理やらHIVの感染の背景にある人口（避妊）問題、身売りの女性問題までひとくさり。これで彼女もこれからインドを含めたアジア、アフリカ世界に興味を持ってくれるといいのだけど……。

「なんでまたわざわざインド人なんかと！」と、ここまでハッキリ言う人もいたっけ。

これに関しては、私は正反対の意見を持っている。

「インドは今でも古い習慣や宗教行事が生活の中に色濃く入り込んでいますよ。それなのにそんな知識を全く持たない外人の嫁なんかを、よく長男の嫁にしてくれたと思わない？」

その他こんな答も用意されている。

「白人と結婚した日本人女性って、旦那様の周囲から、なんで東洋人なんかと！って言われてやしないかなあ」
無知には優しく、偏見には手厳しく、

国際結婚はパワーがいる。日本人は日本人と結婚したほうが楽だなあ、と

にかくめんどうくさいことは少ないのに、と思う。それでも自分が選んだ相

しれない。

そんな私の結婚を祝福してくれた両



ワークキャンプにてひと休みしてココナツジュースを飲む私

手が外国人であった以上、きつとたぶん、それは自分の国と相手の国に関して何か縁があり、もしかしたらちよっぴり使命感のようなものもあるのかも

親には、私は本当に感謝している。

国際結婚をした人達の中には、残念にもどうしても親からの祝福を得られなかった人も多い。それがもとで別れ

てしまったカップルも知っているし、強引に結婚し実家との縁を切った女性も知っている。私はなんと幸運であったことか。

「両親がよく賛成してくれましたね」この質問はよく受けるので私の場合の話をしてみようと思う。

実は夫との結婚を両親に打診するにあたって、なんと私はインドで古い師に相談をしたのだ。すると古い師は「一月十日にその話をしなさい」と言うではないか。せっかくだから私はその日を待った。

さて、当日。夕食も済み、私は話を切り出そうとお茶などいれていた。そこへ父が、

「おまえ、そろそろ結婚するつもりはないのか」

と言いだしたのだ。私はもう、息が止まるほど驚いたのだが、やっと、

「実はね、そのことで話がある」と、答える。

「相手は外国の人か」

「はい」

「そうか……(しばらくの間)わかった。詳しいことは明日聞く。今日はここまでにしよう」

父はそう言っ部屋を出て行ってしまった。その間わずかに三十秒。私はあまりにも想像していた展開とくい違うこの反応に、ただただポカンとしていた。

今思えば、そのころ夫は毎日のように私にエメールを出していたので、父はそれをポストに発見するにつれ、心を決めていたのではないかと。そして、その次の日から毎日四、五分ずつの会話が続いた。

「その人にはどんな家族がいて、どんな仕事をしているのか」

私が詳しく答える。

「そうか。じゃあこの先はまた明日だ」

こうして父は毎日少しずつ、経済的なことや私が彼を選んだ理由などを質問し、一週間かけて自分の気持ちを整理しつつ私の気持ちを尊重し、結婚を許してくれたのだ。母も全く父と同じ気持ちで、ただ黙って私と父の会話を

毎日聞いていた。きつと苦しかったことだろう。

私はこんなにも大切な人生の論し方を他に知らない。

もし私が単なる気軽な気持ちで夫を、そして国際結婚を選んでいたら、私はあの一週間の両親の真摯な熟慮に接するうちに、自分が恥ずかしくなっただろう。

そして今でもあの時のことを思い出すにつれ、自分が選んだ結婚に対する責任を思い、そして両親に感謝を新たにす。

夫との出会い

男性の好みをひとつだけあげると言われたら、私の場合の答えは「よく働く人」だ。

長いものに巻かれ、与えられたことだけをこなしているタイプの男性に興味はない。無人島に流されてもジャングルにほうり投げられても、ガンガン働いてドンドン開拓してゆくような人がいい。



ワークキャンプにて気の合った仲間と世話役の人と。前列一番右が夫、右から三人目が私

そういった人を見きわめるのに、これ以上効率のよい所はないぞ、というような所で私たちは出会った。

それは一九八五年の国際青年年という年にインドのオリッサ州で開かれた国際ボランティアワークキャンプ。私と夫は共にここで働いた。

「ウツソー！」とさげびたくなるような古く錆びたオノで木を倒し（切るのではない）、素手で根を抜き、遺跡の周囲の土地を整地した後に、並木になるように植樹。植えたまま放っておくと牛が食べてしまうので（!!）レンガを運び、水を井戸から汲み、セメントを練り、若木にガードを作る。

レンガも水も、頭の上に乗せて運ぶという原始的な肉体労働で、なおかつ無報酬というこのキャンプ、外人の子とチャラチャラ写真など撮って、学生生活の記念にしよう、というインド人学生で溢れ返っていたのだが、ワークが始まるや参加者は激減、

「今日はインドの男の子達五人も木の下で寝てるわよ」

と、ドイツやタイ、ニュージーランドからの女の子達が毎日落伍者を数える始末。

身分制度の厳しいインドで、こんなキャンプに遊びに(?) 来れるのは家に使用人をかかえているお坊っちゃまばかり。やがて外人参加者もトロトロと仕事をするようになってきたころ、ひとり口数も少なくオソロシイ勢いで働いているインド人に私は気付いた。

その日も暑かった。私達はレンガを運んでいた。女の子は一個ずつ、男の子は二、三個ずつを各自手に持ちダラダラと運んでいた。「えっ? 何あの人、ひとりで十個ずつ運んでる!」

私は今もはつきり覚えているが、その時に初めて夫に目が止まったのだ。あのだらけた雰囲気の中で、しかも人の倍近い早さで休みなく働いていた夫を、私は宇宙人を見るような目で見たものだ。

そしてその日の仕事が終わわり、皆でココナツの実のジュースを飲みながらおしゃべりをしているころ、その「馬



夫のすぐ下の妹の結婚式
インドにて

車馬しやうまのようなインド人はひとりでサツサと水を浴びて着替え、新聞など読んでいるではないか。

こうして夫に一目置くようになった



妹明美の結婚式の日。夫にとって初の日本の結婚式参列。右から私、父、夫、母。

わけであるが、とはいってもすぐに親しくなったというわけでもない。キャンプでは私自身も、悲しき日本人の習性とでもいうか、とにかく自分という

のもナンだがよく働いていたので、仕事をしているといつの間にか夫と私だけが働いているという状態が増えてきたのだ。

ついに、外国勢もサボリを決めこみ始めたということだ。自然と私達は二人で話をする機会が増えてきた。すると、今度はおもしろい反応が周囲におこった。

木の下で寝ていたはずの男の子達がモーレッツに夫にやきもちをやくのだ。男女交際がオープンではないインドで、ガールフレンドを持つこともできない彼らは、外人のかわいい子ちゃん（私のことである）と二人仲よく仕事をしているけしからんやつをイジメたのだ（だったら自分も働け！）。

こうして皆さんせっかくやきもちをやいて下さったわけだが、私達はデートをしていたのではなく働いていたわけなので、当時の私達は彼らが心配してくれたような関係ではなかった。ただひとつはつきりといえるのは、ああいった重労働を共にこなすということ

により、私達にはとてもしつかりとした信頼関係と、同志のような気持ちがある根づいた、ということだ。

結婚しよう、と決めるまで

では、なぜその後結婚しようと思うようになったのかというと、私の英語の勉強のつもりで続けた文通から、夫の性格もよく知るようになり、さらにはキャンプの一年後に私が再びインドへ行き、そして夫の家にホームステイをし、とても楽しく過ごせたからだ。

夫の家族とは初対面から他人のような気がしなかった。三人の妹達ともとても仲よくなった。この家族となら、一生楽しくやってゆけそうだな、と思つた。

結婚前に、結局私は計四回インドへ行っている。その間、インドへ行くにつれ、結婚を考えるにつれ、私はインド関係の本を読みあさったりするようになった。

その結果インドを知れば知るほど、あの伝統の国で外人の嫁がどこまで受

け入れられるものなのか、わからなくなつていった。

その上、私はそのころは、てつきり自分が単身インドへ嫁ぐのだと決めてかかっていたので、結婚には相当の心の準備が必要であつた。

インドに詳しい人々の間で言われることに、インドに一年いるとインドがわかつたような気になり、三年いるとさっぱりわからなくなり、五年いるとわかつた気になつていたことが恥ずかしくなる、という話があるほど。そこは偉大なる歴史を持ち、多くの宗教があり、そこへカースト制度やら州ごとに違ふ言語などが加わる複雑な国柄である。当時インドを旅行しながら、何度も自分に問ひ質したものだ。

「ここにお嫁に来れる？」と。

ベナレス（ヒンドウー教の聖地で、川にそつて火葬場がある）のほとりにしゃがみ込んで、火葬を見る……。炎に包まれていた遺体が灰になり、ガンジス川に流されて行く。それをボーッとながめながら、（私も死んだらこん

な風に焼かれることになるんだな」と考える（このことは、なぜかうれしかった）。

日本でもプロにさせられやすい私が油断しているうちに、両足それぞれに二十力所くらいをプロにさせられ、あまりの痒みに七転八倒……。こんなことでこの国に住めるのか、と涙を流す（プロぐらいでバカみたい）。

夜中トイレに起きて、便器の中にカブトムシより大きいゴキブリを発見してあつさり……。やつぱりこの国にはかなわない！と身を固くする（一体、この国の何にかなおうっていうんだか）。

夫の家の他でも、多くのインド人宅では私はホームステイをした。その目的はインド料理を習うことであつたが、インド人の家庭に深く入りこむことにより、その生活を知りすぎるくらいに私は知ってしまった。それは、インド人との結婚を考えている自分にとって、つきつけられた「踏み絵」のようなものだった。

女性の地位が低い。日常生活が平坦だ。こなさなくてはならない家事の量がハンパではない。もちろん、お金さえあればいくらでも人を使えるが、娯楽が少くない。当時はテレビも二チャンネルしかなく、映画や本などの文化的なものにも飢えそうであつた。

中流家庭の主婦は一日中家事をしている。チャパティーという主食のパンは食事のつど粉からこね上げて焼くし、米を炊くだけでも、お米の中にまじっている石やゴミをはじく作業から始まるので、おそろしく時間がかかる。水だつて、二十四時間出る町などはまずなくて、給水時間中に一日分を溜めておくのだ。

それでもインドへ行こう、お嫁に行こう、と決めてしまったのだから私も若かつた。でもそれは充分に考えた末のことだつたから、私なりに納得しで出した答であつた。

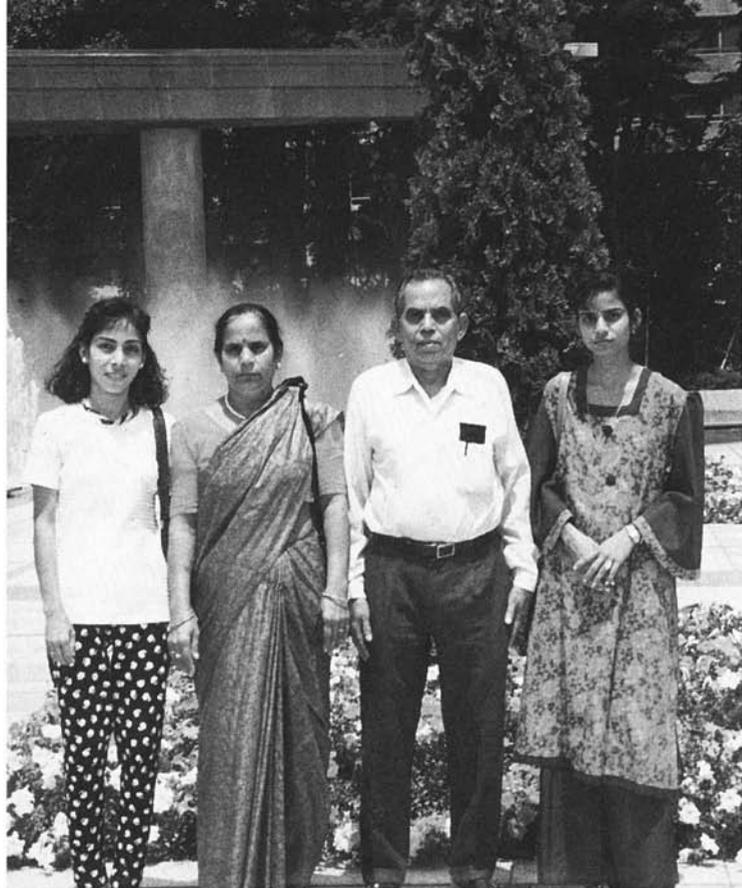
少々蛇足となるが、国際結婚を考えている人に、私は是非とも相手の国をよく知つた上で結婚の決心をすること

を勧めたい。どんなにすばらしい男性に出会つても、相手の国へまだ行つたことがなければ、行つてみてほしいと思ふ。

イスラム教国へ嫁ぎ、着いたとたん、その家では女は一足も家の外へ出られないと知り、数年のちに精神に異常をきたした日本人女性の話を聞いたことがある。イスラムには多くの宗派があるので、宗派によりかなり自由な家（国）からすごく厳しい家（国）まであるという。

インドでも田舎へ行くと、今でも庭の隅に、生理中の女性がある期間ですすための小屋がある家がある。その期間の女性は汚れているそうなので、隔離されるのである。

今ではごく少数となつたが、やはり、厳格な家にはまだ残る悪習……。隔離はしないまでも、普通の場合でも生理中にお寺へ入つたり、お祭りの際の神様の祭壇作りをしたりすることはできない。夫は、「だまつてりやわかんないからかまわない」というが、今のと



日本へ遊びにきた夫の家族
右から下の妹チャンダ、夫の父、母、まん中の妹のルツバ

ころこれは守っている。
なじみのない様々なことではあつても、それらをすべて自然にとらえてゆけるならば何も問題ないと思う。ただ、結婚したあとで、いくらでもびっくり箱を開けたようなことに出合うのが国

際結婚なので、まず、相手の国と家族だけはしっかりと見て知っておいたほうがよさそうだ。
ところがおもしろいもので、私の場合そうしてせっかくインドへお嫁に行く決心をしたというのに、急に話が正

反対になった。夫が日本へ来ることになったのだ。理由は、夫の父がそれを許可したからだ。夫はたったひとりの跡とりであり、その息子を海外へ出してくれるなどは、耳を疑うような話であった。インドでは普通ありえないことだ。

すぐに私の父は、東京の自宅を二世帯で住めるように直そう、と言い出した。

こうして私達二人がびっくりしている間にどんどん実家の工事は進み、二階は完全に私達の新居と改築され、父の紹介で結婚パーティーをする会場までが決まってしまった。

結婚前にいろいろと買物をしたり、新婚旅行のプランを作ったりすることに私もそれなりに憧れていたのだけれども、私はそれをすべてひとりで行うことになった。とはいっても家具はすべてもらい物、旅行は二泊で箱根であった。

—つづく—
(写真提供・筆者)



我が家のおばあちゃん

茨城県つくば市 山田永子 (39歳)

我が家の姑は現在八十七歳、今年一月に軽い脳梗塞で少し体調を崩したが、身の回りの事は出来るのでなんとか助かっている。もともと足腰が弱っているのでいつどうなるかは本人も周りもわからない。中学三年の長女、中学一年の長男、小学一年の次男、夫と六人で官舎に住んで十年になる。お互いの性格がわかるまでは色々であった

が、今はなんとか慣れてきた(十年、かかった!)。

とにかく姑は無邪気な人なのだ。なんでもかんでも思った事をすぐ口に出してしまう。朝刊、夕刊はすみからすみまで読み、色々教えてくれる(自分勝手な解釈も含む)。

狂牛病が連日テレビ、新聞でとりあげられている時、夕食に肉じゃが(もちろん牛肉)を出したら、「あ、これ牛肉? 私はいらぬから。狂牛病になりたくないもの。皆さんでどうぞ召しあがって」ときた。よく火は通っているから大丈夫なのだ。「みんなが死んで、自分ばかり生き残ってどうするの?」と思ったが、それ以後肉じゃがは豚と牛を混ぜたものになった(もちろん、姑は豚を食べる)。

〇157の騒ぎの時は、学校給食に出ているパンと牛乳も危険と思っただか、牛乳を絶対飲まない。三週間くらいつづいただろうか。「飲まないと骨そしょう症になって寝たきりになっちゃうよ」と言ったらすぐやめた。

「これだけ生きただからもういつお迎えが来てもいいよ」と常日頃言ってる割には、人一倍健康に気をつける人なのだ。毎日、食事の度、「栄養バランスがとれている」と言って食べはじめ。

三食作る私を思いやっつてか、「永子さん、献立たてるの大変でしょ？ 私は特別なものはいらなから。おいしいご飯と、おいしいみそ汁とおかずがちよつと、あと、おいしい漬け物があればいいから」と言う。ひとつひとつ指折っていくと、結局、全部おいしいものが食べたいわけね。

また、ある時は、「テレビで昨日、八千草薫が出ていたけど、あの人はいつまでも若いね」と言う。「あの人は童顔だから、いつまでも若くてかわいらしいんじゃない？」と私。「私も自分で童



顔だと思っけどどう？」ときた。「……毎日、見てるからよくわかんない」。側で聞いてた長男が「ああいう時はそう（童顔）思うと、言っつてあげればいいのに」と、あとで言う。言えはきつと喜んだよね。

それから、通販で買った白地に赤の花が散つたのと、同じく青の花が散つた二枚組のパジャマがあるのだが、赤い花のを着ない。「どうして着ない？」と聞いたら「一回着て、鏡で見てみたんだけどあんまりかわいらしくなっちゃって、トイレに立つた時、子供とまちがえられそうで」ときた。食事時で姑の隣に座つていた長男が小さい声で「絶対、子供とはまちがえないから大丈夫だよ」とボンボンつぶやいた。この子はいつても気のきいた面白い事を言う。たぶんそれは夫の性格を受けついでのだと思っつ。

夫は四十九歳、四人兄弟の三男だが私と結婚するまで姑と暮らしていた。もちろんものすごく親想いである。でもそれ以上に私の事も考えていてくれる。何気ない一言が心をホッとさせる。姑は悪気がないのだが、時としてキツイ事を言う（本人にはキツイ事を言っつているという自覚が全くない）。私が吐き気を伴うカゼをひいた時、夫は一週間の出張から帰つてきたところだった。吐き気

で苦しくて二階に上がりかけてたら、姑の「N夫も大変だねえ、疲れて帰ってきたのにお嫁さんが具合が悪くて」と言った声が聞こえた。がつくりきてふとんに入ってたなら、階段を飛んで走つてきた主人が「すまん、すまん、不出来な親で申しわけない」と深刻な顔ではなく、おどけた調子で手で私を拝む。おもわず笑ってしまった。

生まれてこのかた、一度も人様に対して悪い事を言ったりやったりした事がない！と言い切る姑（たぶんこれが年を取るといふ事なのだ）。時にその自信にうんざりもするが、結構楽しんでる自分もいる。

最近ではNHKの人間ドラマで一人の女が二人の男を手玉にとるような番組があった。（姑が言うには）「昨日テレビを見てたらものすごいペットシーンが出てきてびっくりしたよ。Tという女優でSの奥さんなんだけど、いやらしいねえ。なんだってまた、敬老の日の前日にあんな昔を思い出させるようなもの流すんだらう」と言う。

口に含んでいたごはんをブツと夫が吹き出す。娘も笑う。まさか、「そうか、おかあさん昔そういういやらしい事したんだ」と言うわけにはいかないが、あんまりしつこく悪い番組だと言いつるので、夫が、「精神衛生によくないのなら見な

ければいいじゃないか」と言った。「いや、私くらい年齢になると、この番組はいつたい何を教えてくれているのか、人生の教訓として考えてしまうんだよ。一生けん命、その言いたい事は何なのかを探して見てるわけだから、見るよ」と言っ



て、とうとう三週続けて見ていた。単に面白いから見る、という姿勢でいいと思うけど、そうはいかないのだ。その結果、「何を言いたいのかわか

らなかつた」らしい。NHKの方で誰かわかる人がいたら教えて欲しい（「照柿」という番組です）。

敬老の日が過ぎて市役所の方が姑の米寿祝いを持ってきた。それがものすごく豪華そうな大きな品物と賞状なので、姑はとても驚いていた。喜んですぐ開けるのかと思ったら、深刻そうな顔をしている。「こんなに期待されちゃって（どんな期待だ!?）私はものすごく重荷だよ。あんまり恐れおおいからパパ（自分の息子）が帰ってきてから開けてもらおう」と仏だんの前に置いていた。米寿になれば誰でも一律にもらえる物なのだが、そうは受けとれないらしい。夫が帰宅して開けたら笠間焼の茶わんと鎌倉彫りの小引き出し、賞状を入れる額二組が出てきた。

考えのわからない夫

長野県佐久市 鈴木まりも

来春には、長男も幼稚園に年中として入園す

る。しかし幼稚園に入れるのか、保育園に入れるのか、まだ決まっていない。入所決定がでたとか、でないではなく、親としてどちらへ願書を出すか決めてないのだ。

母親の私としては、近くまで幼稚園バスが来てくれる幼稚園に入りたい。長男の同級生となる子は、私の知っている範囲では、年少としてこの幼稚園に通っている。私の住むこの地域は、バスが通っていない。田舎は、ほとんど自家用車を持っていて、一人一台の状態だ。しかし六十五歳以上の女の人で、免許を持っている人はめずらしい。同居している姑も、車は持っていない。だからこの地域から通園範囲の保育園は、徒歩三十分はかかる。

そして、保育園に入れるには、両親とも共働きまたは、内職等働いていないとためである。私は、妊娠もしているし、長男の下にもう一人子供もいるので、働こうとは考えていない。当然私は、入所できる幼児の家庭ではない。そのような家庭は、幼稚園に入れてください、と市役所の厚生課にも言われている。

このような状況なら、幼稚園に入れればと思うが、主人は、どちらへ出すかは決めていないと言っている、と考えていると言って、会社から帰ってくる、



パソコンで遊び寝ている毎日の中で、何を考えているのかと聞くと、「ウルサイ」の一言で、話し合いなどできない。幼稚園の入所案内も、保育園

の案内にも目を通さずに、何を考えているのか、私にはさっぱりわからない。保育料の事なのか、何を考えているかはわからない。

幼稚園は、私立だが、大学まで行けるといった幼稚園ではない。小学校は、近くの公立（私立小学校などない）へ行く。幼稚園の教育がすばらしいから入りたい訳でもない。近所の子たちが、行っている。私が、どうしても迎えに行かれない時に、姑にたのおむ場合でも、歩いて五分もしない所にバスがくるのなら、姑も楽だと思う。

この地域は、子供の数も少なく、途中から同居する家庭は数少ない。アパートやマンションといった住居はないので、人の変動はない。だから同級生になる子の通っている幼稚園に入りたい。親としても知り合いを作る最初のきっかけだと思っている。私には、主人が、この状態の中で何を考えているのか、わからない。

来年もどこへも入園させないで、家庭で見ている訳には、いかないと思う。人見知りの激しい、家の中でイバって妹をいじめている子のままでは、困る。

何を考えているかわからない主人に、これから先ずっと、ついていくのかと思うと、心が暗くなる私だ。

い・族と私

神奈川県平塚市 匿名

先日その著書のまずタイトルに魅かれて、「どうせ死ぬなら上手に死のう」(集英社)を買いました。まだざっと目を通した程度ですが、第七章「妻が夫を残して死ぬとき」は、この一年半の私にとっても切実な関心事です。

「夫より妻のほうがたいてい多くのモノを持っていて。……だけでなく、家中すべてのモノを管理している」は、昨年死去した姑のケースにもあてはまります。散らかし屋の私と違い、姑は几帳面でも整頓上手でしたが、古風で律儀な主婦ほど、何でも捨てずに大切にとっておくものなのではないでしょうか。

姑の死後舅と同居するにあたり、舅の家を二世帯用に建て替えもしました。そしてその際に仮住居へ移る舅の身辺整理や、新居での二世帯合流など、双方の私物、家財道具を幾度か整理する機会もありました。でもいまこうして同居生活が始まると、その所帯道具のほとんど(特に細々した日用雑貨類)は、使用、未使用の別を問わず姑が管

理していたモノで占められています。

儒教道徳が強いといわれる韓国にさえ、「親三年病して孝子なし」という現実があるそうですが、こちらは「妻四月病して貞夫あり」とでも申しましようか。姑の発症からその死まで比較的短かった分だけ、舅の姑に対する心残りが強いのでしょうか。「おかあさんは、こんなモノまで大切にとっておいたのか」という舅と私の一種の驚きにしても、両者のニュアンスはまるで違います。



その舅にしても、それこそ断腸の思いで姑の私物や夫婦の思い出の品々を整理したのでしようが、その方法がやはり私の思惑、計画通りには運びませんでした。私にすれば「どれを残しておきたいか」を目安にしてほしかったけれど、結局「どれを処分すべきか」に終始してしまい、その分私をもとの住居から運び込んだ私物や道具類の収納に、シワ寄せがきてしまいました。

新居を設計する時に、収納スペースをずい分広く確保したつもりでした。でも何しろ舅側は、息子たちがそれぞれ巣立った後の空間を遊ばせず、収納場所に困ることがなかった所帯でしたから。「折角おかあさんがとっておいたのだから」という舅の切なそうな声に逆らえるほどの強さも、上手にかわせるような柔軟さも、まだ私の身につけていません。

舅にとつて姑は、その死後もかけがえのない存在です。でも血縁でもなく、一つ屋根の下で「家族する」こともなかった私にとつて、姑はずっと異族のままです。そしてその姑の遺族代表ともいふべき舅から、故人の思い出管理役を期待されるのが、同居三方月にして私には重荷になっていきます。

この家の最初のホトケ様として姑が祀られてい



る仏壇のおつとめを、毎日するのにも馴れました。舅に促されるまま、彼岸の入りには姑の墓掃除をする——固く絞った雑巾で墓石の隅々まで磨く——事自体が、特にイヤなものでもない。でも舅が熱っぽく語る「亡き妻の内助の功」を一方的に聞かされると、その姑が生前も死後も自分の舅や姑と同居していない点に、どうしても引つかかって

しまうのは、あるいは私の「嫁根性」なのかもしれません。

夫の家の墓に自分が入るのは遠慮したい。舅と同居してみても、舅と姑の、(核家族というより)創設分家初代夫婦としての自負、矜持や「子孫崇拜」の念の強さに、自分が以前から強い異和感を抱いていたことに、改めて気づきました。

私は戒名もいらないし、節目ごとに法事をして頂かなくても結構。……などなど、自身の葬送のあり方についてまた考えがまとまりませんが、件の著書を参考にしながら、「死ぬのに必要な手続きのすべて」の基本的知識をまずマスターしたいものだと思います。

夫、喪失記念日

東京都八王子市 浅川涼子

義母の一周忌が終わった。義母の兄弟、子どもたちは夕刻になると、順次帰っていった。

二カ月前に結婚したばかりの長女夫婦だけが残

り、私たち夫婦と食堂のテーブルを囲んで一息ついているときだった。長女がそういえば、と話した。

「おじいちゃんが私にいったことがあったわ。

『お前のお母さんだけは浅川の墓に入らせないぞ』ってね。おじいちゃんが入院していて、お見舞いにいったときだから、そのまま黙って聞いていたけれど、何度もしつこくいつていたわ」

「そうよね。私にも直接、いつもいつていたわ。恐い目で睨みつけて」

私は、それだけいつて、さりげなく話題を変えていった。

一時間ほどたって、長女夫婦も帰り、私は台所に立ち、食器を洗っていた。飛び散る水を手に受けながら、先程の話を思い出していた。長女は寺での法要から、ふと思いだして口にしてしまったのだろうが、義父がまだ未成年だった孫に、不用意な言葉を叩きつけていたことがひどくショックだった。まさか、そこまで、と怒りが込みあげてきた。そして、義父に必死に応戦していた当時の私の言葉が浮かびあがってきた。

「私だって、浅川の墓になんて、入るつもりはありません。どうぞ、ご心配なく」

でも、と私は食器を洗う手を止めた。墓に入れ

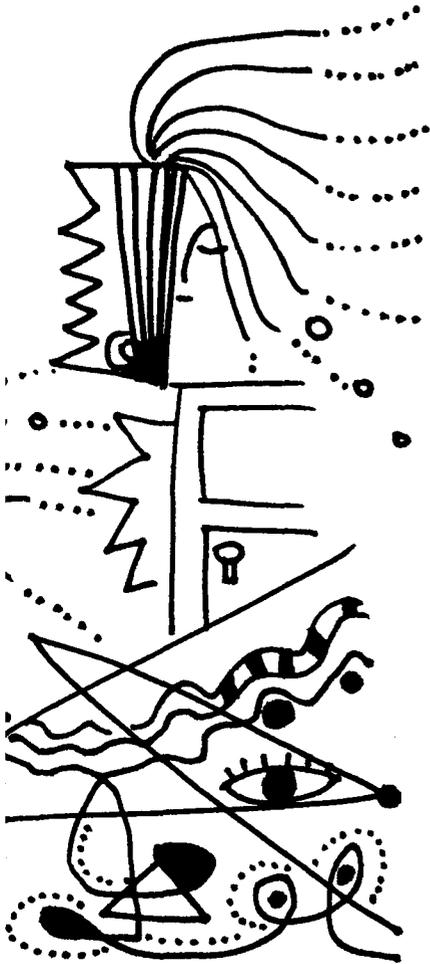
ない、と拒否されるようなことをしてきたのだから。婚家の名を汚すような不道德なことも、不謹慎なことをした覚えもない。若かった私が生意気で、逆らってばかりいると義父にとらえられていただけなのに……。義父の蛇のような執拗な目が恐くて、避けてばかりいたのも気にいらなかったのだろう。思いだせるのは、ただそれだけだった。

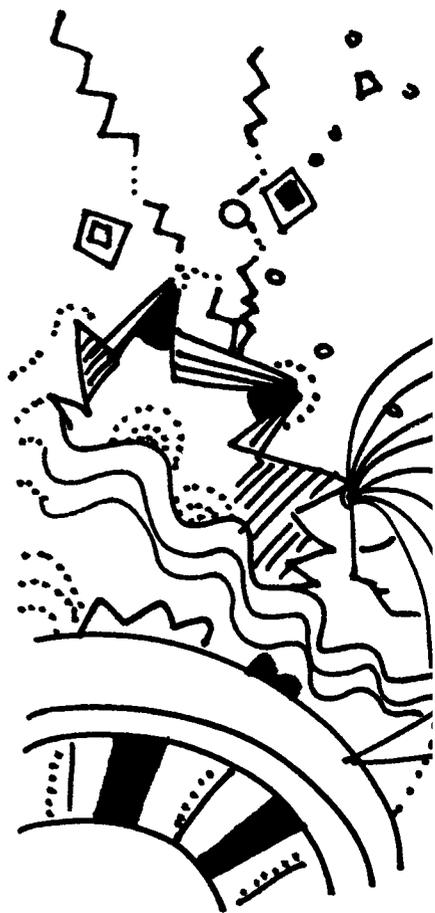
義父が私の一挙一動を監視し、欠点を探しているのがたまらなかつた。義父の気にいるように百の事柄を改めたとしても、またぞろりと百も二百も要求してくるのは明白だった。それで、それにも気付いた時点で、私は義父に反抗という形で応対

したのであった。それが気にいらなかったのだから。

私は、汚れた食器を前にして、そうだわ、と思わず独り言をいってしまった。義父は夫にも、同じことをいったはずだ。そのとき夫はどのように反応したのだろうか？

その日から私は、その疑問にこだわらざるを得なくなってしまった。夫がその言葉を聞いて、自分の父親に「何をいうんだ。涼子はぼくの妻だ。墓に入れないとは何事だ」と、いつてくれたとは、到底考えられなかつた。父親を乗り越えていない夫に、そんな啖呵がきれるはずがないことは周知の事実だった。





でも、もしかしたら、と僅かな期待があった。嘘でも「ちゃんといっただき。ほくの妻だからね」という言葉が、返ってくるかも知れない。嘘でも、そういつてくれたら、それはそれでいい、と私は思っていた。

○月×日、娘たちの帰宅が遅く、私たち夫婦だけで夕食をとっていた。お酒が入っていたけれど、夫はいつになく穏やかだった。私は、ことさら感情を抑えて話した。「お父さんが私を浅川の墓に入れない、とあなたにいったことがあるはずだわ。そのときあなたは、私をかばってくれたのかしら……」

私が話し終えないうちに、夫の顔色が変わった。手がテーブル上の食器をなぎたおした。食器が床に落ち、砕けた。夫がわめいている。「何を今頃、むしかえして、侮辱する気か」

初めから○・一パーセントにも満たない期待に、もしかしたら、と幻想を抱いた自分のアホさ加減に悲しいより、腹がたった。

この日、私は完全に夫を失った。もう夫に義務を果たす必要もないのだ。それもいいかも知れない。私は惨憺たるありさまのテーブルを眺めていた。涙はちつともでなかった。

(え・カステラネンコ)

私の 職場体験記

ああ、細切れキャリア人生

東京都三鷹市 田村理恵

親のスネをかじれるだけかじって、気がつくとも大学生活も一年間を残すところとなっていた。昭和五十六年の春。今から十五年も前のことである。大学での三年間をサークル活動に熱中して過ごし、確たるライフプランもたてていなかった私は、就職活動を目の前にして途方にくれた。自分はいつたい大学で何をしていたんだろう……そう思いながら、悠長に悩んでいる暇はなかった。とりあえず社会に出よう、そしてやりたい仕事が見つかったら、自分でお金をためてまたやり直そう。それが私の出した結論だった。

お勉強できる会社

私の選んだ会社は、証券業界では最大手N証券の子会社、N総合研究所である。まだまだ甘ちゃんだった私は、ここなら自分が大学でできなかったお勉強の続きが、できると思ったのである。ただの営利追求の企業には、ほとんど興味がなかった。

N総研は当時としては珍しく(就職戦線は四大女子冬の時代であった)四大の

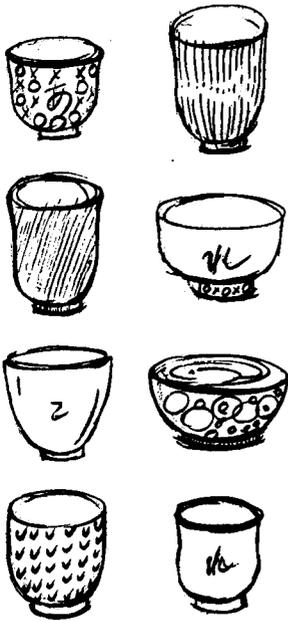
女子を短大女子より多くとっており、試験を受ける前の先輩訪問でも親切に対応してもらい、私はすっかり就職する気になっていった。競争率が高いと聞いて、父親の大学の先輩に当たる方に力を貸していただく手はず（いわゆるコネ）も整え、私は試験に臨んだ。他にも数社就職試験を受けたが、結果的にはN総研に入社することで落ち着いた。

N総研の本社は大船にあり、私が勤務を希望した東京支社は親会社N証券のお膝元、日本橋の裏通りにあつた。配属先は東京研究本部付きというところで、仕事内容は本来の研究業務ではなく、研究者と外部との橋渡し（講演や原稿の依頼の受け付け）や、研究内容を社内の発行物に載せるまでの手続き、そして研究業務を担当する現場の役員の秘書などであつた。女性はアシスタントだとは聞いていたが、研究員のアシスタントならいいと思つていた私は少しがっかりした。だが、業務が始まると、もつとがっかりすることが待つていたのである。

お当番

絵に描いたような新人の仕事が待つていた。お茶くみである。同じ部署の十人くらいの人たちのお茶を、朝の始業時と三時に入れるのである。色も大きさもバラバラの十人分の湯飲み（各自が自分の物をもつて来ている）を並べて、給湯室でお茶を入れる方法を先輩女性社員に教わる。私の部署は幸い（？）女性の新人社員が二人だつたので、そのお茶くみ当番は隔週でこなせばよかつた。他の同期入社的女性の中には、新人の女性が一人

だけの部署なので、次に先輩の女性が入るまで毎日お茶をいれなければならない人もいたようだった。お茶くみ当番の他に、別にお茶室当番というのもあつた。お茶をいれる給湯室の掃除を金曜日の夕方にやる当番で、これは新人以外の女性もふくめ、そのフロアの女性全体で当番を回していたので、三〇四方に一度回ってくるぐらいだつたと記憶している。もうひとつ思い出すのもいやな当番があつた。新聞当番である。新人女性だけに課せられたもので、朝七時までに出版社、ビルの地下の新聞受けに台車で新聞



をとりに行き（業務が業務なのでとっている新聞の多いこと！）、総務部にある各部署のメール・ボックスに仕分けする作業である。

早起きの苦手な私にこの仕事は辛かった。冬などはまだ真つ暗な六時前に家を出なければならず、寒さも身に伝えた。この当番が二週間に一日は回ってくるのである。新聞を扱う時に使う手袋（白い布製）が各自に支給されており、さすが情報を扱う会社と思つたが、その手袋はこの当番の時も活躍した。新聞は当然夕刊もあるので、二時半から三時くらいにも前述のようにとりに行き、各部署のボックスに分ける作業をした。

いつも脇役

私の担当する仕事は専務の秘書とその他の雑用であった。東京研究本部付きは、専務と常務の二人の役員をかかえており、常務の秘書をやっている女性Tさんのほうがベテランだった。

専務の秘書をやっている女性Yさんは、六月末で結婚退職することになってお

り、私はその後を引き継ぐことが決められていた。TさんとYさんから私は仕事のイロハを教わつたのだが、特にTさんの仕事ぶりは目をみはるものがあり、教えられることが多かった。

役員の秘書は本当にむなし仕事だった。やることはと言えば、スケジュール管理、電話の取り次ぎ、原稿の清書（まだワープロが始めた時期なので手書きも多い）、コピーとりなど、誰でもできる雑用ばかり。そのくせ役員が帰るまで自分は帰れないので、アフターファイブの予定もままならず、ストレスはたまる一方だった。

さしたる専門的な能力も身につけられず、このまま時間だけ拘束されて一年一年が過ぎていくのか……私はひどく落ち込んだ。なぜかTさんの私への風当たりも強くなり、人間関係もギクシャクして来た。ついに私は上司に相談し、異動させてもらえるように頼み込んだ。

入社二年目に他の部署に異動させてもらい、研究員のアシスタントをつとめたが、やはりやりがいは感じられず、結局

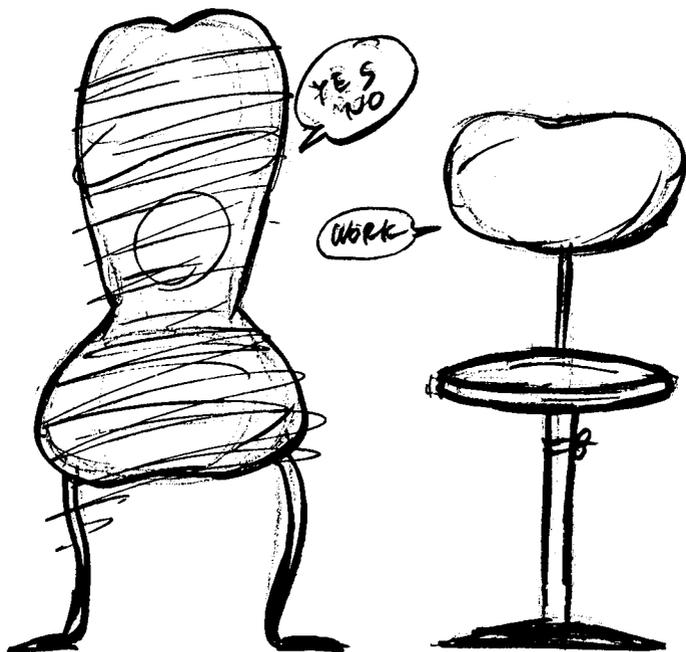
二年間で私はこの会社を退職した。退職金の金額も、自己都合で退職する人よりも結婚で退職する人のほうが多い会社であった。

ここは日本!?

N総研の後にも、私は派遣社員としていくつかの職場を経験して、二十七歳の時にはたと立ち止まって考えた。そろそろ自分の将来を考えると、正社員として働くほうがいいのではないかと。

一生結婚しないかもしれないし、早く安定した基盤を築いておきたい。仕事を思い切つてしばらく休み、英文タイプ、和文ワープロ、英会話の学校に毎日通つた。かたや新聞の求人広告や「とらばーゆ」にはしからはしまで目を通し、どんな求人があるのか、傾向をつかむようにした。

学生時代は英文科であったにもかかわらずあまり勉強せず、英会話は苦手だったのだが、学校に通ううちに面白くなり、英語を使う仕事で、長く続けられる仕事をしたと目標も定まってきた。



二十五歳以下という年齢制限の多い求人の中で、私の応募した外資系の数社は二十七歳まで、あるいは三十歳までという条件であった。新卒の時のような轍を踏みまいと慎重な取材も行なった。あらゆる手をつくして応募先に勤めている人を探して、社内の状況、働きやすさをインタビュー取材したのである。

一カ月余りの求職活動の後、スイス系の証券会社の経理課に採用された。外資の会社は初めてだったが、不安と同時に期待も入り混じり、第一日目を迎えた。オフィスは日比谷公園を見下ろす一等地にあり、真新しいビルの七階だった。

入ってみてまず驚いたのはデスクや椅子のモダンできれいなこと（イタリア製！）。ほとんど外国人ばかりの部署があること、外国人社員と英語で喧嘩している日本人スタッフがいたこと、回覧物などはすべて英語で書かれていることなどにも驚いた。私の働く経理課は平均年齢二十七歳、課長（二十九歳）がイギリス人なのを除けば全員日本人で、彼も日本語が達者なので不便はなかった。

私は出納業務、経費の支払いなどを担当していたので、他の部署の外国人社員とのやりとりも多く、その時は英語を使う。冷や汗もかいたが度胸もついた。オフィス内が禁煙なのも気に入った。

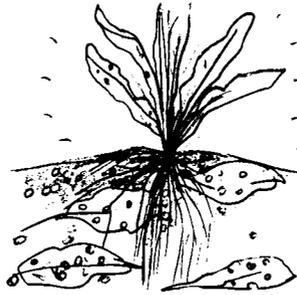
何よりも気に入ったのは、自分の仕事が終わったら誰が残つていようとさっさと帰つていいことである。お陰で私はアフターファイブの時間を英会話や英文経理の勉強などにあてることができた。他の社員も自己啓発に時間を割いている人が多く、刺激になった。

ただ、なかなか早くは帰れなかった。一人一人の責任が重く、仕事量もかなりある。明日早く帰るためには、今日は九時まで残業しておかなくてはならないという日々で、次第に私は疲れていった。

入社三年目の秋に結婚し、仕事を続けていたが、夫も仕事人間だったので平日は毎晩夫婦ともに外食していた。

決算の仕事が集中する一月から二月は毎日数時間残業し、休日も出勤しなければ終わらないほどであった。それなのに

同じ会社でも、他の部署では毎日ほとんど定時で帰っている人もあり、三週間の休暇を堂々ととっている日本人スタッフあり（外国人スタッフは三週間くらいとる人は当たり前）、社内での仕事量の偏りが目につくようになった。



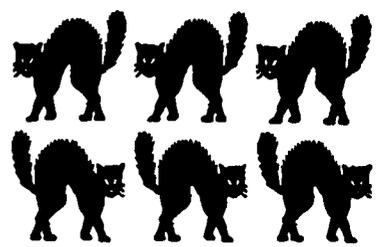
また、経理にいとどうしても会社のお金の使い方の汚い部分が見えてしまふ。外国人社員への手厚過ぎる待遇や、日本人社員間の待遇の違い（能力と比例していなかったりする）にも、腹が立つことが増えていった。

私は三年間この会社で働いた後、少し休養してそろそろ子どもをもちたいと考え退職した。主任に抜擢されて半年後のことだった。今でもちよつと惜しかったかなと思う。男女平等で、自己主張しやすい環境（自己主張しない人間は逆に生きにくいとも言える）、合理的で、さらつとした人間関係、……悪くない職場だった。しかし私のライフプランには結婚・出産・育児と、どのように仕事を両立させるかの視点が欠落していたのである。いやもつと本音を言うと、その会社の業務内容や経理の仕事そのものが、私にとつては苦勞して家庭と両立させてまで、やりたい仕事に思えなかつたのである。子どもが小さいうちは、自分の手で育てるべきではないかという強迫観念もあった。

現在私は三歳児神話もなんのその、二人の子どもを預けて在宅の仕事をしなから、家事・育児とバランスをとって一生続けられる仕事を探している。三十年後には濡れ落ち葉となつている亭主を尻目に、生き生きと働いている自分を夢見ながら……。



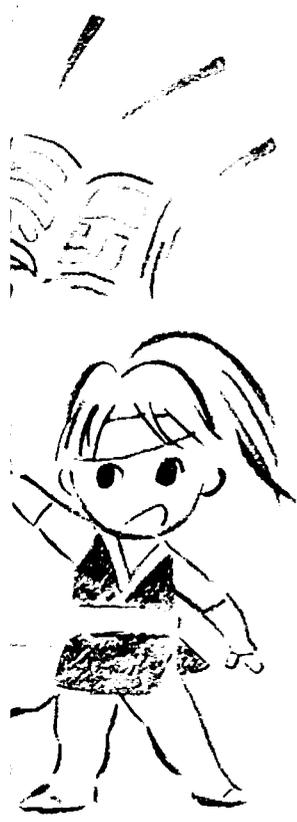
サーブ
レ
シ
ー
ブ



コスプレ

千葉県市川市 荒木裕子

二六二号私もひとこと「ナマでコスプレを見た」を読んでドキッとしました。実は、中二の娘がそのコスプレ予備軍なのです。



学校では漫画研究会に所属し、家では暇さえあれば漫画を描き、あちらこちらの同人誌即売会にせっせと出かけて行く……まさに漫画漬け少女です。

「コミックマーケット」というのはいわゆるコミック同人誌の即売会のひとつです。クリエイター（素人からセミプロまでOK）にとっては作品発表の場であり、コミ

ックファンにとっては作品や作者に出会える場とも言えはよいでしょうか。

他にも「コミックステイ」「コミックライブ」「コミックキャッスル」etc.主催者の違うイベントが、しょつ中どこかで開催されています。

後藤さんが遭遇したコスプレは、この即売会の余興のようなものです。テレビゲームのキャラクターやマンガの主人公の扮装をして売り子をやる人もいれば、仮装大会よろしく会場を練り歩く人もいたといった具合です。

おそらく、初めて見る人たちは「何だこれは！」と目をむいてしまうでしょう。実



際のところ、露出過多や悪趣味一歩手前のコスチュームもないとは言えません。そして、何と言っても「マニアの世界」ですから、一般の人たちの理解を超えてしまうのは仕方ないところです。大部分は手作りの素朴な扮装なのですけれどね。

娘は「今年の冬コミ(冬のコミックマーケット)でコスプレやるから」と宣言しました。生地を買い込んで苦手の裁縫にチャレンジしています。「先輩と一緒に本も出す」と張り切っています。そんな彼女を暖かく見守ってしまおうわたしはやっぱり親ばかなのでしょね。

ご感想ありがとうございます

東京都江戸川区 荻田一枝

二六二号「サーブレシーブ」に「人生愁恨」のご感想お寄せ下さった中野様。毎回とても楽しみに読んで下されたというお言葉、何よりの励みと喜びでございます。過

去の出来ごとを今更と、心の隅では投稿することに抵抗を感じていたのですが、読んで下さった方に感動を与えられる文章であつたら、それが何より一番嬉しいことでございます。ありがとうございます。

十二、三年前、わいふの会員になつた当時はエッセイなど何回か掲載して頂きましたが、近頃は専ら読者のほうに回り、若い人達の様々な文章に、感動したり批判して居ました。書きたいことはあつても投稿するまでに到りませんでした。「五十年も前のことを詳細によく覚えていましたね」とある人に問われましたが、日本に引揚げた翌年書き留めておいたものを去年の春、書き改めたのです。

飢えと貧困と屈辱の中で、私同様、四人のお子様を無事に日本に連れて帰られた貴女のお母様のご苦労、いかばかりだったか充分お察し出来ます。私も娘達には「人生愁恨」に書き記したことを話したことはありませんでした。もしお母様がご健在でしたら、共に心の内をあかしあえることもあつたのではと思います。

地球の向こう側、今でも戦火の煙がく

すぶっています。なぜこれほど人間は争わなければならぬのか。家を焼かれ、失い、土地を追われ、幼子を抱きしめてうつろな姿で佇む女性の映像を見るにつけ、平和を得た我々は何をしてあげればよいのか、迷うばかりでございます。

「イタドリ」を読んで

東京都武蔵野市 福田由利子(79歳)

二六二号「エッセイスト・クラブ」に載った広瀬さんのイタドリのお話、とてもなつかしく拝読しました。私が八歳まで暮らした祖父母の山里、愛媛県宇摩郡別子山村では、イタドリはタシツポと言っています。私は五十歳近くまで、タシツポの本名？がイタドリだとは知りませんでした。

春、タシツポが芽立ち始めると、私達子供は川原のそばのやぶの中をさがして、二、三〇センチくらいのを折り採り、塩を

つけてかじりました。大人達は大きな袋を持って、毎日毎日山を歩き、五、六〇センチほどの大きなタシツポを採って来ます。野菜の乏しい山里故、これを大きなたるに塩漬けにして冬までたくわえます。それを小川の流れに何日もさらし塩抜きをして、おあげや干大根などと一緒に炊きました。私はこの素朴な味が忘れられず、今も毎年塩漬けにしたものを、村の幼友達に送ってもらっています。イタドリがその土地、土地によつてずい分色々な名前で呼ばれていること、とても面白く思いました。ちなみに秋田ではサシポと言うそうです、秋田出身の方が教えて下さいました。

子どもの安全ヒモっていけませんか

東京都町田市 川久保郁実

二六二号の「私もひとごと」に子どもの

安全ヒモはかわいいそう、という意見が載っていた。そうだろうか。
二歳の子をつれて歩道のない道を歩いていた時、何かを見つけた子どもが、突然手を振りほだいて道路の反対側に走り出した。臨月に近いおなかで必死に追いかけて、抱きしめた。ちょうど対向車が来ていたが、子どもを見て危ないと思っていいたらしく徐行しており、急ブレーキが間にあって大事に至らなかった。



ほつとする間もなく、トラックの運転手から怒鳴られ、通行人の男性からは危ないから気をつけなさいと諭された。しかし、私は子どもの手をしっかりと握っていたのだ。車にも注意していた。普段から道路では走らないことを約束し、守らせていたにもかかわらず、である。

次にデパートに行ったとき、私は迷わず「安全ヒモ」を買った。いやがるといけないので家の中で何度かつける練習もしたが、結局使わずじまいだった。三歳近くになって、こちらのいうことをよく理解するようになったこともあるが、夫が犬みたいだといやがったことが大きい。今一歳の下の子は、外に行くときはベビーカーか抱っこにしている。

幼児の自由がなぜ車道で必要なのだろう。何か起こったときは、決まってお母さんの目が行き届かなかつたせいにされるが、一体どうすればいいのだろう。いくら言葉でしつけても、一、二歳児は動物的な動きをするのだ。安全な歩道をもっと増やして欲しいが、それより目の前のわが子の命を守ってやりたいと真に思う。

感情の一方通行に 寂しさ

神戸市北区 国沢 伶

二六二号「わいわいがやがや」で和田さんがお書きになった「なんでこうなるの!」。特技とするほど、よるこび上手、なのに逆に周囲はそうあつてはくれない、といったお話でした。

私も感情の一方通行に、寂しさを感じる
ことがあります。友人のお祝いにできるだ
け好みに添うものをと、選んで送ってもお

礼のひとつが帰ってきません。そして、お返しに洗剤などが、どーんと送られてきて、「ちよつとちがうんだけどな」と思つてしまいます(たしかに洗剤も使います
が)。

それから、連絡がいつもこちらからになつてしまうことが多いのです。手紙や電話もまめにする私ですが、ふとこちらからしないとなると、一向に先方からしてくれる気配がありません。迷惑だったのかも、と反省したりします。

和田さんもおつしやつていたように、こ
ういうことって、なんだかグチになつてし
まいますね。相手は悪くはないのだから、



結局自分の感情が行き場を失って、消化不良になりそうです。

でも、こうして未熟な私も、自分の感情と折り合いをつけることを覚えていくのかもしれない。

十河温子さんへ

東京都世田谷区 本庄たよ子

二六二号サーブレシーブ「肉まんを読んだ」のながはたみかさんの文を読みました。なんと温かく思いやりのある方と感じ入りました。私はお姑さんに同情して十河さんに少し怒っていたからです。

それから続けて十河さんの「老人介護のどこが辛いのか」を読みました。涙が溢れて彼女の心を抱きしめて上げたいと思わずにはいられません。拘束、排泄も辛い話だけれど、第三の自分の冷たさを思い知らされたことは優しいあなたの心をどん

なにか傷つけたことか。ご自分を冷静に省みていられるだけに、その辛さが伝わってきました。

私が夫にサラダボールをぶん投げたように、あなたはわいふ誌にその怒りをぶつけたのだったんですね。「わいふ」の編集部も読者も、あなたの辛さをきつと受けとめられたと思います。十河さんのお連れ合い、そして息子さんたちもあなたの文章をお読みになったのでしょね。家族が支えなければ介護者はダウンしてしまいます。

私も母が倒れてから九カ月、ごめん、有難う」と夫に言われるたびに、ひとりで介護している人の辛さを思い、文句を言ったらバチが当たる（なんと古い）と思つてやってきました。そして今、危篤といわれて半月、母は八十八歳の命を全うしようとしています。意識の遠のいた母を愛おしい思いで看ながら、私は介護の地獄を見ずに見送ることができたことにほっとしているのも本音です。

十河さんに何か気持ちを伝えたくて、走り書きしました。お身体大切になさってください。

お見舞い——私の場合

神奈川県中郡 石井しのぶ（37歳）

二六二号の時事放談「病氣見舞いさまごま」ではどちらかというとお見舞いがうれしかったという話が多かったので、お見舞いを少々苦痛に感じた自分の体験を書いてみたい。

私は去年の九月に乳房手術のため入院した。それまでの検査で良性か悪性か取り出してみないとわからないと言われ、手術するまでの一週間は心が落ち着かず、正直いつて誰とも話したくない心境だった。ところが入院したということはあつという間に知れ渡り、翌日には近所の友人三人がやってきた。普段はよくお茶を飲んだりする仲で親しいのだが、この時はまだ結果が出ていなかったもので、いつもの調子で笑って話を合わせるのはいやほいや苦痛だった。

そしてその翌日、今度は義理の姉がすごい見舞でやって来た。「近所に住んでいるのだから、入院するのでもよろしくとあいさ

つがあつても当然だ」と言うのである。私としては自分の一大事に礼儀や義理を考えられている余裕はなかつたし、後からゆつくり報告すればよいと思つていた。でも、いくら頭にきたからといって人がどんな気持ちでいるのかも考えずに、文句を言いにくる神経がわからない。そんなことならお菓子やお金を持つてお見舞いなど来ることはないのにと、本当に腹立たしかった。入院している側の者は見舞い客から逃げることはできない。せめて見舞う側は、相手を不快にする発言は遠慮するくらいの気づかいをしてほしいと思つた。私はこの時期、見舞い客と話すより、同室の人と話しているほうがずっと心が落ち着いていた。



手術の結果は良形で、私は四日後退院が決まつた。すると今度は駆け込みの見舞い客が次々と訪れた。全く日本人は根から儀礼的なことが好きなようだ。確かに心から心配してくれる人のお見舞いはうれしいものだ。でもお金や物を持つてこられると、逆に形式的なものを感じていやだつた。私はお見舞いは何を持つていくかより、どんな気持ちで行くかのほうがずっと大切な気がしている。

皆に見舞つてもらいたい？

千葉県八千代市 牟礼真衣子(48歳)

四、五年も前になるだろうか。久しぶりに友人に電話をしたら、元気がない。聞けば、乳がんの手術をして、ようやく、家の仕事ができるまでに回復したばかりという。幸い発見が早く転移などはなかつた

が、ご主人が単身赴任中だったため何かと大変だったとのことであつた。なぜ知らせてくれなかつたのか、との問いに、彼女は、「いままで食品添加物のこととか、健康にはいろいろと気を付けていたし、日々の暮らしの中で特別悪いことをしたわけでもない。なのに、なんで自分がこんな目に遭わなくてはならないのかと思つた」と答えた。

がんにかかったことを知つた人は、自分の生き方を非難し、罰があつたといわれるのではないかと怖いものらしい。だから日ごろ親しくしていた近所の人にすら知らせずに、手術を終えたとのことであつた。

もう一人、先輩の奥様も同じく乳がんにかかつた。入院、手術、退院を繰り返したが、不幸にも不帰の人となつてしまつた。彼女はかなり病状が悪化するまで、自分の親兄弟にも知らせず、ご主人の会社にいたつては二年にもわたる闘病中に完全に隠し通した。それは、周囲の人に迷惑をかけたくない一心からであつたという。

どちらの話も聞いたときも、私は心の底から悲しみとも、怒りともつかない重苦し

い気持ちがかみ上げてくるのを感じた。人が不幸にも病を得るといふことは、その人の生き方の結果なのだろうか。「罰があつた」などと陰口をきいたりする人たちがいるのだろうか。仏教の因果応報とは、こういうことを意味するのだろうか。先輩夫人は敬謙なクリスチャンで、「死」愛する神様のいらつしやる天国への旅立ち、という喜びである」といつも言っていたという。

確かに「日本人には喜びであつても、またいくら天国で会えるのだとしても、残された人たちはどんな風に心の整理ができるのか。私だつてお世話になつた方だから、お見舞いをし、最後にさよならを言いたかつた。また、親しい友人が闘病生活で苦しんでいるのなら、愚痴の一つでも聞いてあげられると思うのだが、それを阻むものは何なのだろうか。

つい先頃亡くなつた、フーテンの寅さんこと、俳優の渥美清さんが、近親者以外の誰にも病氣のことを知らせずに、亡くなつたことは記憶に新しい。何年もの間仕事を共にした、山田監督にさえ知らせなかつたという。人それぞれに考え方があつたのだらうとは思う。しかし最後の別れがかなわなかつた人達の気持ちを考えると、何か納得いかないのは私だけだろうか。

今、私は思う。私が病氣になつたら、一人でも多くの知人に見舞つてもらおう。特に永久の別れになるような状態ならなおのこと。自分の生きた過去を振り返り、色々な思い出をいっばい、いっばい持つて、神の国に旅立ちたい。私という人間のことを、一人でも多くの知人、友人の胸に留めておいて欲しいと思うのは、あまりに凶々しいことだろうか。確かに迷惑なことかもしれない。でも人が社会生活を営むこと自体、互いに迷惑をかけたりにけられたりして支えあつて生きているのではないだろうか。それともこんな風に言えるのは、たいして重くない病氣を考えているからだろうか。生死に関わる状態だつたり、ひどくやつれてしまつていたら、やつぱりどんなに親しい人にも会いたくないと思うのかもわからない。

人生半ばを過ぎ、いかに生きるかを考えるとともに、どのように最期のときを迎えるか、そろそろ考えはじめてもいいかもし

れないと、二六二号時事放談「病見舞いさまさま」をきつかけに考えた次第です。

発想の転換

大阪市旭区 宮崎貴子

二六二号の原ゆう子さんの投稿、おさな子を育てる「わいふ」読まない会員より」を読み、今まさに私が思つていた言葉にぶち当たつた。そこ「発想の転換」である。

四月に待ちに待つた希望の長女を出産した。しかし赤ちゃんの世話だけでも忙しいのに、長男の面倒だつてみなきやならぬ、もう毎日が飛ぶように忙しい。ああ、また一日が過ぎた、一週間が過ぎたと少し寂しい気分になつていたある日ふと思つたのだ。コマージュにもあつてはいないか、「昨日の写真は撮れないよ」つて。そう、この一瞬一瞬を大切にしようつて。自

分の意思で笑うことさえ出来なかった産まれたばかりのころの長女、ほんの六カ月ほど前のことなのに懐かしさがこみあげてきた。

三人目を産む予定のない私は、「自分の赤ちゃんをこうやって世話するのは最後なんだ」と思うと、毎日がとても大切な気がしてきた。毎日毎日の些細なことが心の財産になるんだって。ちよつと立ち止まっても、ゆつくり長女と過ごす時間を持つてみよう。過ぎた日は戻ってこないのだから。

(大学時代、毎日の大切さに気付かず、後になって後悔したのを思い出した。あの大学時代の渦中で、どうしてもっと一瞬を大切にしなかつたのかなって)

そして、幼稚園の送り迎えやおけいごごに追われて、てんてこ舞いの毎日だった、ちよつと気持ちを入れ替えれば、今まで長男のために費やしていると思っていたその時間こそ、私自身にとっても貴重な時間なのだと思うようになった。こうやって長男についてまわる(振り回される?)のだった、後一、二年のことなのだ。そのうちに一人でおけいごに通い、塾にでも行

くようになるのだろうか。目一杯一緒に時間を楽しもうと思った。

が、クワシイ智美さんの投稿マイジョブ・マイホビー「ライターになりたいが……」を読み、これもすごく分るんだよねあとうなずいた。興味ある講座を見付けても簡単に申し込みはできない。二月までやってきた塾の講師のアルバイトだって、未だ復帰できずにいる(いくらなんでも、母



サーブレーション

に二人いっぺんに面倒みてもらうのは気が引けて。「講座を受けて、幼児教育のほうもお願いしたいし、はやく復帰して下さいよ」と塾長のせつかくのお誘いにも、首を縦に振れない。そんな悠長なこと言ってる間に、私のポジションがなくなるのではないかと、はらはらしながら過している。

そしてもちろん私だって、クワシイ智美さん同様ライターになりたいと思ってる。今まで何かになりたいって夢を持ったことなんてなかったから、この気持ちを大切にしたいって思う。「いつか印税で真つ赤なフェラーリ買ってあげるからね」と夫に大きなことを言って、「ほんとーにありがとう」と全然期待されていないが、せめてホイールくらい買ってあげたいなあ……。子供をそばにおいて、いっぱいかまいたくって、でも自分の夢だって捨てたくなくって、そのために何かしたいし……どつちもレベル強つてのは結局中途半端なんだな。仕方ない、今は中途半端とことんつき合って、そんな今の時代を、後何年かしたら愛しい気持ちで振り返られるよう、頑張って生きていこうと思う。

(え・西宮さき)

自分らしく生きていく娘

横浜市青葉区 仲村加代子

最近娘は母親である私に痛烈な批判の目を向けてきます。

言葉の一言一言、動作の一つ一つ、とにかくすべてのことに厳しい目で評価しようとするのです。娘は、この春高校生になり急に大人びて、あれよあれよと思うまに私の手から飛び立って行ったような気がします。

それはあまりにも突然やってきたので、心の準備が出来ていない私は、とまどうものも大きいのです。

これは、れっきとした親離れの時が来たのだと分かっていても、その一言一言は胸にグサリと突き刺さり、とても悲しい気持ちになるが、表面は、なにくわぬ顔で、ここでひるんではなるも

大人になりかかった子供たち

のか……と対しています。

娘いわく、私が下品な笑い方をする（今まで自分では気がつかなかった）

とか、相手の言葉が、よく聞き取れない時の「エー」と言う聞き返し方とか、下品だとか、間違った事を平気で言う（娘が小学校の時、救急車を消防車と言ったと今頃怒る）とか、電車に乗ると車内を移動したり、吊り下げられた広告をじつと見る（読んでいるのです）とか、言えば切りがないほどです。

時には、負けてなるものかと、「自分の事は一人前に何も出来ないくせに、その前に自分の事は自分でしてから言えば!!」と私も喧嘩ごし。

しかしよくよく考えてみれば、遠い

昔、私も同じように母親に対し時期があつたのを思い出します。

私は、絶対そんな母親にならない、と決めていても、娘の目から見れば同じなのかしらと考えさせられ、反省もさせられます。

それでも、時には、私よりも一回り大きなおしりを、私の膝の上にデンとのせたり、「私のこと好き」と聞いた

りする可愛いところもあるのです。

これが、自立への旅立ちなのだったら、母親の私は娘の一言一言をしつかり受け止めてやらなければいけないのかもしれない。

それには、私自身が、しっかりとしたもの考え方、自分自身を高めるために、頑張らなくてはと、初めて「わいふ」に文章を送りました。



(え・田村幹代)

大人になりにかかった子供たち

わいふ原稿整理方針

- ◆投稿誌であるので、「原稿尊重」の方針で整理しています。
- ◆常用漢字表にない漢字または読みであっても、間違いない限り、原則としてそのまま載せています。ただし次のような語はかな書きにしています。
又↓また 程↓ほど 位↓くらい 為↓ため 頃↓ころ 丈↓だけ 方↓ほう 様↓よう 御↓ご 迄↓まで 良い↓よい 沢山↓たくさん 中々↓なかなか 善↓はず 更に↓さらに 但し↓ただし 何故↓なぜ e t c.
- ◆送りがなについては、一応次のような方向で統一しています。
例 変る↓変わる 浮ぶ↓浮かぶ 話合う↓話し合う 気持↓気持ち 行う↓行なう 表す↓表わす
- ◆用字用語の原則は三省堂発行「用字用語辞典」に準拠しています。

アトピー日記

娘がアトピー性皮膚炎になる

八年前の話です。

生後四カ月、わが子、千草が不調を訴えるようになりました。

頭の脂漏性湿疹は、真つ白く頭皮を覆い、非常に痒いようでした。ガリガリガリガリと、そこをかいてばかりいます。顔にポツポツと赤い湿疹も出ています。肌もカサカサ。

むずがって泣くことが多く、深夜まで泣きづめというところもありました。

アトピー性皮膚炎。

これは疑いようもなくその症状です。

しかし私は、アトピー性皮膚炎ということばが脳

裏をかすめる度に、それを打ち消そうとしていました。何かの育児雑誌に「赤ちゃんの時期によく出るもので、心配ない」と書いてあったじゃないかと。

私は、千草のこの症状は時期がくれば自然に治るものとタカをくくっていました。そう信じたかったのだと思います。何もかも順調にきていた育児に、アトピー性皮膚炎というつまずきは許されぬ。

マンションに閉じこもり、その大半を母子で過ごすこの時期、育児書通り順調に育ってくれないということは、恐怖に近いものがありました。

しかしそのころを境に、千草のアトピーは悪化の一途をたどることとなります。

千草は元気がなくなり、笑わなくなり、夜は夜で大泣きをするようになりました。からだ中に赤いポ

西尾裕子



ツポツ。首にもポツポツ。微熱もある。

私はとうとう近くのA病院を受診しました。病院では「多分、アトピー性皮膚炎でしょう」と言われ、血液検査を受け帰宅。検査結果が出るまで一週間かかり、その間は病院でもらった薬を飲みながら経過を見ます。

私は「アトピー性皮膚炎」ということばをどうしても受け入れたくありませんでした。検査結果が出てみないと分からないと、この期に及んで思っていました。

千草の状態はどんどん悪くなります。薬は全く効いていないようでした。頭の脂漏性湿疹は相変わらずひどい。顔全体がカサカサ。口の下の皮がめくれて、血が出ていることもある。私はそんな千草を見て、気がふさいでいることが多くなりました。

そして一週間。血液検査の結果が出ました。

「卵にアレルギー反応が出ています。母乳からお母さんの食べたものが出ますので、お母さん、卵を食べるのをやめて下さい。マヨネーズ、カステラ、クッキーなども卵が入っていますのでやめてください」とのこと。

やはり、アトピーだった。

こここのところの千草を見ていると、これをアトピーと言わずに何をアトピーと言おうとさえ思えるほ

ど悪化していたので、それはなんとか受け入れることができませんでした。もちろん、相当なショックではありましたが。

反面、卵にアレルギーがあるのなら卵をやめればよくなるという、少しほっとした気持ちもありました。

そして実は、頭のほんの片隅に、あれつという気持ちもあつたのです。牛乳にアレルギー反応は出ていないのかな。

白状します。

実は私は当時、牛乳とチーズを非常によく摂っていました。牛乳は以前から好きで、妊娠中も産後も水がわりにガブガブ飲んでいました。好きだったので飲まずにおれないという感じでした。そしてチーズ。育児のために家に閉じこもり、口寂しさにコーヒーとチーズのおやつが欠かせませんでした。一日に三度も四度も、ブラックコーヒーと厚く切ったチーズを食べていました。

検査結果には出ていない。先生も牛乳、乳製品は摂っていいですよと言われる。でも、頭の隅のほうでその不安は、小さくもやもやとしていました。

A病院での千草の治療は、卵の除去、抗アレルギー剤の服用、塗り薬を塗ることの三本立てでした。

しかし千草の症状は、全く改善されませんでした。

血液検査の信憑性の問題でしょう。血液検査では原因がつかみ切れない。アトピーというものは、いたい……。

あのころの私には、千草の湿疹の様子が生活のすべてでした。毎日千草の湿疹を見ては、ハラハラ、イライラしていました。

私の育児日記には次のような記述が並びます。

四月三日

布団が血だらけになつていたので、びっくりして見ると、千草があごを布団にこすりつけている。湿疹がかゆかったのだろう。あごが切れて、血だらけになつている。

四月四日

首、口の下、ほほが力サカサになつて皮がめくれ、赤くなり、ポツポツもある。大変ひどい。

四月十日

とにかく、頭、耳、胸をかくことかくこと。血が出るまでかく。今日は、耳と目の間が血だらけになつていてる。

四月十三日

目の横をひっかき、膿のような液が顔じゅうについてしまう。

四月十五日

発疹、大変ひどい。おっぱいを飲むと、ポツポツ

がサーっと出る。

千草はいつも、顔や頭のどこからか血を出してました。かき始めると慌てて手袋をしました。かこうとする千草の手をヒステリックに振り払ったこともあります。かゆいのにかけないことがどんなに辛いか、分かりそうなものなのに。

さらにこのころは、ほほからあごにかけて皮がベロベロにめくれて、黄色い膿のようなものが出ていました。それはもう人間の顔ではありませんでした。何か、怪獣の子どものような顔でした。可愛らしさというものが全くありませんでした。ほかの赤ちゃんのつるつるしたかわいらしい顔を見ると、ひ

どく落ち込み、泣けてばかりいました。

会う人、会う人に「アトピー？」と聞かれることも、私を辛くさせました。中には「早く治したほうがいい」と言う人もいました。

そんなこと言ったって、どうやって……？ 私はそんな言葉にひどく傷ついていました。毎日泣いてばかり。いつまでこんなことが続くのだろう……。

食事療法と出合う

ちょうどこのころ、書店で夫が「子どものアトピー」という本を買ってきました。アトピー性皮膚炎の食事療法の本です。冒頭のカラー写真に、千草に



似たような、湿疹で顔じゅうに赤いポツポツが出ている子や、顔じゅうにかさぶたのようなものが出ている子が、治ってつるつるになった顔写真とともに載っていました。

内容については大変厳しい食事制限をするというもので、その後この治療法に疑問が投げ掛けられることになるのですが、当時（八年前）はまだアトピーということばが今ほど聞かれることがなく、治療法もまちまちでした。たまたまその本を買って読んだことが、私のこの治療法との出会いでした。

藁をもつかむ気持ちでした。

千草のポツポツが治るのだったら何でもするといふ一心で、私はこの治療法をするB病院の門をたたきました。

この治療法は千草にとつては結果的によかつたのですが、必ずしもすべての子どもに合うものではないと言っておかなければいけないのかもしれない。私の入っていたアトピーの親の会の会報で、病院で言われるままに食事制限をしたが、いっこうによくならなかつたということが書かれることがあつたからです。栄養面でも疑問が残ります。

千草にとつて何か劇的によかつたことがあつたのだと思います。それは私が牛乳のカブ飲みをやめたことと、チーズをやめたことにあるのではないかと

密かに思っています。私は本当にバカな母親でした。

それからもう一つ付け加えたいのは、アレルギーには遺伝的要因もあるということです。お母さんがとても気を遣つてよい食事を摂り、よいおっぱいを出していても、子どもがひどいアトピーだということもあります。アトピーではほが赤くなっている子のお母さんに、「あなたが悪いんじゃない？」などと決して言わないで下さい。お母さんも傷ついています。アレルギー体質を受け継いでしまつた子で、それはもう、どうしようもない場合もあると思うのです。

アトピーは様々な要因で引き起こされます。それゆえ、治療法も子どもによつて様々です。

千草は、父親が多少アレルギー体質でした。ぜんそくがあつたようです。

一度その事を言つたことがあつたのですが、夫はやはりひどく傷ついたようでした。

原因のなすりつけ合いは絶対にいけない。

現実を見つめ、その子に一番よいようにサポートする。アレルギーとはじょうずに付き合う。何がなんでも一〇〇パーセント治そうと思うのはよくないかもしれません。

—つづく—

(え・小林正子)

おすすめの一冊

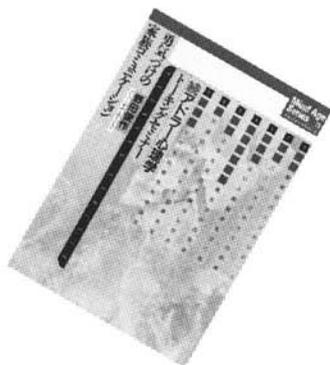
続アドラー心理学 トーキングセミナー

勇気づけの家族コミュニケーション

アドラー心理学上級セラピスト

野田俊作 著

東京都足立区 城築久代(38歳)



おまえの育て方が悪いからだ。
母親が最も恐れている言葉だと思う。
外に出られるようになった時から、果

ては成人、独立してまでも、子どもにト
ラブルがおきると、その原因が母親に向
けられる。「この子がこうなったのはあ
なたのせいだ」。別の母親から、見知ら
ぬ方々から、教師から、夫の親から、自
分の親から、そして夫からも。

子育てに悩まない母親がいるのだから
か。試行錯誤しない子育てなどないと思
う。

いろいろな方が、「愛情だ」「忍耐だ」
「ほめる」だのおっしゃる。なるほどと
思いながら、ピンとこない。困ってしま
う。

愛情のない親は稀だ。それなりに耐え
ている。叱るよりほめたいということくら
いわかっている。

でも、現実にはそうできない。原因を
追求してもうまくいかない。どうしたら
いいのかわからない。有効な改善策がな
いのだ。

核家族で専業主婦に育てられた子ども
が、母親になった今、子育てのサンプル
は自分自身が親にどう育てられたかしか
ない。そのよし悪しにもかかわらず。社
会も大きく変わっているというのに。

アドラー心理学は、親子のコミュニケ
ーションの方法を具体的に提言する。
よい人間関係というのは、ヨコの関係
だという。叱るのはもちろん、ほめるの

もよくない。タテの関係だからだ。ほめ
るのではなく、「勇気づける」。次の例
で納得できるだろう。

「手のこんだ料理を作って、旦那さんに
『えらいね、頑張ったね』って言われる
のと、『おいしいね』とか『ありがとう』
と言われるのとどっちがうれしいです
か(抜粋)

母親が実践、言動を変えていくこと
で、子どもが変わる。母親自身も生きや
すくなる。

親と子、夫と妻、教師と生徒、上司と
部下、友人関係などの対人関係に悩む方
へ贈りたい。

星雲社 二〇〇〇円

船乗りキハル氏航海日記

熊本県天草郡

松本とみよ

キハル氏は面白い

夫・キハル氏は貨物船の船員である。新婚当時、私は銀行に勤務していた。銀行は計算が合わないといつ帰れるかわからない所だ。「今日は仕事で帰りが遅くなる。夕食はいらない」と休暇中で家に居た夫に電話すると、「そりゃあ、残念だったな。今夜の夕食はピフテキだったのに」と答えるではないか。そうそう、言い忘れていたが、夫は船のコックなのだ。料理はおてのものである。

「エツ!!」と私がいかに無念そうに絶句すると、
「ハハハハ、うそだよ」

このように、夫はとても愉快的な船乗り。この人の行く所、笑いでいっぱいなのも当然だろう。貨物船に乗ってよく外国へも出かける。私は平凡な家庭に育った、ごく普通の女。それまでは、外国とは全く縁がなかった。それなのに、夫と話す時、オーストラリアとかカナダとか話が大きい。「話は大きく、生活は質素に!」これが松本家のモットーだ」と夫は私に微

笑んだ。

次に紹介するのは、夫が私に話してくれた超面白エピソードである。

夕食はサバの頭

キハル氏の乗船しているTRピック号の話。キハル氏が、この船に乗る前のこと、パチンコ好きのコック長がいた。いつしか、会社から預かっている食料費まで使い込んでしまった。

当然、料理がだんだん粗末なものになっていったのだが、みんな長い間、全然気がつかなかった。後になって使

い込みがバレ、そう言えばおかしな事もあったなあと思つたとか。

例えば、ある日の献立はこうであつた。前の日にサバの煮付けが出たと思つたら、翌日の夜はサバの頭の塩焼き。サバの頭つて普通は捨てるもの。食べるほどの身もついてない。それだけしか出てこなかつた。それなのに、不思議とも思わず黙つて食べたとか。可笑相な男共ではないか。

その話をみんな大笑いして聞いたそうだが、キハル氏は同じコックだけに、身につまされて笑えなかつたとか。

風呂にサメ

貨物船、和栄丸での事。外国へ行くともなると長い航海で、新鮮な魚を食べるために時々釣りをするそうだ。

ニュージールランドの南島はサメの多い所で、ある日、サメが釣り上がった。けつこう大きい。人間の大人ぐらいあつた。

船長が何を思ったか、士官用の風呂の中で生かしておくようにと言うの

で、風呂に海水をはって入れておいた。

ところが、通信担当の局長は、部屋にいたのでこの事を知らなかつた。いつものようにフンフンと鼻歌を歌いながら、ルンルン気分でする風呂に入ろうとやって来た。裸になつて、浴そうに片足つつこもうとしたら、いきなりサメがガバツと上がつて来た。びっくりしたなんてものではなかつたそうだ。

船にホモがいる

保育園のひろ子先生からおたよりが届いた。うちの千明に、

「お父さんは船員さんだから、海賊を見たことがあるかもね」と言つたところ、

「お父さんは、海賊の事は言われんけど、ホモとこじきはよく見るつて言わす」と答えたそうだ。

園児達が、「ホモつて何? こじきつて何や!!」と大騒ぎだつたらしい。

それには、こんな理由があるのだ。キハル氏は二十歳のコック見習い(サ





ラバウルにて
現地の人とキハル氏

ロンと言う) だったころ、まだスマートな体型でけっこうハンサムであった(本人の言うところによれば)。

ある日、船長から、そつと手紙を渡された。「部屋に来てほしい」と書いてある。船長室に行くと、船長が力チヤリとカギをかける。「???」と思っ

ていると、
「おれは、前からお前が好きだった」と抱きついてこられた。キハル氏は驚いて逃げ出した。

その後、キハル氏は、船長室の掃除には決して行かなかった。怒った船長から、「もう、俺の部屋のこととはしなくていい」と言われたからだ。しかし、そんな事情など知らない先輩からひどく叱られた。理由を言うに言えないキハル氏大変困った。

本人は何もなかったと言うが、私も現場を見たわけではないのでさだかでない。そう言えば、知り合つてまもないころ、彼はドライブ中にクラッチを踏みそこなつてエンストさせたことがある。その時の彼の一言は、忘れない。

「アラ!! 止まってしまったわ」とおねえ言葉を出したのだ。私は思わず体を固くし、目は点になった。私の疑いは晴れていない。

だが、こんな話を子供達の前で言うはずもないのに、なぜ千明は知っているのか。

こじきに関しては、駅に新聞かぶつて寝ているのをたくさん見かけるそうだ。

ロスでお尻を

ロサンゼルスは、麻薬の取り締まりがきびしい所。船がロスに入港した時、税関が検査にやつて来た。船員を全員集めて、

「ここで、お尻を見せろ」と言う。

「エエツ!! ここで? みんなの前で?」

みなガザワガザワとうろたえた。

「あのう、個人的にやつてもらえませんか?」

「NO!! オープン!!」

しつかり見られた。

「それで、あなたは他の人の時は目をそらしたんでしょうね」
と聞く。

「いやあ、めつたにない機会だから、見たよ、ちゃんと」

赤道の夕日、 港の女達

自宅のある天草は、夕日のきれいな所。光を失った大きくてまっ赤な太陽が、西の海へ沈む様は、この一瞬を永遠に切り取っておきたいと思うほど。

そんな時、キハル氏は言うのだ。

「赤道で見る夕日はきれいだぞ」

天草灘の夕日よりも美しい赤道の夕日とは、一体どんなものだろう。キハル氏には、あいにく画才も文才もないので想像のしようがない。一度私も見てみたいものだ。

キハル氏が船乗りになったのは、石原裕次郎の映画に影響されたという、ごく単純な動機から。結構楽しんでるし、よかつたんじゃないの?

船乗りには女はつきもの。港々に女

なんて俗説もあるではないか。私も船乗りと結婚するからには覚悟があった。浮気してもかまわぬと伝えると、

「お前はかわいくない」と言う。

しかし、私は言葉とは裏腹に、全くキハル氏の浮気を疑ったことはない。

「朝鮮で床屋に入ったらなあ。そこは普通の床屋ではなかつたんだ。なんともあやしげな場所だつたんだ。いや、俺は断つたよ。床屋だけやつてくれればいいって」

などという話も笑って聞くだけである。女の直感があたるのか知らないが、私の直感によると、キハル氏は「港々に泣かした女」ではなく「笑わした女」がいつぱいという感じ。

例えば、ニュージージラランドでは、港に船が入ると、女達がやつて来るという。

せんたくをしてくれたりするそうだが、福祉が充実しているので未婚の母になつても一向に困らず、日本人の子を生むことを望む女もいるとか。



バンコク
船の甲板から見た港の情景
船に來た氷売り

天国にいる夢を見ていたところ、いつのまにか船室に女が入りこんでいて、天国は本当の事であった、などといううらやましい経験を持つ船員もいるらしい。



ニューギニア
船にもこいに來る現地の人達
インスタントラーメンを喜ぶ

「女が一人余ってるから、キハルさんどうですか？ っていうんだが、むろん断ったよ。愛する妻がいますからね」
「ホントなの？」

どこまでが本当でどこからが嘘なのかよくわからない。まあ好きにしたまえ、キハル君。これだけは言えると思う。彼が世界で一番大切に思っている女は、私なのだと不思議と信じる事が出来るのである。割れ鍋にとじ蓋カップルではあるが、私にとってこれほど気の合う男性はいないと思うのである。どうしてなのかと考えていたら、ある日、図書館でその答を見つけた。

何気なく十二支の本を見てみると、私は申の四月生まれなのだが、それにぴったりの男性が卯の五月生まれとなっているのである。これって、私とキハル氏にあてはまるのだ。

驚いた私は、帰ると早速、そのことを姑に伝えた。すると姑はこう答えた。「それはよかったね。私と合わんだけの話で」

お義母様！ そこまで言う!!

ともかく、キハル氏のエピソードを聞いていると、私も今度男に生まれたら、船乗りになつてみようかなと思うのである。



茶髪にピアス……
大した事じゃない
でしょ!

東京都立川市 ● 本間玲子

茶髪を続けて二十三年。ピアスを開けて、二十四年目。

横浜で育った私は、高校生の時からずーっとピアスをしたかった。クラスメイトだった友人

は、夏休みにアメリカ在住の伯母さん宅へ遊びに行った時にピアスをして帰国したし、中華街の人々の耳には、素敵なピアスが光っていた。その当時は、お金持ちのおば様方が美しいピアスをしている姿も、私にはすごく魅力的に見え、ピアスは私の憧れそのものだった。高校を卒業して間もなく、知人の紹介でチャン街（中華街）のおばさんにピアスを開けてもらった私は、天にも昇ってしまいそうなくらい嬉しかった。

その後、化粧品会社に勤めた私は、ヘアカラーを知った。

十九歳から四十二歳の今日に至るまで、私はずつと茶髪を続けてきた。序々に年齢相応のトーンに色は変えてきたけれど、私は茶髪の私自身がとても気に入っている。

先日、小学校六年生の娘の保護者会に出席した時の事、担任



の男の先生が「茶髪にピアスは、不良の象徴だ」とクラス保護者達の前で発言した。

私はこの先生の発言に超ムカついた。すぐに挙手して、発言させてもらった。

「茶髪にピアスの高校生が、電車の中でお年寄りに席を譲ったり、小・中学生がカツアゲ（恐喝）されているのを助けたりした事が、新聞などでも報じられたりしていますよね。一方、フツウの高校生が援助交際（売春）で補導されたという話も報道されています。姿、形だけで不良とされる、しかも先生方がそのように決めつける事が、一番の問題だと私は思います、いかがでしょうか」と。

茶髪もピアスも、したい人がすればいい。嫌いなら、しなげればいいだけの事。

しかし、猫も杓子も茶髪にピアスのこの流れ……茶髪とピア

スにこだわり続けてきた私、早く去ってくれる事を密かに願っている。

どうまでやるの？

横浜市泉区●黒崎和子

暑い盛りにMさんから葉書が来た。以前は近所同士で、一緒にコーラスやテニスをした仲である。八年前に私が、五年ほど前に彼女が転居し、今では年賀状と暑中見舞いの交換くらいだけが気心はわかっている（と思っていた）。

Mさんは「夫の実家に来ています……」と書き出していた。「年に一度、十日間ほど兄嫁に代って夫の母（九十歳、ねたきり）を看護するためです。もう

六、七年になる毎年の行事です」と。

エーッ。私はびつくりしてしまった。だってMさんは実母（脳出血の後遺症で半身が不自由）を十年以上前から自宅で介護しているのだから。

「母のほうは……」うん、スパーへ行くにも分の単位で予定を母堂に言いおいて、大急ぎで

戻ってくると言っていたが、「弟夫婦に来てもらっています」

ナルホド。読み終って私はどつと疲れたような気がした。何でMさんはここまでやるのかしらん。あまりに優しいからだろうか。

私は複雑な気持ちになる。私自身も八十八歳になる夫の父と同居している。でも利用できる



手段はホームヘルパー、デイサービス、ショートステイと何でも利用していて、私の趣味も楽しむし、海外旅行にも行く。本当のことを言うとは私は「悪い嫁」という評判なら甘んじて受けよう。後ろ指なら指されようと思つてゐるのだ。

なぜつて憲法に明記されている幸福追求の権利は私にもあるのだから。そして介護者（私が仮にそうであるなら）の人権と老人の人権とは両立しなければならぬし、するはずだと思うから。

私はMさんへの返事にこんなことは書かなかつた。くれぐれもご自身の健康には気をつけて、と書いた。それ以外に何と言えよう。

私はもうさわようこさんの書いたことを思い出す。家制度が厳然とあつたころ、家のため夫のため夫の親のため尽くしに尽

くし、働きに働いて一定の社会的評価を得た嫁があつた。しかし、この模範的な嫁は、他のたくさんの女性たちの首に重荷をかけたのだと、もうさわさんは書いていた。私は読んだ当時この意味がよくわからなかつた。でも今は、はつきりわかる。

刑事責任 能力なし

大阪市旭区●宮崎貴子

先日奈良県で、小学生の女の子が路上で突然襲われ、切りつけられるという事件があつた。

犯人の男は精神に少し支障をきたしているとのこと。私はこの手の（犯人が精神上問題があるとされる場合）犯罪を見聞きす

る度、法に対してどこか変だぞという気持ちと、言いようのない憤りを感じる。

たとえ外傷が完治しても、この少女の深い心の傷は消えるのだろうか。親の身になつて考えて欲しい。考えただけでも気が狂いそうになる。

なのに犯人が精神に異常を認められると、その程度によって罪にとらわれない。そんなの絶対におかしい。だつて、極端に

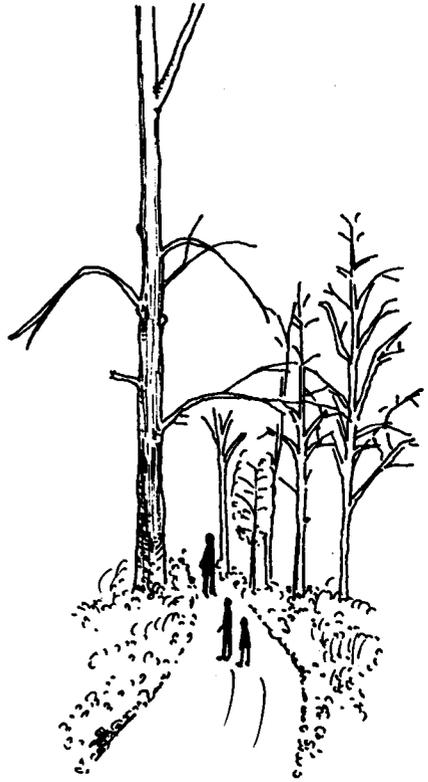
言えば精神に異常を認められた人は、何をやっても許されるといふ事になるのではないか。そういう人を温存して？まともに生きてる人間が被害に遭うとしたら、ばかばかしくつてやつてられない。

こんな事を言うと血も涙もない非情な人間だと思われるかもしれないが、はつきり言つてそういう人を世間に出してほしくない、二度と！ お願いだから

社会に野放しにして欲しくない。自分で自分の責任の取れない人が一般人（という言い方は差別になるか？）と同じ社会で生きて欲しくない。

もしも一度でも刑事責任能力なしと認められたなら、一生病院暮らしをしていただきたい。もちろんそれには物理的にも、また道徳的にも色々問題があつて無理だろうけど。

この原稿を作成し始めたその夕方、宮崎勤被告の死刑が求刑されたとニュースでやつていた。心神喪失だの心神耗弱だのと今までが甘すぎたのだ。何の罪もない人四人も殺したのだから、死刑になつても当然ではないか。少し話はそれるが、以前いじめにあつた息子を持つ父親が、相手の子供を殴つて話題になつた。殴つてどこが悪い？ 当然でしょうに。どうして仕返しした父親が悪者として吊るし上げ



られなければならぬのだ。
「よくやった！」拍手してあげたい気さえるのに。

それでもやっぱり感情のまま行動するなんて大人のすることじゃないし、傷害罪なのかなあ。しかし実際自分がその立場に立った時、この父親のように行動したい人はたくさんいると思う。

昔の、親の敵討ちのように仕返しを繰り返していたら、ずっとずっと永遠に続いてしまつて悪循環に違いない。だけど、人の気持ちになつて物事を考えられない人は、身をもつて体験するしかないのではなからうか。自分が人に痛い事をすれば、それは相手にとつてどんなに痛く辛い事かを、頭や心で考えられ

ないような大馬鹿者には。もつとも現在のいじめの原因の実態として、過去にいじめられたはらいせもあるとかで、いちがいには言えないが。
最後にもう一つ。だいたい殺人を犯した人間を死刑にしないのがおかしい。明らかに一〇〇パーセント悪い奴なら死刑にすればいいのだ。自分は他人の命

を奪つたんだから、自分の命で清算すればいいのだ、と思う。

あの綾瀬の女子高生コンクリート詰め殺人事件など考えると、未成年どうのこうの、更生の可能性を与えるの何のつて、甘すぎる！ あんな残虐な殺人を犯した少年たちが、将来立派な人になつて世の中の役に立つようになるなんて考えられない。百歩譲つてもし改心したとしよう、それでも殺された少女は帰つてこないのだ、何度頭を下げたつてつぐないようはないのだ。

私が親なら死刑でも物足りない。スコーンと死ぬなんてダメ、四十日間いたぶつて、同じ苦しみ味わわせてやりたいつて絶対思う。そんな究極の思いを持つている人はきつと私だけじゃないと思う。現代の社会においてそんなこと無理だつて分かっているから、余計齒がゆく、

また犯人たちが憎らしい。

人が人を裁く権利なんて本当はないのかもしれないし、ましてや一人一人、人格を持った人間だから、その命を死刑という方法をもつてして、奪うのは間違っているのかもしれない。なら、傷つけられた人、殺されてしまった人はどうなるんだろう。被害者は「これが運命だったんだ」ってどこかで諦めるしかないのだろうか。それなら被害者よりも加害者のほうが得（つて変な表現だけど）ではないか。結局、法律というかつこうの大義名分で救われるのは、加害者ってことになる。

要するに既成の法律の前に私たちはあまりに無力だという事だろう。理性と感情の中で揺れているといつては大袈裟かもしれないが、やつぱり首を傾けてしまふ、犯罪に対する法の裁きである。

大学について 考えたこと

千葉県我孫子市 ● 中野耀子

友人が、「仕事を見つけたのよ」と嬉々として報告した時、私たち周囲の者はみな驚き、そして彼女の幸運を祝福したものだ。こんな不景気な時代に、よい仕事が見付かるなんて、本当に彼女はラッキーだ。

彼女の仕事は、東京大学の自然科学系の研究室で、教授の雑務を手伝うアシスタント。ワープロの出来る人、週に二日ほど勤務できる人というのが条件だった。

それから半年も経って、「どう？ 仕事のほうは？」と訊いてみると、「辞めちゃったのよ」「辞めて、また私を驚かせた。」

彼女は、そのいきさつを、

「教授は、最初の約束をいとも簡単に反故にし、勤務の日程や時間を、自分勝手に変更してしまふの。だからその要求には、とても全部応じ切れない時もあるのよ。『その日はちよつと都合が悪いんですけど』なんて言うとき、アンタの都合で来てもらっているんじゃない。こつちの都合で来てもらっているんだ。なんて言つて怒るのよ」

「それだけじゃないの。その教授はとっても我がままな人で、許せないことがたくさんあつて、悔しいけど辞めちゃったのよ」と打ち明けた。

彼女の賃金は、教授のポケット・マネーから出ているのかと訊いたら、彼女の身分は臨時公務員だったので、国費からだと言った。そして、

「その研究室に入りする助教、講師、助手、そして学生だ

ちは、どんな場合でも、教授に

何を言われても、誰も一言も何も言わないのよ。絶対服従っていう感じなの。『それは無理です』とか、『出来ません』なんて、教授に向かつて言つたのは、私くらいじゃないかしら」と言つて彼女は笑つた。

その研究室に属する人々は、教授に逆らえば、その後の人生の保証はない。助教は、教授の後ガマに座る日までの忍耐だと、じつとガマンをしている。講師や助手たちにしても然り。人事権を握つた教授には絶対服従、滅私奉公というようなことが起きるのだとも言つた。

六十年代後半の学園紛争は、あの大学改革闘争は、一体何だったのか。どんな成果があつたのか。何も少しも変わっていないではないか。

彼女は続けた。自然科学を学んだ多くの優秀な若者たちが、

いとも簡単にオウム真理教の毒
牙にかかり、嵌まっていった理
由が分かるような気がする。

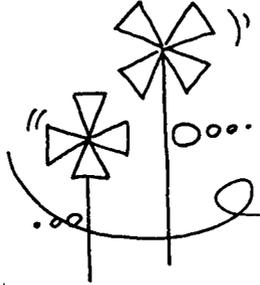
自由な発想や発言など、そう
簡単には許されない環境で、教
授に服従する日々、研究にゆき
詰まって苦しんでいるとき、

「どんな高価な装置でも買って
やる」

「自由な研究をさせてやる」
「科学技術庁長官はお前だ」
なんて、麻原から甘い言葉をか
けられたならば、コロリと参っ
てしまうのも無理ないわねえと

も言った。

私は彼女の話を聞きながら、
十数年前に広島大学で、万年助
手が惹き起こした教授殺人事件
を思い出していた。それから東
大でも、公害問題の公開講座を
開いていた学者が、万年助手の



身分だった。
今日の「エイズ薬害問題」で

も、声の大きな一人の男が、加
熱剤の緊急輸入に猛反対し、
多くの医者がそれに追従、手を
こまねいていたことが明らかに
なりつつある。なぜ他の医者がた

ちは沈黙していたのか。

近年、日本で起きた悲しむべ
き一連の事件に、大学も責任を
負うべきだ。あの水俣病も、ス
モンも、真実の発見や問題の解
決を遅らせてきたのは、いつも
企業側の学者たちだった。

大学の人事制度や因習が、ど
れだけ社会に害を及ぼしている
か。教育や学問の場が、保身の
ために沈黙している。今のそん
な制度に狂いがあると考えない
訳にはゆかないのである。

腑に落ちない 出来事

石川県小松市●村上裕子

十月九日、テレビ朝日の社員
が大麻所持で逮捕された。新聞

によると、所持していた本人は
懲戒解雇処分となり、購入のた
めのお金を貸した同行者は休職
だそうだ。まあ、これはわかる。
が、わからないのは次のことだ。
テレビ朝日の役員がその日の
うちに会見をし、頭を下げた。
そして、やはり新聞によると、
社長と専務が一月月の減俸、報
道局長ら三人の幹部が三カ月
の減俸という。

「なぜ？」と思うのは私だけだ
ろうか？ 所持していた人は三
十九歳。分別盛りの大人である。
そんな人が罪を犯したからとい
つて、なぜ、その人が勤務する
会社の社長や上役が責めを負わ
なければならぬのか？ 会社
や仕事とはまったく関係のない
ところで、しでかした事なのに
……。

妙な連帯感情だなあと
私はどうにも腑に落ちないが
……。

(え・奥島千恵子)

おすすめの一冊

愛の魔力

セックスに愛は必要か

メレディス・F・スモール 著
野中邦子 訳

東京都江戸川区 米山眞梨子

一夫一婦制というのは現在「文明化」社会では主流になってきているようだが、本当に人類にとって自然なものなのか。人が、ある程度の年齢で一人の異性を生涯の伴侶とし、その後はその相手とのみ性的に関係する、と決めることに無理はないか。一夫一婦の関係は子育てをする上では意味があると思うが、個人の幸せのためというよりも、制度として共同体を円滑に運営するためにこそ存在しているのではないか。子どものことを考えれば夫婦円満が一番、というのも、その通りだと思ふのだが、一定の円満だけを維持し続けられる人ばかりじゃない……。実際に共同生活する相手としてはほと

んど不満のない夫がいて、子どもも二人いる幸福モノの私だが、長い人生をもっと豊かにしたいと考えたとき、既婚という事実が異性を排除するものだというのは、何だか不自然な気がするし、はつきり言えば淋しくもある。浮気は男の甲斐性、などと勝手なことを言う旧人類と似て非なるのは、自分と同様いつも相手を尊重しようという気があるかどうか、というところだろうと思うが。（これも勝手な論理か？）

ここ二、三年くらいそんなこんなを漠然と考えてきて、たまたま書店でこの本を見つけた。「動物としての人間のセックスの謎を解き明かした、サイエンスフ



イクシヨン」と帯に書かれている通り、猿の交尾を研究してきた人類学者が、性をめぐる最近の学説を紹介し、性の常識が覆されることによつて、人間の性愛観と男女の関係が、どう変化していくかを分析している。さらに類人猿と人間の比較、男女それぞれの性衝動やオーガスム、性の機能、パートナー選びの論理、なぜ同性愛者が存在するかなど、話題の範囲は広く、人類のセックス全般について興味深く書かれていて、フムフムと納得しながら読み終えた。

愛と性とをちよつと客観的に考えてみたい方に、おすすめの本である。

角川書店 一六〇〇円

ワーキングマザー

ワーキング・マザーごっこ？

大分県大分市 加藤泰子（37歳）

私は再就職という青天の霹靂に興奮していた。確かに、私の人生の中で、家庭に一日中縛りつけられている育児期は、ようやく終わって、第二のスタートの時期が来た。そして、タイムリーな今年の再就職——理想とほぼ近い、高校の非常勤講師の職——先のこととは考えずに条件に恵まれた（勤務時間、通勤距離、職場環境等）この就職をただただ、ありがたいと感謝して勤め始めた。

しかし私は自分の立場のはかなさも見つめなければいけなかった。一年契約の職だからこそ実現したこの再就職を。私は、夫の転勤でこの地に住むことになった「妻」でもあるのだ。夫の在任期間は、わずか二〜三年だ。念願かなったこの職場での契約も、来年度の更新は、不可能かもしれない。次の

土地で、また職探しができるだろうか。教員の場合、都道府県によって採用のシステムが異なる。その土地での方法を調べ、また履歴書を何通も書いて、年度末ぎりぎりまで気をもむのだろうか。今年のように運よく条件の整った職場にめぐり合えるだろうか。手が離れたとはいえない、三人の子どもを抱える核家族というハンディを持ちながら、こんな涼しい顔で仕事に向かえる職場などめつたにないだろう。それでもブランクなしに、次の年も職があればいいほうだ。

夫の転勤は突然発令される。年度途中で引越しをして、気の遠くなるような諸手続きを済ませて、新しい生活に慣れて、それから求職を考えることになるだろう。まず、その年はフイになる。また不完全燃焼の専業主婦に逆戻りだ。前向きに考えれば、勉強したいことはたくさんあるし、充電の時といえなくもない。しかし、客観的にどう見ても、私のライフプランは夫の職の都合によって寸断されるのだ。何が夢

の実現だろうか？ これでは、ワーキング・マザーごっこにすぎない。

いやいや、嘆いたつてしょうがない。この世の中、どのように変わるかわからないし、夫の人生もまた先の先まで決められているわけではない。将来の読めない状況でも、無駄なことは一つもないのかもしれない。

私自身の向かう目標があり、目を輝

かせて、それを追求して、そしてそれを生かせる場を探していく。この姿勢だけで、なんとか進んでいけるような気もする。

二学期も半ばを過ぎた。今年、与えられたこの職と、それによって知り合えたこの地の人たち、この地の生徒たち。そんな一つ一つをかみしめながら、今日も校内で深呼吸を試みた。



(え・橋本美智子)

わいふ文章講座のおすすめ

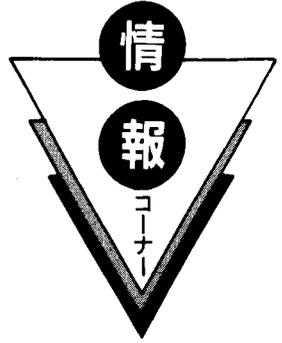
公民館、女性センター、社会教育課などのご依頼で、しばしば「わいふ文章講座」を開いています。

編集長田中、副編集長和田「わいふ」から巣立ったライター達を講師とし、一回から十回までのコースがあります。初めて書く人のためにも、原稿用紙

の使い方から自分史、インタビュー記事などのまとめ方までご説明します。お住まいの地域で開きたい方は、お

電話をください。資料をさし上げますので、それを持って公民館、教育委員会の社会教育課などに開講を頼んでみてください。引き受けてくれるところも多いと思います。

六月から東京ウイメンズプラザで、講座がありました。多くの申し込みをいただき好評でした。



遠距離介護予備軍、 ご体験の方へ

「故郷に住む老親と都会に住む子ども」をテーマに単行本を出版の予定です。遠距離で介護が必要となれば金銭的にも精神的にも時間的にも大変。不安を抱えた予備軍の方、現在進行形の方、すでに終わられた方。子どもの立場、親の立場、ぜひその実情と本音を聞かせてください。ネットワークもつくっていただきますので、ぜひご連絡を！

▼連絡先 太田差恵子
〒166杉並区和田三二九―二二
☎ FAX〇三―三三三―一〇七七

読者参加の 月刊教育ネットワーク誌 「ニコラ」の読者募集！

月刊教育誌「ニコラ」をご紹介いたします。「埼玉から教育を考えよう」とスタートした五〇ページほどの小さな本ですが、教育に関心を持つ親をはじめ、現場の教師、カウンセラー、塾の先生、学生など、様々な立場の人が誌面を通して本音で語り合う、内容の大変充実した本です。また、毎月一回の割で、読者の学習、交流の場として「ニコラの集い」も、浦和市を中心に開催されています。

▼毎月二十五日発行
▼定価 五〇〇円
▼連絡先 (有)フレックス
馬場 章
〒336埼玉県浦和市太田窪二八六
一―一
☎〇四八―八八三―五四一七

講演会

だだっ子は誰のせい？
―母親の自立と育児のいい関係―

いよいよ田中編集長を講師としてわいふ式子育て法の講演会を開くこととなりました。〇〇三歳児を育児中の方、または関心のある方を対象、自発性・共感力のある子どもを育て、自分も自立して生きていきたいと願っている方、参加してみませんか。前半は講演、後半は質疑応答をして、参加者にも発言していただく予定です。

▼十二月八日(日)
午後一時半～四時
▼宮前市民館養生分館(溝の口駅よりバス十五分)
▼参加費 八百円
▼問合せ先 川久保郁実まで
☎ FAX〇四二七―二〇一―一六三六
▼企画・運営 川久保郁実・山田浩子・森田千恵

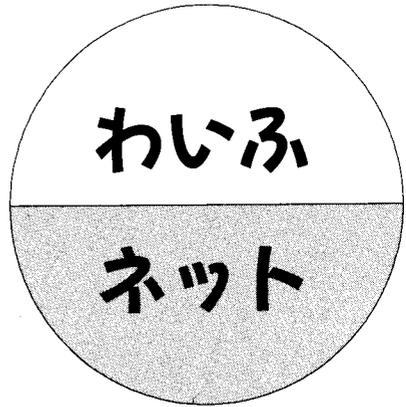
女と男・フォーラム大田 '96 自分らしさの再発見

あなたはあなたが好きですか？

午前中はミニフォーラム。内容は、①語り合おう性と生②楽しく起業③人間らしいゆとりある生き方再発見。

「わいふ」副編集長の和田好子さんも講師の一人。午後一時より「わいふ」のグラビアでも紹介された菊池裕子さん主催のフアッションショーあり。評論家佐高信さんの講演も。

▼日時 十二月七日(土)
十時～四時半
▼場所 大田区民プラザ
東急目蒲線下丸子駅前
▼主催 大田区
▼手話通訳・保育付き
▼入場無料 どなたでも自由
▼問合せ先 男女平等推進室
☎〇三―三七七―三二五〇
(情報提供 青木千恵)



入れ歯の上手な歯医者さんを求む

川崎市麻生区 瀬野杏子

田舎に住む母が入れ歯があわなくて困っています。八十五歳と高齢ですので食欲もなくなつてしまいました。歯医者をかえて三、四個人入れ歯をつくつたのですけれど、どれもあわないのです。東京都内か近郊の方、お近くによい歯医者さんがありましたら教えてください。健康保険の範囲内では、よい入れ歯は無理なのかどうかも、本当のところを知りたいと思います。

信用できる会社の調べ方

神奈川県藤沢市 本間美恵

長年求人広告を見て職探しをしておりますが、広告だけではその会社が信用できるものかどうかいまだにわかりません。登記簿をとり寄せて、その会社が幽霊会社でないかどうかだけは判別できますが、その他の事はどうして判断すればいいのでしょうか。

●このページは読者のみなさんに広くご利用いただくページです。

相談したいこと、「教えて教えて」という軽いノリのもの、たとえばぬか漬けのおいしい漬け方、煮豆の煮方、探しもの(素敵なモンペを縫ってくれる洋服店、珍しい植物の種子を売っているところ)、あるいは赤ちゃんの離乳の仕方など、日頃困つたり悩んでいること、読者の意見を聞きたいというもの、どんなことでもけっこうですから、ご相談や質問をお寄せください。

みなさまからのご相談や質問を誌上でご紹介し、アドバイスやお答えをつのり、次の号にそれを掲載します。このページが、読者のみなさまの出会いのきっかけになれば、と企画しました。

質問もお答えも一五〇ページの原稿用紙にわいふネット質問・わいふネット答えを〇で囲んでお送りください。(短くても可)

今回は三件の質問を載せました。アドバイスやお答えをたくさんお寄せください。

なお質問をお寄せくださった方で、ページの都合上掲載されなかったお答えを知りたい方は、わいふ編集部までお電話をください。

泣いたらだっこ?

東京都新宿区 田中喜美子

もう何年も前から、「赤ちゃんのいうことは何でも聞いてやりなさい。泣いたらだっこ」という子育てがすすめられています。そうなる、始終赤ちゃんを抱きあげていなければならぬと思うのですが、実際にやってみたら、その子はどんな子になるのかなあ。

抱きっぱなしで育てたママ、そんなに抱きあげなかつたというママ、ぜひあなたのお話聞かせてください!



時事放談

女性議員の哀歓

地方議会から政治を変える

司会 総選挙も終わって、いろんな結果が出てきたんですが、今私は、政治を変えていくのは地方議会じゃないか、地方議会から攻めのぼっていかないと、本当には変えられないんじゃないか、という気がしているんですよ。

ですから、地方議会にみなさんのような方たちが増えていくのは素晴らしいことだと思っっています。まず、どういう組織、基

盤から出ていらっしゃるか、お話しください。

中田(慶) 私は府中市の市議会議員をしておりまして、生活者ネットワークというグループから出て二期目、通して五年半になります。

生活者ネットワークというのは、もともと生活クラブ生協という共同購入のグループが主体で、最初に議員を出したのは十九年くらい前だったと思うんですが、今のようになくさん出すようになったのはつい

最近、私が出たところからですね。今は生協とは別団体で、生活者ネットワークというローカルパーティーをつくって活動しています。

生協からなんでそういう活動を始めたかという点、自分たちだけで安全でおいしくて安いものを食べてほしい、という発想では何も変わらない。安全でおいしいものを食べるにしたらって、安全な空気が必要だし水が必要だし、緑が必要。そのためにはやっぱり政治を動かしていかないと変わら

出席者 内田秀子
(大田区区議会議員)
中田 京
(松戸市市議会議員)
中田慶子
(府中市市議会議員)
編集部 和田好子
司会 田中喜美子

ない、というところに行き着くんですよ。地域の、給食や福祉を変えるためにも、いろんな議員を出しているこう、と。ただそれには、プロの専門家の議員を送り出して、その人にお任せじゃ何も変わらない。自分たちが参加していく。代理人という言葉を使っているのはそのためですけど、議員は私たちの議会担当者です、と。議会を担当しているだけで、立場はみんなと同じ。議員報酬もみんな管理する。議員もローテーションにして、その人だけが長くやつて専門家になってしまふことを避けるようにしています。

現在、生活者ネットワークの議員は東京都内で四六人、市議会、区議会におりまして、都議会には三人います。全国だと二二〇人くらい。全体からみたら、ほんとに少ない数ですけど。

内田 私も東京都大田区の生活者ネットワークから出ています。私はこの間の選挙が初めてですから、議員歴は一年半です。

中田(慶)さんと同じ考え方だし同じように活動しているんですが、地域が違いますので。私は二十三区ですが、同じ東京で

も二十三区は市と行政の仕組みが違うんですよ。

司会 そうですか。それはまた後で聞かせてください。

中田(京) 私は千葉県の松戸市の議員をしています。

九四年の七月三日に議員になりました。もつと前から選挙を目指して活動していました。おつびらにヤルソと言いついたのは、その年の一月。ただ、七月の選挙は私たちにとって青天の霹靂のような選挙で、本来の選挙は十一月だったんですが、市長が急死をしたため、市長選挙にともなう市議の補欠選挙でした。

欠員が三名ありまして、これはやろうと。八人立ちまして二番入りしました。二万四一三票かな。

その任期は、なんと十一月二十六日までで、次の選挙は十一月十三日にあった。定数四八に五九人立って、四三三三票でトップ当選しました。

十年前の、八六年の市議選で立候補した女性がいきました。そのときに「女性議員を増やす会」を、候補者のためにつくったん

ですけど落選し、その後は議会を傍聴して報告しているのと、市民グループとして会を続けていたんですね。超零細企業だったのが、九三年くらいからカンパをくれる人やメンバーが増えてきました。

当時は、女性議員に「革新無所属」とついていたんです。私も革新無所属には違いないんですが、今、革新という何だかわかんなくなつちやつて(笑)、八六年のころは革新というどピカピカ光つてたんですけど。政党に属さない、大会派に属さない、市民の立場で女が出ること意義を持つ活動でした。で、現在に至っているんですが、私の場合、組織は何もないです。

司会 組織もないのにトップ当選で、スゴイですねえ。

中田(京) ええ。一番ビックリしたのは私です。

定数四八ですから、五九人中一人落ちます。これは地方選挙としてはかなり厳しいです。二、三人しか落ちない選挙もありますから。あの人落ちる、この人落ちる、つて数えていくと、七、八人目くらいで指が止まっちゃうんですよ。やっぱり私かア、



中田 京さん

女性議員の立場

と申つて。四十五、六番で入れはいいやと思つていたら、本当にビックリしました。ちなみに二位は四一〇〇票くらい。

内田 女性議員というのを、どうとらえるか。いつも頭の中で考えています。

大田区は区議が五人いるんですが、女性議員は三人しかいません。そのうち二人は共産党ですが、共産党の方は自分たちはとりたてて女性議員だという意識はない。

私は女性だから女性議員と言われてもいいし、議会に女性が必要だということもすごく感じますけど、生活者ネットワークの発想が女性ゆえの発想なのか、男性でもこういうことを考える人たちがいてもいいん

じやないか、と思つたりするわけです。

それとも一つは、私のいる議会の中の大半の男性は古いタイプだから、そうすると私たちが考えていることはやはり女性の発想なのか、と思つたり……。

中田(京) ウーン……。

あの、議員で、ものすごく面白い仕事です。それがまず第一点。どうしてこんな面白い仕事をみんないないだろう、と思うくらい。

女性議員、という話になると、「女性議員を増やす会」は今は私とは別に動いていて、事務局も他の人がやっている。中田京一人出すための会じゃない、と。

私とスタンスの違う女性議員がほしいんだらうと思います。別に仲が悪いわけでもないでもなくて、どういう女性議員がいいかとか、どうして自分にならうと思わないかとか、そういう話をさかんにやっています。そういう議論は、すごく大事だらうと思います。

私自身は、一人会派ですが、非常に楽しい。いいなと思つている。私が補選で入ったとき、松戸市で八人目の女性議員だった

んですね。千葉県では一番多かった。ところが、その次の十一月の選挙では四人になつてしまった。当時、社会党の二人と、今議長をしていらつしやる自民党の、私の母と同じ年の方と。

この議長の自民党の方がいたおかげで、ものすごく女性政策がすすみました。私が入る前にいた七人の女性議員を、われわれ市民がフルに活用して、一億八千万円で、女性センターを改修させたんです。これは、各会派に女性がいたからなんですよ。とくに保守にいたから。すごく違う。

司会 ふん、ふん。

中田(京) 保守の今の議長は、私に関しては非常に寛大ですね。まだまだ私は、女性議員には意味がいっぱいあるなと思つています。

中田(慶) 私も女性議員は絶対必要だと思ひます。今は少なすぎる。うちは三十分のみで、女性が多いほうかもしれませんけど、小金井なんか三分の一越してますからね。

ただ、その女性議員の構成をみると、うちも四十何年やつてらつしやる自民党の議

員さんがいて、あとは公明党、社民党。生活者ネットワークが二人。女性だから女性の発想をするとは限らない。

女性の立場とは何か。育児などだけにこだわりたいけれど、やはり介護とか育児とか、ぜったい欠かせない面はある。もちろん男の人たちがそういう発想で、議会にたくさん入ってくれば状況は変わってくるんだらうと思いますけれども、現状では、家事をする男の人たちは議会には入ってこない。やっぱり地域の自民党の方たちとか政党の方、労働組合とか町内会の方たちが主で。

私たち女性としては、女でなければ見えないことプラス環境問題とか、これは女性に限らないはずなんですけど、経済効率優先でない発想は、今のところ、女性のほうが多くしているだらうと思います。

ヨーロッパでもよく言われることです。女性が入って政治が変わることの意味はそこにあるだらうと思っています。

さつき中田(京)さんがおっしゃった、「議員つってとっても面白い」。私も入ってみて、確かに面白いと思います。家にいた

んじやわからなかつたことが本当によくわかつて、授業料をいただいで勉強させてもらっている。こんなに面白いことは、もっとたくさんの人に経験してほしいと思います。

私たち生活者ネットワークでは、議員の権限を共有するという言い方をして、みんなと一緒に議員の権限を使いこなしていくという発想で活動しています。

でも、行政の人たちと普通の市民というのは、対等じゃないですよ。

議員と行政はわりと対等。議員は、何千人かの支援がある市民の代表だと行政が思っているんで、その議員の言うことには一目置く。

私はよく行政から「中田さんの言うことは、背景に何千人かの意見があると思ってお聞きしているんですからね」と言われる。確かにそれは、議員として尊重されるいわれだらうと思えますけれども、一人一人の市民に対しても行政は責任をもって、尊重して扱うべきだと思います。

現実にはそれが難しい以上は、多くの声を代表する議員の立場に女性が増えて、意見を言っていくことはとっても大事だと思う

ています。

地方議会つって、何するところ？

司会 さつき中田(京)さんがおっしゃった面白さについて、議員になってみたら議会がすくくつままないという意見もあります。その内容について、地方議会とは何をやっているところだとか、ちょっと喋ってくださいませんか。

中田(京) 議会のシステムは自治体によって全部違うんですよ。

例えばね、一般質問と議案質疑と常任委員会と、どういう順番でやるか、議会によって違う。それによって戦略も全部変わってくる。よその町の議員と喋っていて、エーッつって、ビックリすることがいっぱいある。そういう違いを議員同士も知らないんですよ。

司会 コレ、わかれないとごだわね。

中田(京) 具体的にいいますと、松戸市の場合、定例議会が始まる一週間前に議案を見せられるわけです。

司会 その議案は誰が書いているんです？
中田(京) そりゃあ行政が出てくるわ

けです。

司会 行政が書くの？

中田(京) もちろんそうです。

司会 もちろん、というのがわかんないんだなあ。

中田(慶) そうだろうと思います。私も入るまではわからなかった。

司会 そうでしょう。つまり、行政って、誰なんです？

中田(慶) 市長が代表する人たちです。

司会 そうすると、市長が出してくるわけね。それで、誰が書くの？

内田 それは、それぞれ担当者が……。

司会 水道局とか、そういう人たちが書いてくるわけ？

内田 あたらしく事業を起こす、あるいは事業をやりかけ、というのを……。

和田 つまりそれは、議会を通さないと自分たちでは決められないものを……。

中田(京) 要するに、議会にはからないといけないのです。

司会 それ、全部法律ですね。

三人 いいえ、条例。

中田(京) 法律は国ですから。法律改正



内田秀子さん

があつたら条例改正もありますけど。

とにかく、松戸市の場合は一週間前に一般質問の通告ができるんです。

司会 誰が誰に通告するの？

中田(京) 議員が議長に。私は〇〇について質問したい、と。

司会 議会における活動は、質問というカタチでおこなわれるわけ？

中田(京) もう少し話を続けます。

質問の内容は議会によつて違うんですけど、提案された議案に関して質問しちゃうけない議会もあるんです。なぜならば、みんなが話し合う前に聞いちゃマズイからです。

司会 ナルホド……？

中田(京) それからもう一つ、陳情・請

願に関して質問しちゃういけないという議会もあります。

うちの場合は、ほとんどの議案を最終的に常任委員会へ振り分ける。常任委員会というのは、地方自治法で決まっています、議員は必ずどこかに入れてもらえることになっている。たいがい四つとか、多いところは六つぐらいの委員会がある。

本会議は、まず議案説明を非常に形式的にやつて、書いてあることを市長が間違えずに読めれば一日目はそれで終わり。次の日から一般質問が四日間あります。これがさっき言ったように、一週間前から通告して、早い者勝ちでやれるわけ。

司会 遅くなるとうなるの？

中田(京) 遅くなると、先にやつた誰かと同じような質問はできないんです。「昨日、〇〇議員にお答えしました通り……」つて、逃げられちゃう。自分の質問を構築できない。

司会 ハイ、わかりました。

中田(京) うちの場合は、質問して答えてもらつて、という往復を三回まで、一時間でやらなきゃいけない。これは議会によ

つて違います。持ち時間が何十分というところもあれば、言うだけでおしまいというところもある。時間制限のない、すごく羨ましい議会もあります。

時間制限というのは、われわれにとつてすごく厄介なもので、千葉県の県議会なんかはドンドン縮めてきています。早く終わらせて、早く帰りたいから。

司会 ケシカランですねえ。

中田(京) そうですね。

とにかく松戸市の場合は、五十九分までに終わらせれば言われない。一時間過ぎたら、野次が飛びますね。それと、通告した事以外、聞いちゃいけない。

議員が四人いたら、普通は四十八時間かかると思うでしょ。ところが時間は半分で足りちゃう。質問しない議員がいっぱいいるから。やらなくてもいいわけ。

司会 やれないんじゃないかと、やらない。もし、みんなが一時間ずつ質問するぞ、って言い出したら？

中田(京) 時間を確保しなきゃいけない。だけど、そんなこと、絶対にあり得ないんです。なぜだか知りませんけど。

司会 そうですかア。『わいふ』の会員全部が投稿してこないようなもんだ。(笑)

中田(京) うちの場合、ちゃんと質問するのは革新政党と私、あと保守でチヨロチヨロト。

司会 保守の人というのはやりませんか。

中田(京) 概して、やりません。四年間で一回もやらない人もいる。

司会 中田慶子さんのほうでも、そう？

中田(慶) そうですね。

内田 大田区では、保守はものすごくいっぱいあります。時間配分は大会派順ですから、権限を持っている。代表質問でも目いっぱいやる。

私は去年まで一人でいましたから、一人なんていつたら往復で二十分。それも毎回はできない。二つぐらいしか質問できないんです。

中田(京) 往復二十分じゃ、二つは無理じゃない？

内田 でも毎回順番が来ないから、一議会に二つぐらい質問を入れないと次まで待つてられない。

質問は主張 かけひきの面白さ

和田 保守のほうから質問が出ないとおっしゃいましたけど、それは議案をつくる段階で行政とすつかり相談しているからなんですか。

中田(京) 一般質問というときは議案に関する質問じゃないんです。市政に対する一般質問ですから、何でもいいんです。

内田 その議員が、ふだん何を考えて活動しているかが反映される。

和田 それは質問であつても、そのことが審議されるわけではないんですね。

三人 ……(しばし無言)。

和田 答えるのは誰なんです？

中田(京) 行政です。

中田(慶) 部長さんとか……。

中田(京) 市長以下、です。

和田 すると、行政に対する質問なわけね。

中田(京) そうです、そうです。

中田(慶) 質問って言っちゃやうと、本当に質問かなアと思っちゃやうんですけど、結局は自分の主張なんですよ。

こういう主張をするために、こういう質問をして向こうの答を引き出して、最終的にどこへ落としどころを持っていくか。いかに行政を納得させるような理論展開をしていくか、というのが一般質問をする意味なんです。知らないことを質問するという意味ではない。

司会 そうすると質問内容がてんでバラバラで、次の瞬間には全然違う質問が脈絡もなしに出てくる……。

中田(京) そうです。それは、自分の町の議會を傍聴すればすぐわかります。

一般質問がすむと、うちの場合は議案質疑があります。要するに、常任委員会へ振り分ける前に聞きたいことは聞ける。その議案が自分の所属している常任委員会へ回ってくればしつこく聞けますけど、こないものがありますから。これも通告しなきゃいけない。これは、ありがたいことに時間制限がないんですよ、松戸市の場合は。

それから常任委員会が開かれる。常任委員会は本会議じゃないので、コチヨコチヨ聞ける。どっちかっていうと人間の会話になる。

和田 常任委員会の場合には、テーマが決まっているわけですね。

中田(京) 陳情・請願の審議と議案です。それ以外のことは言っちゃ駄目です。

中田(慶) 議員というのは何でも議論できるわけじゃなくて、議案になったことしか議論ができない。それ以外のことをやるうとしたら、一般質問などで、まったく別の場所である、ということですよ。

司会 そうすると、議員のできるということのは、問題を質問のかたちで相手にぶつけて、しかるべき当局から返事をもらう。それが政治活動になるわけね。

内田 そうです。

行政側は「今後やっていきます」なんて言ったら、もう大変。その人は全責任でそれをまっとうしなくちゃならない。議場で、それを言わせることは、スゴイことなんです。それができたときは、お腹の中で「ヤッター!」って。こっちからの質問によつては、間違えて言っちゃう人もいますね。

中田(慶) うちも質疑は三往復できるんですけど、こっちは一回目の質問通告書し

か出していない。あとは黙って持っている。議場には市長と部長さんぐらいしか出てこない。一回目の答は課長さんあたりが書いたのを部長さんが読む。

二回目の質問に対する答は、一応部長さんが想定して書いて持っているんだけど、こちらの作戦によつて予想外の展開になれば、なんとか自分で考えて答えなきゃならない。そのときに、後ろの扉が開いてね、課長さんあたりが書いたメモが必死で回ってきたりするんですよ。(笑)

最終的にどこへ持っていくか、というのがやりとりの面白さですね。

中田(京) 裏にモニターがあつて、もうみんな、必死で見てるわけ。うちの部長、どう答えるかって。用意した答弁を一行飛ばしたつて大変なことになるわけだから。喋ったことは全部議事録に載るし、あの議員、この次に何言うだろうって。

内田 ほんと、部長がポロツと言っちゃうつてことがある。

司会 すると、どうですか、ポロツと言っちゃった事というのは、必ず実行される？
内田 します。やらなかったら、言います

から。次の議会でまた質問されてしまったら大変だし、議場でさらし者みたいになっちゃう。

中田(京) そう。責任問題ですよ。

でもね、行政のほうから、こういう話(質問)をしてください、って言うてる場合もある。それは、自分たちの仕事を褒めてもらいたいとき、あるいは事業を推進したいとき。

内田 議員が質問して、首長が「やります」と言えば、下の人たちは大喜び。やっとなら、これで……。

中田(京) 予算を要求できる。

地方議会は追認機関

和田 特別養護老人ホームを例にとつて、



中田慶子さん

どういうかたちで議会を通つて予算がつき、執行されていくのか。具体的に説明していただけますか。

中田(慶) 地域によつて違いますけど、だいたい標準的に考えると、行政が将来の人口動態とかいろんな調査をしたうえで、特別養護老人ホームの数を算出しますよね。それに対して議員は、もっと早くしろとか、もっと数を増やせとか、予算要望をする。それらをいろいろ勘案して市長が、つまり行政が、今年度はこういう予定ですめたい、とか出してやる。

ただ、予定というのは議案にならない。計画になれば議案になることもありますけど。要するに、〇〇老人ホームの設計契約が三十億円とか、そういう議案しか議会にはかかってこないんです。

和田 最初に、建てたいと思う人、考える人は行政側なんですね。

中田(慶) 議員のほうから働きかけることもあるし、市民からの陳情が議会にかけられて議案になることもあります。

和田 行政がしたくないと思つている場合、陳情があればさせられるんですか。

中田(慶) まあ、うちの議会の場合は、実現の可能性のない陳情は採択しない。議会で採択したものは、行政はやる責任があるという姿勢ですよ。それは自治体によつて違う。

中田(京) だいたい各自自治体で基本計画、十年、二十年スパンの基本構想つてのがあります。それから五カ年単位の計画がある。そこへ入っているかどうか。特養だったら、ゴールドプランがどうなっているか。

和田 そうすると、厚生省が出している十カ年計画を越えてつくることはできないわけですか。

中田(慶) できますよ。市長がやろうと思えば。そして、それに議会が同意すれば。

和田 市長がやろうと思わなければ、駄目なわけ？

中田(慶) もちろんそうです。司会 決定権は市長が握つていて、それが一番大事なわけね。

中田(慶) 地方議会というのは、ものすごく権限が弱いんですよ。結局、行政が出してくるものを、ハッキリ言つて、追認する機関になっている。で、圧倒的に与党が

多いわけだから、出された議案が否決されるということは、まず、あり得ないわけですね。

中田(京) そうなると、向こうの目標は、全会一致かそうでないか。そこで一人会派つてのが生きてきて、全会一致をとらせないことができる。

和田 だけど、議案が通ることは通っちゃう。

中田(京) ええ。だけど、全会一致で通していたきました、というのには、行政にとつては錦の御旗なんです。

中田(慶) プライド。

中田(京) だから反対すると聞いたら、飛んで来ますもん。

中田(慶) 鬼のごとく、言われる。

和田 そうすると、どこの議会でもそうですが、多数派が勝つわけですね。やはり皆さん、議会にお入りになった以上は、多数派を形成するとか圧力をかけられるような背景を何か持つとか、努力はしていらないでしょうか。

中田(慶) それが非常に悩みなんですよ。与党に入つて意見を言っていくことも

一つの方法で、私は野党ですが、与党になれ、なれ、つていつも言われて、与党になつたらもう少し言う事を聞いてやるよと、甘いエサを出される。

行政の人も事あるごとに、どうして賛成してくれないんですか、賛成してくれればもつと要望を聞いてあげるのに、みたいなことを言いますけれども、今の市長の行政に反対の市民もいるんだ、違う意見もあるんだということを強調したいわけです。少数派の意見を、記録としても、きっちり残していくことは意味があると思つています。

内田 例えば国政でも、会派はみんな考え方を統一しますよね。お腹の中は違つのに、個人の考えよりも党の方針で立つたり、座つたり。

私たちの会派は、三人立つて、二人座つて、一人退場とかメチャクチャな表現をして、他の人たちから「一つにしろよ」と言われ続けながら、意見が違つたら一つにはなれない。こんなことをやつても私たちは議員として、会派としてやつていけないんだぞ、と。でない、いろんな話がたまたま右から左へ、流れ作業で終わつてしまふ、とい

うことを中にいるとすごく感じます。

議員は面白い！

司会 議員生活の中で、こういう事が議論されたとか、あれが忘れられないとか、具体的な話をしていただけですか。

中田(慶) 府中市って、地下水汚染で環境問題の本に必ず出てくるような有名な所なんです。一九八二年に、日本で最初にトリクロロエチレンという有機溶剤による地下水汚染が発見された。

府中市では水道の水源として川の水と、地下水を半分ずつ混ぜて飲んでるんですけど、そのことはみんなあまり知らないで暮らしている。

見つかつた汚染は放置されたまんまで、私が議会に入ったころに汚染除去処理をして、飲むのを再開した時期だったんです。それと同時に、一番汚染がひどい井戸を道路の下に埋めてしまおうという話になつてしまつた。

とんでもないよと市民でグループをつくつて、猛烈に水質検査やいろんな調査活動をして、汚染が広がっていることを実証し

主張した。

もし井戸を埋めてしまつたら、地下一〇〇メートルぐらいのところに汚染物質がドロンとあるんですが、ジワリ、ジワリと永久的に汚染が広がっていく。技術的には汚染水を汲み上げて安全な水にできるんです。

粘りに粘つて交渉して、最終的には東京都と府中市の方針を翻すことができませんでした。とにかく、道路の下にはなつたけれども、そこに井戸を残す装置をつくりまして、細々と汲み上げて浄化装置をつけた。四年かかりましたけど、本当に嬉しかったですね。

やつぱりね、一市民が都や市へ行政交渉をしても、残念ながら話にならないですよ。また原因物質を取り除くところまでは手がついていないですけど、代理人として私が窓口になって、みんなと一緒にやれた。議員になってホントによかつたと思ひましたね。

司会 内田さんはいかがですか。

内田 私はまだ一年半ですけど、高齢者問題についていろんな角度から何回か質問

していて、この間たまたま、なぜ特養にボランティアをいれないんですか、と質問したんです。人手がなくてお年寄りほつたらかしくされていると。

大田区では、十いくつもある特養を一つの社会福祉法人が運営しているんですが、あまりにも画一的。行政側からすれば全部同じにしたほうがやりやすいけれども、この特養を見てもソックリさんのね。これはハッキリ言えば、区の職員の天下り先だということがわかるわけです。

そしたら、保健所の所長さんの目がピカインと輝いて、かねがねなぜボランティアをいれないのかと思つて提案してきたけれど、いつもお茶を濁されてきた、あそこで発言に区長が賛成した以上、今後はボランティアが入りやすくなるだろう、と言われた。一人の力ではなかなかできないことも、公の場に出すことによつて実現できる。それは議員になってよかつたことですね。

司会 中田(京)さんは？

中田(京) もういつぱいありますよ。

私の場合は何かを勝ち取ろうとか、考えてない。むしろ、こんな私でも議員できる

んよ、というのを見せた。

市民はすこいお金を出して議員を養っているわけです。私の場合だつて去年の年収が千五十七万円ですから、ちゃんと議員を使わなきゃ駄目よ、ちゃんと仕事しているか見なきゃ駄目よ、つて伝えたい。

それから、いろんなことやつて、みんなの思う通りに行政と喋つてみ、という、市民と行政の間の伝え役をしていると思つています。

毎日が面白い。ドラマチックですよ。

司会 わかるなあ、それは。議員になつた多くの人が、そういう一つ一つのドラマが面白いって言うわね。

今日はとつても充実したお話をありがとうございました。政治が身近なものになつて、面白いからみんな議員になりましたよ、つて、一人でも多くの女性が出てくると嬉しいんですけど。

中田(京) 地方議員でね、三人元気のいい人が集まつたら一人議員を出せますよ。

司会 ああ、いいですねえ。それでいきましよう。

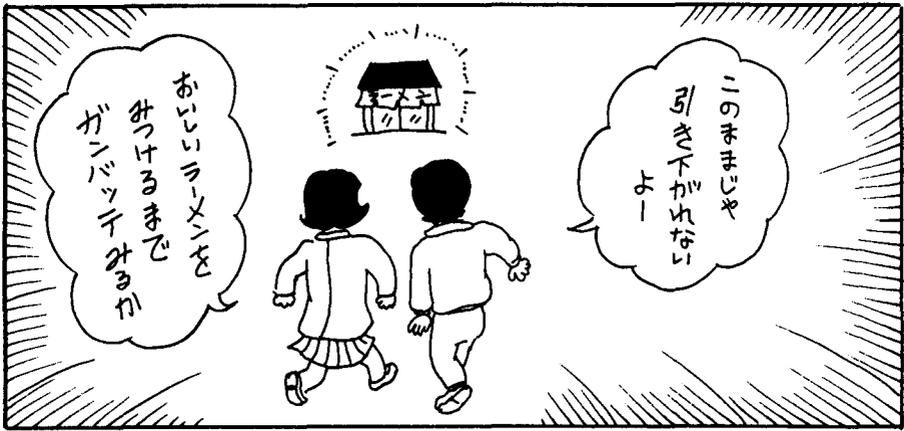
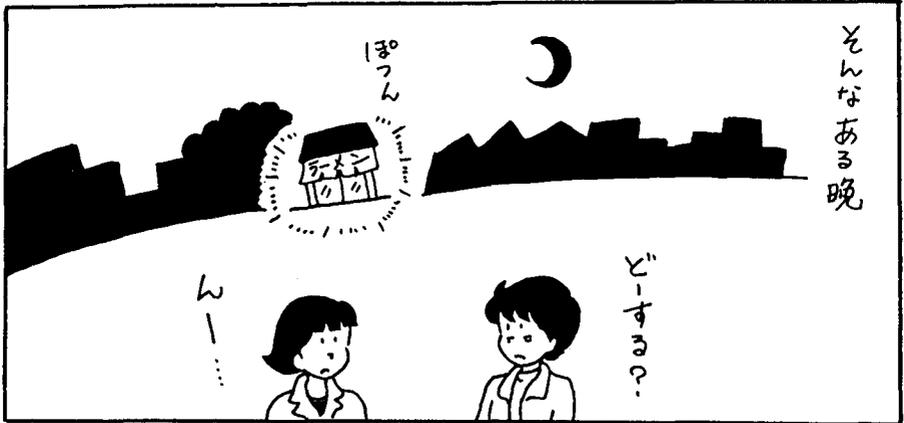
まとめ・宮前和

(次回の時事放談のお知らせは、一四八ページをごらんください)

痛快! 一筋

栗田 シムケ 光





パプアニューギニアの国をわらう ②

パプアニューギニア・ポートモレスビー市

新井 純子

マラリアの恐怖

ラスカルと同様、この国で恐ろしいものに、マラリアという病気がある。ハマダラ蚊という蚊を媒体にして、人間の体内にマラリア原虫が入り、赤血球や肝臓で発育することにより、発熱、頭痛、全身倦怠、体の節々の痛みなどを引き起こす。原虫の種類によって卵形、熱帯熱、三日熱、四日熱の四種類があり、重症化する危険性の高いのは熱帯熱マラリアと言われている。私たちが、ポートモレスビーに来た

ころは、外国人居住地区は比較的安全と言われていたし、大使館で働いている人は、今までひとりもマラリアにはかかっていないと言われていた。ポートモレスビー以外の地方にでて行かない限り、大丈夫じゃないのという人まだけでいた。

しかし、まわりを見まわしてみるとマラリアにかかったという外国人もたくさんいた。その人たちの中には、ポートモレスビーからでていない人も多かった。まして、子どもたちの学校の子もマラリアで苦しんでいるという話を聞くにつけ、私のなかにマラリアの

不安が募っていった。

ラスカルの恐怖からちょうど二年後、わが夫は、マラリアにかかってしまったのだ。

五月は、私の誕生日でもあり、日本ではさわやかで楽しい月であった。ここポートモレスビーの五月は、わが家にとつては鬼門のようだ。

夫の発病

日本では、ゴールデンウィークの真最中。私たちは、一年間住み慣れたアパートから、新しいコンパートメント



昨年この国は20周年。その時の記念セレモニー
国旗のほかにも、日本でいえば県のように分かれていて、その旗も一同に集まった

に引越した。理由はもちろんセキユリティーの問題である。

その後夫の職場では数日休暇があった。子どもたちの通うインターナショナルスクールは、日本の連休など、もちろん関係がなく、子どもたちはいつものように学校に通っていた。

大人二人は、その間中ゴルフ三昧に明け暮れた。夫は、午前中、私と十八ホールをまわり、午後は他の方と十八ホールをまわるという激しい日々を過していた。

長い夏を過ぎた体は、どの人もすっかり消耗しているものである。それに追い打ちをかけるように、引越越しをして、連日ゴルフをしていた夫の体は、マラリアの格好の住み処となった。

その休暇の最後の日曜日、日本人会のゴルフコンペに参加し、夫は優勝して帰ってきた。家族四人で夫の初優勝を祝う。ウイスキーの水割りをいっぴくなくハイピッチに飲む夫は、「今日は、何だか酔わないなあ」と言う。「優勝して、嬉しくてハイになっているの

よ」と私。その夜わが夫は、よくしゃべり、よく飲み、眠りについた。

翌日、夫は子どもたちとともに家を出た。昼には、再び家に戻り、私と昼食を食べた。その時でさえ、異状はみあたらなかった。

私は、その日の午後から、パプアニューギニア大学で、日本語を学んでいる学生たちの授業の手伝いに行くことになっていた。夜は、大学から中華レストランへ行き、打ち上げの食事をする予定だった。夫と子どもたちも招待を受けていた。

夜、約束の時間が過ぎてもやってこない三人に、私たちは何事かあったのかと心配する。電話をしようにも引越したすぐ後のため、電話は使えない。無線とも考えたが、何かあったのなら、夫のほうから連絡が入るだろうと思い、やめにした。

約束時間に三十分ほど遅れて、三人はレストランにやって来た。日焼けして真黒な顔の夫なのに、鼻から上が青ざめて見えた。確かに体の調子が悪い



民族のお祭り
ソゲリ高校の学生

ということとは読み取れた。

この夜の中華はマットクラブという蟹の料理をメインにしたごちそうだった。しかし、夫にとつては、その日のごちそうはごちそうでもなんでもなかったことだろう。家にたどり着くなり、倒れるようにベッドに横になってしまった。

夫が言うのには、私と昼食を取った後からにわかに腰が痛くなったということだ。そのうちに寒気がしてきて、腰の痛みも激しくなったとのこと。無線を入れたけれど、私たちの応答はなく、しかたなくレストランにでかけて来たということだった。健気にも子どもたちは、夫に口止めされていて、遅れて来た理由をはっきりと口に出すことはなかった。

熱を測ると三十九度五分、座薬を入れ、かぜ薬を飲む。

五月九日（火）、再び三十九度五分を体温計が示しているため、病院へ行くことを勧める。にわかにマラリアの恐怖が心の中に渦巻く。いつものかぜ



トロブリアンド島にて
夫と子どもたち
マラリアにかかってから3カ月後の夫

の症状とは、あきらかに違っているのだから。しかし、夫は、その日も病院へ行かず、三十九度五分の熱のまま、職場から帰って来た。

五月十日（水）、朝になっても熱は下がらず、ドクタータンの診療所へかけて行った。夫の話によると、診療所は薄暗くて汚らしく、ドクタータンは、熱を測るでも、体に触るでもなく、問診のみで、病名はマラリアであると告げたということだ。もちろん、これから検査センターに行つて、血液検査を受けるように指示され、薬はその後に出すと言われたという。

検査員は、注射針のようなものを夫の親指に突き刺し、埃まみれ（夫にはそう見えた）のプレパラートに血液を擦りつけ、検査室に持つて行った。その時、夫は、マラリアの恐怖よりも、親指に突き刺された注射針が使用済のものではないかと不安だったという。検査センターも診療所に負けず劣らず、薄暗く汚らしかったということだ。結果は陽性。つまりマラリアだ。

夫は、薬を持って帰って来た。

薬の副作用に苦しむ

ちょうど昼食時で、私はスバゲッテイーを作っていた。夫は、チャーハンが食べたいというので私は、チャーハンを作った。夫の前に差し出すと、「食べられない」と言う。「何だ、コイツー」と思うが、いたしかたない。相手はマラリアに侵されているのだから、少々のがままは許してやろうと思つた。

マラリアの薬は、甘くてぬるい紅茶と一緒に飲むようにと言われたということで、私は紅茶を淹れた。

昼食後、一回目の薬を飲む。

夜になり、顔全体が腫れてきた。夫は、酷い酔いのような感じだ。これは、薬の副作用のためだ。食欲はさらに落ち、大きな溜息ばかりをつく夫。ただただ眺めているだけしかできない私。

五月十一日（木）、八時間毎に、紅



近くのバリヴィレッジにでかけた時の私と子どもたち

茶で薬を飲むほかは、ただベッドで横になっただけの夫。おかゆのようなものを作るが、胸がムカムカして手が出ないということだ。午後になって顔に湿疹が出てきた。頭はポーツとしているらしく、思考力も低下している。りんごだけはどうか食べられるということ、りんごの皮を剥き、食べさせる。まるで妊婦さんのつわりのようだと言った。

さらに、夜には、耳の奥のほうに何か詰まっている感じで嫌だと言う。難聴状態も出てきた。私は、他の人たちから薬の副作用の話をあこれ聞いていたので、夫の話をウンウンと聞き流していた。

「毒で毒を殺しているんだから、体にいいわけじゃないんですよ」という人の話を思い出す。

夜十一時、この薬を最後に、明日は再び血液検査に行くことになっている。

五月十二日（金）に時が移ったころ、夫は、眠っていた私を強引に揺り起こした。「ねえー、心臓動いている？」と

私に聞くのだ。私は、今の今まで眠っていて、夫の質問の意味がよくわからない。私が、目をパチパチさせていると、「なんだか、すごく息苦しいし、目を覚まして意識して息をしないと、

息ができない感じなんだ。胸に手を当てても心臓の鼓動も感じない。ねエー心臓動いているかどうか、手を当ててみてよ」とどうしようもないという顔で言う。ようやくただ事ではないと夫の胸に手を当てる。「オヤツ、感じない。私にも夫の心臓の鼓動が感じない。心臓止つてるウ!! あーどうしよう。誰に知らせよう。電話、そういえばまだ使えなかつたんだ」たつた一瞬のことだったのに、頭の中にはいろんな思いが浮かんで消えた。

私は夫に向かって言った。「私にも感じないの」と。と同時に「心臓の止っている人が、こうやって眠っている人を起こしたり、しゃべったりできるものだろうか」と覚醒し始めた私の頭は考える。「もう一度、耳で聞いてみるから」と言うのと、すぐに夫の胸に耳

を当てた。ドク、ドクと力強い鼓動が聞えた。私は、「大丈夫、ドクドク、ちゃんと動いているわよ」と言った。夫は、ホツとしたような顔をした。

再び、今度は吐き気がすると行って、トイレに駆け込む。ほとんど食べ物らしい食べ物を取っていない胃から、先ほど飲んで、まだ溶け切れないでいたマラリアの薬だけが出てきた。「私が、起きてあげてから眠っても大丈夫だよ」と背中をさすってやった。「眠ってしまったら呼吸困難で死んでしまうよ」と言っていた夫ではあつたが、しばらくすると寢息をたてて、気持ちよさそうに眠っていた。

過ぎてしまい、元のように元気に暮せている今だから、その夜の二人の会話を思い出し、吹き出すほど笑つてしまうこともある。でもそうでなかつたら悲しい事であることは事実だ。現に、わが家で働いてくれているハウスメリー(メイド)の子どもは、私たちが、この国に来て初めて迎えた正月に、マラリアで死亡している。

朝、夫は血液検査を受けた。結果は陰性。これで、夫はマラリアの薬をこれ以上飲み続ける必要はなくなった。よって副作用に苦しむこともなくなった。ホツと一息つく。

五月十三日(土)、その後、微熱が続く。再びマラリアの心配が募る。ある方に勧められていた別の医者の方へ、血液検査をしていただきにかけた。結果は陰性ということで、ようやく安心することができた夫と私だった。

長くて苦しい一週間だった。夫のマラリアは、重症化の危険性の高い熱帯熱マラリアだったと聞く。

今回の体験で一番強く思ったことは、マラリアという病気自体よりも、薬の副作用の恐ろしさだった。もちろん熱帯熱マラリアは、薬を使わなければ、死もありうる病気である。しかし、それと同じほど夫は、薬の副作用で苦しんでいた。夫は、死、ということを知覚したとも言っている。

絶対に熱帯熱マラリアにはなりたくないものだ。蚊に刺されないように、

体力を落さないように、毎日を暮すことが大切だということを再認識した。

夫の発病を期に、次々に邦人の方々がマラリアにかかり、特に注意の必要な病気となった。

先月も、この国に赴任早々のご家族が四人のうち三人、マラリアになるということがあった。来て早々、大変だったことだろうと心が痛む。

ハマダラ蚊の猛威は、乾期といえども治まりそうにない。

わが家の子どもたちは、今日も虫よけリキッドを体中にベタベタ塗って学校へかけて行った。

それでもパラダイスの国

特別、これという娯楽があるわけではない。テレビプログラムは、英語ばかりだ。ブラブラと散歩するほどの勇氣もない。シャレた喫茶店などというものもない。あつても三日もあれば行きつくしてしまう。新刊書やベストセラーの本を手にするべき本屋さんもな



ハウスメリーのフィービーさん
彼女の下の子がマラリアで亡くなっている

い。図書館にかけたことはあるが、係の人に「ラスカルに気をつけてね」などと注意を受ける。それ以来でかけたことがない。日本にいた時のような刺激がない。ワクワクするようなことにはめつたに出合わない。

しかし、私は、ここ暮しが気に入っている。次々に新しい本を手に取りかわりに、一冊の本をじっくり読むこ

とができる。ツンツンとアンテナを張って緊張しながら取捨選択するかわりに、自然な出会いに身を委ねることができる。

片手間に、作文を書いていたのが、文章を書くための時間を、一番いい時に設定することができる。自分の心の移り変わりをじっくりと見つめることができる。つき合いたい人とだけつき合う



息子たちの遠足と一緒についてくるセキュリティーガード

ことができる。元気がない時は、家中でジイッとしていることもできる。安いお金でゴルフができる。この国に来た時はピギナーの私だった。今では、人に迷惑をかけずに十八ホールをまわることができる。いつでも美しい海のなかを眺めることもできる。浦島太郎気分だ。

夫は、そんな私を見て、「あなたは、

ぼくの十年分のゴルフをしてしまった」とか「あなたぐらいじゃないの、この国でこんなに楽しんでるのは」とか「これ以上羽が伸びないというぐらい羽を伸ばしきっている」と自分の腕をぐうつと伸ばしながら言う。

私は、ひとり遊びというものができないから、それなりに楽しく暮すことができるのかも知れない。逆に、こうい

う国だからこそ、ひとり遊びも上手になったといえなくもない。

「通勤時間で三分」の夫は、どんなに大変な仕事が入ってきたとしても、日本の比でないほど、私たちが家族という時間が長い。それは、私たちの夫婦関係、親子関係の長所、短所を見せつける結果となった。ごまかしたり気がつかないふりをするには、親密になり過ぎて不可能だった。少し辛いこともあるけれど、それは、これからの私たち家族に大きな結束を与えてくれた。ここでの暮らしはとてもシンプルだ。着る物も、情報も、住いものである。それは、身も心も自由になる第一歩のような気がする。

私たち流の暮し方を見つけた。

ラスカルやマラリア、子どもたちの教育など考えれば、問題は山積みだ。それでも、私は、今日も青い海を少しばかり目を細めて眺め、ゆつたりとした大きな風に抱かれている。この国は、パラダイスだ。

――終――

(写真提供・筆者)

おさない子を育てる



オモチャ狂想曲

千葉県柏市

さいたまゆみ (34歳)

夕飯の支度をしていると、リビングから娘の声がする。

「ほしいなー、いいなー」

見るとテレビのコマーシャル。放映中のアニメのキャラクターのものだ。小一のこの子を見るもの全部欲しがるタイプ。おまけに宣伝文句にのりやすい。こういう人間が、将来高額の羽毛布団や鍋のセットを買わされるはめになる。

それはさておき、いまどきの子供のオモチャのなんと豊富なこと！とくに親泣かせなのは、やはりテレビキャラクターのオモチャ。

その昔、特撮ヒーローは一人で敵に立ち向かっていった。今は、「五人揃って○○レンジャー」。各人がそれぞれ巨大ロボットに乗ってそれが合体する。買うと一万円くらいするシロモノだ。ここ二、三年ではさらに助っ人するロボットまで登場する始末。そして、○○ガン等の武器やら乗り物やら、みんなオモチャになって売られる。

女の子に人気のあるのは、いわずと知れたセーラームーン。これがまた、敵が変わるにつれて、変身アイテムやコスチュームがバージョンアップしていく。まあ、漫画のストーリーはどう展開してもかまわないが、オモチャもそれにつれてモデルチェンジするものだから……。以前クリスマスに買ったものは、三カ月で旧型になってしまった。今でもアニメで新しい変身アイテムに変わるたびに、「やめてくれー！」と叫ぶ私。

そうはいつても、最近娘のクラスでは「セーラームーンはダサイ」という評判。先日「別に見たくないけど、他に何もなければ」(なら野球かニュースにしてくれ!)と言いつつレディを見ていた。

が、安心する間もなく、今度はテレビゲームにはまった。N社の「ロケヨン」である。ビット数が六四で立体感のある映像が可能になったこの機種、九六年十月現在、まだソフトは三つしか出ていない。しかしその中のマリオ

がお気に入り、木曜の放課後はロクヨン、とばかりに持っている友達の家を渡り歩く。

この間、七人ほどでやっているのを見たが、みんな夢中になっている。うまい男の子がやると、マリオは難関をすいすい突破していく。が、娘のような初心者には操作されると、うまく進め



おさない子を育てる

ず壁にガンガンぶつけられたあげく、谷底へ落ちるは、凍った湖に落ちて「凍死」するはで、なかなか先に進めず、お気の毒なマリオであった。

出てくるキャラクターも可愛くて、女の子も夢中になるのもわかる。しかし、熱が入ると皆目の色が変わるのがちょっとコワイ。持ち主の女の子が

「みんなゲームばかりやってつまらない」（本人はもう飽きている）とボヤいているのも何だかわいそう。我が家に持ち込むにはちよつと考えものだったりする。夫は、もつとソフトが豊富に出回るまで待ったほうがいいという意見。もつとも一番コワイのは、親がハマることだ。現に、子供が寝てからやっているお母さんが結構いる。

もちろん子供は「買ってー、買ってー」の一点ばり。何万もするんだよつ、と言っても本人は、百までしかわからないので効き目なし。

十二月の声を聞けばクリスマス。片付けが出来ないこの娘には、洋服とか靴とか実用的なプレゼントのほうがいいんだがなあ。本当に欲しいものなら、半年も一年も待つてようやく手に入るほうが、感慨深いんだけどなあ。

でも娘は、サンタの住む北の国へ向かって、今年「ロクヨン」を柏手を打つてお願ひすることだろう。

まったく頭が痛い話だ。



食べない子が 食べるように なった理由

埼玉県浦和市
鈴木三代 (31歳)

「ごはんできたよ。食べようー」
「食べない。お腹すいてないー」

今日も恐怖の食事の時間がやってきた。来月三歳になる息子は、背が小さく、離乳食のころから「食べることに執着しない。なんとか食べて大きくなってもらおうと、毎日が悪戦苦闘の日々である。

一応席に座ってみるが、ながめるだけでスプーンやフォークに手がでない。そして手にするものは牛乳や麦茶といった飲み物だけ。これはあつという間に飲みきってしまう。そのあとその時の気分で食べ始めるが、面倒臭いのかすぐあきらめてしまう。まったく作りがいのない子だ。

とうとう私は「食べなさい」の連発になる。するといすの上で寝たふりをしたり、ますます私はカツとなる。結局食べさせてしまう。いつになったら一人で食べてくれるのだろうか。

先日、ある講座に出席し「わいふ」の田中編集長に出会い、思い切った今の悩みを相談してみた。すると答えは

こうだった。

「人間はお腹すかないということはありません。一日三回の食事の時以外は何も食べさせないで下さい。牛乳はやめて飲ませるなら麦茶だけにし、自分で食べなくなったり、遊び始めたら『もう食べないのね』と言って食器ごとかたづけして下さい」とのことだった。

そう言えばうちの子は牛乳が好きで、夏は水がわりに一リットル近く飲んでいたような気がする。これで満たされていたのかもしれない。期待と不安の中さっそく実行してみることにした。

まず、お腹をすかせるために食べる前に体操をした。その日の夜は、チャーン、サラダ、麦茶。半分は自分で食べたが、十分もしないうちに「もう食べない」といつものように言ってきた。この言葉の中には「食べさせて」という意味も含まれているのかな、とこの時初めて思った。

いつもなら「もつと食べなさい」と言うのだが、今日からは違う。食器を

かたづけられた息子の顔は不思議そうだった。

「すぐいすから降りて遊び始めた。私は、そのまま何も言わずに、弟である十カ月の子にぶどうを与えていた。すると、つかつかととなりやうてきて「あくん」と口を開けて待っていた。

「さつき、もう食べないって言ったでしょ」と言い、私は無視していた。息子はふてくされていた。

次の朝起きてすぐ「なんか飲みたいー」「ごはんまで待つて」のやりとりで冷蔵庫の前で泣きながら座りこんでいた。きつとお腹すいているんだ。食べるかな。しかし、思ったほど食べなかった。冷静に、冷静に。お昼に期待しよう。

お昼こそお腹すいていたのか、食べやすいドリアだったからか一人で全部食べた。

時間はかかったものの、すごくほめてあげたら、満足そうに調子にのっていた。このまま続িয়েくれたらどんなにいいか、夜は何にしようかと私自身

も活気がわいてきた。

これを機会に早寝早起を心がけ、朝は七時に起こすことにした。これまで



は、本人まかせだったので八時や九時だったり、一日のスタートが遅かった。私は楽だったが、大きく食事に影響し

ていたのだろう。

これからはお昼まで二時間は外遊びができそう。そして午後は兄弟でたつぶり二時間お昼寝をする。その間に夕食作りをし、六時には食べ始めることができた。まずはこのペースを乱さないようにしていきたい。そして、食事の内容や盛り付けにも工夫し、無理のない程度の量で、残さず一人で食べたという満足感を味わってもらいたい。

これを始めて三週間、息子も私の意向を感じてくれたのか、けっこうがなばって食べている。ほうれん草のごまあえやプロッコリーもおいしいと言ってくれた。わが家は明るい食卓になった。話に夢中になり手が止まるが、「もうごちそうさま？」と聞くと、「ごちそうさまじゃない」と言つてまた食べ出している。そして大きくなったお腹を見せて自慢している。どうしても食べたくない物は残すが、私はもう口出しも手出しもししていない。何と言つても食事は楽しくなくてはならないのだから。



得意なことを 褒めていたら……

東京都板橋区

友納けい子

うちの長男は早くに読み書きができた。周囲の人に驚かれ、ほめられもした。が、私は手放しで喜べないでいた。というのも彼には、「言葉が遅い」という心配があつて、当時の私には正直いって読み書きどころではなかったのである。

こちらの言っていることが理解できていれば、例えば「おんも行こうか？」と聞いたらウンとうなずくと、そういう反応があれば言葉が出なくとも心配はない（少なくとも耳のほうは）。が、彼は「おんも行こうか」と聞くとそのまま「おんも行こうか」とおうむ返しなのだ。……ひよつとして知恵遅れでは？（嫌な言葉だ）などいろいろ悩んだが、保育園で「大丈夫ですよ」といわれて一安心。が、受け答えは相変わらずはつきりしないことが多く、周りから「こいつ、パアなんだよ」などといじめられたり、笑われたりしていた。保育園に入る前はまだまだ愛敬もあつて、誰彼かまわずあいさつしたりしていたのに、だんだんに表情

も暗くなつていった。

二十一歳の現在、本人は「学校が自分をこんなにした」といつているが、私はそうではないと思つている。

あのころ私は彼がおとなしいのいいことに、一日中テレビにお守りをさせていた。テレビ自閉症」という言葉があつたが、彼はまさにそれだった。もともと受け身タイプの彼に、私は積極的な言葉の働きかけを、ほとんどしなかつた。そのくせ返事がないこと、反応の鈍さにいらだつて、命令、叱咤に終始し、口答えもさせなかつたのだ。

長ずるに及んで、彼は普通に話せるようにはなつた（今考えると別に心配はいらなかつたのだ）が、極端な人間嫌いになり、神経症気味にもなつて通院したりした。私も出来る限りの手助けをし、彼も努力し、いろんなことを話してくれるようになった。が今も外出大嫌い、友達付き合いも向こうから来たときだけ、用がなければ家の中にとじこもりつきりで何週間でも平気、

という状態である。

自信をもたせることが一番、と思い、得意なことをやらせてみる。そう、あのころ得意だった読み書きの才能はつ

ない」という。

——やはり幼いころの私の接し方に帰結するのだろう。本当に、三つ子の魂とはよくいったものだ。とりかえしが



つかない、とつくづく思う。

あのころあの子が唯一得意としていた読み書きを、手放しで喜び、褒め、励ましていたら、少なくとも現在のよ

うな状態にはならなかつたらう、と。
(え・小沢恵子)

ぶされずにすんで、本はよく読み、理解も深く、文章もなかなかで、実際投稿がラジオで放送されたり、絵が賞を取ったり、そのお陰で芸能人と対談する機会が持てたりしたこともあったのに、それでも本人は「自信につながら

おさない子を育てる

東京海上あんしん生命のご案内

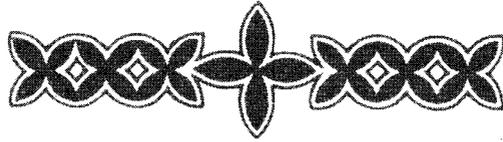
東京海上あんしん生命は、世界でもトップクラスの財務力・信用力をほこる損害保険会社「東京海上」の新会社として1996年8月に設立されました。どうぞよろしく願い致します。



くわしくは「わいあい」あて
電話で資料請求して下さい

わいふ指定代理店
東京海上火災保険株式会社

杉本保険事務所 杉本侑子 ☎03-3260-4771



フリースペース



秋の収穫

アメリカリトルロック市 伊藤琴子

蒸し暑く長いアーカンソーの夏が終わった。朝夕はめっきり涼しくなり空気がひんやりとしている。毎晩聞こえる虫の音もなんだか弱々しい。空は広く青く、落葉かきに精を出す。今は秋。

天高く馬肥ゆる秋である。しかし、肥えるのは馬だけじゃないのよね。最近はどういうわけか食欲が増すんだわ。果物も野菜もお砂糖の死ぬほどはいったデザートも、みーんな本当においしく感じられるよね。冬を迎えるにあたって脂肪を貯えるという自然の摂理が何か知らないけど、暖房技術の進んだ現代じゃ脂肪を貯えるという行為は白い眼で見られてる。ま、なにしろお腹が減るから食べる。食べるから体重が増える。そして、太いとボーイフレンドができない。それじゃ困るのだ。秋は敵。

三十路も後半の後半になり、私も真剣に

結婚を考えるようになった(正式に「わいふ」の会員になるのよ)。子供を産みたいという本能が、男が欲しいという煩惱になつてしまい、いつもレーダーをはっているのだけど、よい種馬はとつくの昔に結婚して、残りは中古車的なポンコツの多いこの社会で、中年になつての王子様探しというのは夢の夢なのである(悲しいつ)。

その上にこの体である。背の低い上に足が短い。ブラジャーとパンティからお肉がはみ出ちゃっている。首は太い。髪は浴室のタオルが洗えるくらい固いの。ま、唯一のお恵みは顔が見られないほどのブスじゃないということ、健康でいられるつてところかな。

バラリーは、ユダヤ人とプエルトリコ人のハーフで、私のコンドミニウムから歩いて二、三分のところに住んでいる友人である。三年前私の社会学理論をとっていたが聡明で頭のきれいな美人である。とても優しい彼女は男に金を貢いで失敗しており、今度こそほいほい男を探そうと、私同様頑張っているが、彼女曰く「男を捕えるにはそれなりの容姿つてものが必要なのよね。第

一はなんつたつて容姿よ。こつちに気がついてくれれば、私達、性格とインテリジエンスで勝負できるものね」。六月のことである。

恋愛という土俵で勝負するには、それなりの訓練が必要である。努力のないところに栄光などないのだ。と、いうわけでバラリーと私は毎晩一時間、この坂の多い街で速歩に出かける。夏は暑い。美しくプロポーションのよい若いギャル達は、昼間ビキニを着てプールに行く（私の体を見て♡）。私達中年の下着から脂肪がはみ出し組のおばさんは、日が暮れるのを待ってから、精出して歩きに行くのだ（努力あるのみ）。

最初は慣れるまで大変だった。「もうだめ。ハアツ、ハアツ」と言うバラリーの大きな尻を私が押してやる。「ほらっ、こうすると楽でしょ」。坂は本当にしんどい。私が苦しい思いをしている日は彼女が手をさしのべてくれる。「ほらっ」。

ある晩のこと、私は途中でトイレに行きたくなった。お腹も痛くなつて困つた、と言つたらバラリーは野糞をしろと言ふ。



「大学の教授がそんなことできない。うっ」
「お高くとまつてるのね、トイレに行く時は、人間皆同じ」

私は我慢した（セーフ）。

一時間の速歩中、バラリーと私はしゃべりまくる。人間関係、発見（歳をとるとね、あそこの毛も白髪になるのよ！知つた？）、知識（歴史、文学、株）と、話題はつきない。あつという間に時間が過ぎていく。友情が深まっていく。

私の体重は減つた。スカートのサイズが十四から十になつた。身が軽い分気持ちも軽くなつてルンルンと職場に向かう。秋の日差しはまだ強いから、日焼け防止の帽子などもかぶつて行くのよ。「先生、最近とつても綺麗になつたね」、なんて歯の浮いたようなことを言う若いツバメ学生もいて、ごますりと知りつつとても嬉しい。

で、最近公務員のマイク君と毎週水曜日ランチを食べてる。真面目で誠実な彼に私はとてもひかれてるのだ。それにしても、ここまで来るのになんと蒸し暑く、遠く長い道のりだつたことか。私はこの秋が、この始まつたばかりの二人の気持ちをも、な

んとか実らせてくれたらなアと思っている。
そして、今晚もまた歩きに行くのだ。

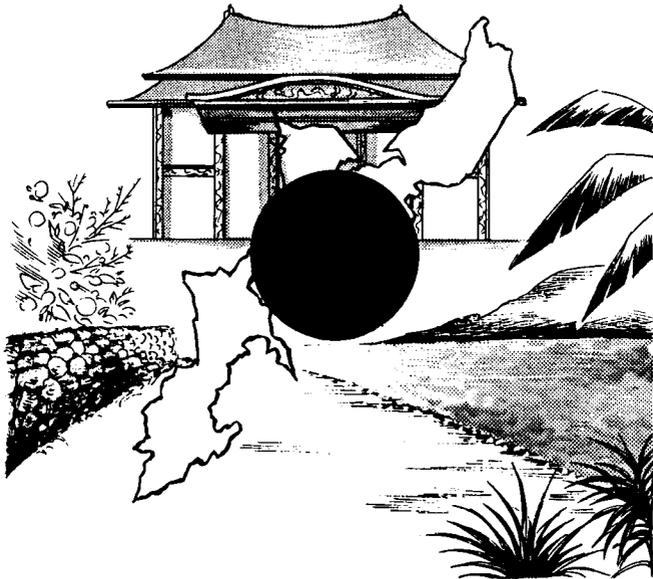
基地と緑の海とカミのへい

埼玉県川口市 木村委美

沖縄行きを決めたのは、アジア旅行への
第一歩というくらいの気持ちだった。日本
であって日本でないところは一体どんな
ところなのだろう、とまあ単純な発想であ
った。

那覇空港に降り立つと、やはり南国だ。
異様に暖かい。その暖かさが「異国」とな
って私を狼狽させた。鉄道の駅がないこと
も頭痛の種となった。まずどこへ出ればい
いというのだろう。先入観をもたないよう
にと、ほとんど準備をせず来てしまったこ
とをやや後悔しはじめた。

私の沖縄への知識といえば、戦争の傷跡
であるひめゆりの塔、赤い首里城、米軍基



地、美しい海と、じつにおそまつなものだった。

ついでに恥をさらすと、旅行前に国土地理院の二万五千分の一の地形図を手に入れるために出掛けた、神田の地図専門店で、「沖縄本島の地図を全部ください」と言って店員をあきれさせたのだ。

なぜ地形図かというと、ガイドブックを持って歩くのでは表面をなぞるだけで終わるので、地形図にある情報を頼りに探し歩くとういわけなのだ。理想はあくまで立派なのだが、なかなかこれは難しい作業だ。残念ながら、ガイドブック程度のことと終わることも間々あるが、あきらめ切れず続けている。

「けっこう広いですよ」と彼が言うので、見本の地図を見て初めて分かったことは、せいぜい五、六枚と思っていた予想は見事に裏切られ、とても全部買うわけにはいかないほど広いということだ。自分の無知に驚いてしまい、すっかり困り果て、結局その日は一枚も買えず、出直すことにした。

二、三日後、図書館でガイドブックを借り、あたりをつけることにした。行くとな

れば、まず戦跡のある南部、海は捨てがたいのでビーチのほう、そして北部の森、ついでに比較的近い離島の久米島と、大きっぱに地図を買い求めたのだ。

とりあえず那覇市のメインストリートへ行ってみた。ここは地方の都市とさして変わりないが、歩道に看板が出ていたり、人が多くにぎやかで、全体に明るいムードに包まれていて、活気がある。米軍の払い下げショップもその通りにある。そこでは迷彩服だのモデルガンだのがごく当たり前で売られていて、東京のような一種の後ろめたさのようなものはなく、あつけらかんとしている。洋服も厚ぼつたい冬服などは無論なく、白地に柄もののTシャツが目立つ。酒屋には、泡盛ばかりが並べられている。地下で泡盛を飲み比べさせてくれる店なんかもある。しかし、私はやっぱり日本酒のほっがはるかに飲みやすいと思っばかりだ。市場があるのでのぞいてみた。地方へ行けば有名な市場も沢山あるが、それよりひなびていて、昔の下町の商店街の中の市場を大きくしたような、とても懐かしい雰囲気。結構長いアーケードが続く。八百屋を

のぞくと、見たことのない野菜や、パパイヤのような東南アジア系の果物や、馬鹿でかいイモだのが、見慣れた野菜のなかに交じって並べられていて、そのちよつとした違いだけでワクワクしてくる。

今晚の宿、那覇ユースホステルは大きなところだ。食事は特別沖縄らしくもないが、ユースとしてはやけに大きなステーキでアメリカンなムードである。シークワシヤー・ジュース（シークワシヤーは特産の柑橘）というのを初めて飲んだ。独特の酸っぱさと薬草を煎じたような香りがして、妙な飲み物だと思つたが、その後では、沖縄の暑さを癒すのに合っているような気がして、すっかり気に入ってしまった。

食事が終わると、情報交換が始まる。

九州からきたバイクの若い夫婦からは、ひめゆりの塔のそばの平和祈念資料館での体験者による解説がよかった、明日までやりますと言われ、すっかりその気になった。

ほかに一人旅の若い男性が二人。一人はバスで回っていてやはり乗り継ぎに苦労したと言っていた。同感。彼はアメリカンな

都市、沖縄市が一番よかったと言っていた。

もう一人は、はよりのインターネットで知り合った地元の友人（ジモティーというのだそうだ）に案内してもらったという。何と進んだ人なのだろうかとすっかり感心してしまった。

彼が聞いてきた話とは、何と、沖縄は戦前までは風葬をしていて、一部に鳥葬もあったという話であった。無論沖縄も今では火葬なのだが、日本の今の火葬の混雑ぶり、機械的で殺伐とした進め方に、違和感を感じながらも慣れてしまっていた私は、かなりカルチャーショックを受けた。



もともと、少し振り返れば、本島のほうだつてつい最近までは土葬だったりした地方面もあるわけだから、そんなに驚くことではないかもしれないが、土葬と風葬とはやはり違う風習と思っていだろう。モンゴとかの風習だと思っていたことが、ここにも存在することは、それはやはり異国である。しかし今の沖縄の日常の営みや言葉という基本的なベースは、やはり日本のものだから、日本に違いないのだという話になつていった。

しかしそれは、日本にさせられてしまったということなのではないか、何をもつて

同じ国だと判断すればいいのだろうかという疑問ともなつて返ってくる。だんだんいつもの情報交換という軽い気分ではいられなくなり、疑問やショックがいきなりのしかかつてきて、がくつと疲れ、もつと話していたかったが、私は席を外さざるを得なくなった。

ここまでは、どこにでもいる気のいいまじめな、ごくふつうのユースホステラー（宿泊者）たちであった。食事をとらない素泊まりの宿泊客のなかには、旅先ですっかり開放的な気分になつてしまつていいる男性客（いわゆるホステラーとは呼べないような人たち）もいた。妙になれなれしく寄つてきて、どの女優のどこがいいだの、あの女優は処女だのと、全くどうでもいいような話を延々と続けている。一体彼らは何をしに来たのだろうかと思うが、そこがまた南の国らしさなのかもしれない。いろいろな人間が集まつてくるのだ。

いずれにしても、素朴さと異国の文化を味わいに来た私をすこし裏切ってくれた沖縄でもあった。

訃

原眞智子さんは、一四六号（一九七七年五月二十五日発行）から十九年間も、わいふを購読してくださいました。ご投稿もしばしばで、「エッセイスト・クラブ」で活躍され、最近では二六〇号の「ガラス三題」があります。

女の時事放談（二五二号「天皇と私」）に出席なさったこともありました。

ところが今年の九月末、ご夫君からお電話があり、九月十六日に亡くなられたというところで編集部一同驚愕しました。一年前にながの告知を受け、残された日々を充実して過ごされたよしで、その後、ご夫君は遺品の中にあつた「友だちへの別れの言葉」をお送りくださいました。

わいふ会員に向けてのお別れとも思われますので、ご夫君のお許しを得て掲載させていただきます。

わたしの友だちのあなた

一九九六・四・五

時間の手持ちが少なくなつた今、直接お会いしてお別れを言うことができないかも

知れないので一筆申し上げます。

ご交際いただいてありがとうございます。人間は一人では生きられないもの、また家族とだけでは充分生きて言うわけにいかないものです。たくさんの方々に恵まれてわたしは幸せでした。それぞれの個性に触発されるところがあり、教えられるところもあり、あなたはわたしの人生を豊かにして下さったのです。

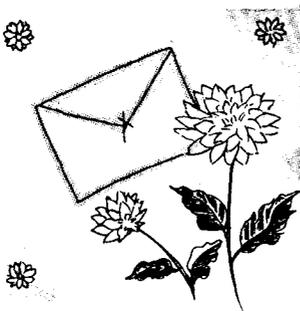
そう、わたしの人生、今としては長くないかも知れませんが、六十年に余るといえば、いぶんな長さでもあります。わたしは自分の人生の長さにも内容にもとても満足しているのです。何よりもわたしを思ってくれる配偶者があり、よいむすこたち、そのつれあいたちがあり、近親者の愛情にも恵まれたこの年月、わたしは幸せに生きてきました。こしはらくは「オペレッタコース・ウィーンのひびき」と地元の「いずみコール」でコーラスを楽しみ、一方では文章を書いて雑誌、わいふに掲載されるのを楽しみにしていました。大好きなコースと文章を書くことができ、また夫と二人で内外のあちこちに旅行もできて、本

当に言うことはありません。

なつかしいあなた。どうぞ悲しまないで下さい。わたしを思い出して下さい。ありがとうございます。どうか、あなたの一番好きな歌の「ふしを歌って下さいませんか。唱歌でも演歌でもオペラでもポピュラーでも。それはきくとわたしにも聞えます。

限りない感謝と共にお別れます。さようなら

原 眞智子



（え・梅村 蕪）

母の 特別養護老人ホーム 転入所

(前)

遺族年金―入所一週間前

匿名

近いホームに入れたが……

母が我が家から遠い市外のA特別養護老人ホームに入所してから、一年四カ月経った今年(一九九六年)の二月十三日、市の高齢者福祉課から電話があった。市内のD特別養護老人ホームに、母が三月一日に転入所することが決定したという。

私の親友が、可能性の有無はともかく、母の在宅介護の時デイサービスで世話になった市内のDホームへの入所を、そのホームに縁のある彼女の知人に頼んでみてくれたのだ。そんな都合のいい、夢のような話はないと思いつながら、私はやはり期待していた。

そして二十二日(木)、Dホームへ入所手続きの書類を受け取りに行き、母がDホームに入所できることが確実であることがわかり、帰宅してからもこみあげる嬉しさをどうすることもできなかった。

しかしDホームへの入所に際して母の遺族年金のことが気になった。



二年前の十月に、母が今の市外のA特別養護老人ホームに入所し、その一月後に父が亡くなった。兄は母の遺族年金受給手続きをし、兄が開いた母名義の口座に母の遺族年金が振り込まれ、兄夫婦がそれを管理している。母の住民票はホームにあり、母の国民年金はホームが管理している。

遺族年金発生時点で私は、母のホーム入所後に発生した遺族年金も、ホームが管理すべきものではないのかと思った。入所者一人につき月三十万円の費用がかかり、本人の収入の七割（自己負担金）と扶養義務者の収入に応じた負担金（家族負担金）と、あと足りない分は公費で賄っているからである。母の場合、ホーム入所時は母の住民票は我が家であり、私が私の地区の自治体にホーム入所を申し込んでいたので、ホーム入所に際しての扶養義務者は同居の実子ということで、所得ゼロの私がなっている。それで税制上母を扶養している兄がいても、家族負担金はゼロなのである。足りない分は公費でみてもらっているのだから、母の収入である遺族年金を申告すべきことは理の当然である。

二月二十三日（金）、まだ市外のAホームに入所中で、我が家に外泊していた母をホームに送って行った時、ホームの人にきくと、やはり遺族年金の管理はたいいはホームに任せるものらしい。そして彼は、母の国民年金が年約四十万円、遺族年金が約九十九万円であるといった。彼は私が母の世話をしながら、母の収入である年金についてまったく何も知らないことが不思議だったようだ。

私は今度母が入所するDホームに遺族年金のことを話した。ホームの副園長は、兄が遺族年金を受け取っていて、ホームに管理を任せていないことを知ると、「入所どころの話と違います！」と驚き、私にすぐ市役所の担当者にそのことをいうように指示した。

誰が年金を管理する？

私はこの「入所どころの話と違います」ということばに震え上がった。遺族年金の一件

で、母のホーム転入所どころか入所そのものが取り消しになるのではないかと、母が入所してしまふまでずっと怯え続けることになった。

市役所の担当者は大変慌て、追徴金を計算するから遺族年金を最初に受け取った日付と額を、夜十時まで市役所で待つから知らせてほしいといった。

兄宅へ電話したが兄は晩六時ごろにはまだ帰宅していない。兄の妻は通帳がどこにあるか知らないという。

晩八時ごろ、市の担当者から、兄が母の遺族年金を最初に受け取った日付と金額がわかったという電話があった。入所に遺族年金の存在がわかり、間に合ってよかったと彼は何度もいった。彼は、

「お母さんの自己負担金が七月から七万七千円になりますが、あと足りない分はどうするんですか」

という。それまで母の国民年金が月三万二千円なので、母の自己負担金はその七割で約二万二千円だった。そこへ遺族年金が月八万三千円、合せて約十一万円の収入になるので、その七割では母のひと月の自己負担金は七万七千円になる。従ってこれまでより五万五千円上のせして、払わなければならない。

「兄が遺族年金を受け取っていますので、兄に出してもらいます」と私がいうと彼は、

「あれはお兄さんのお金と違います、M田S子さんのお金です！」と声を荒らげた。

担当者は収入のある兄が母の遺族年金を受け取りながら、家族負担金を免れていることが不愉快なのだ。私たちがグルになつて家族負担金を免れるために、母の住民票を無収入の私のところに移したと思つたのだろう。

私は、私が母を在宅介護するので、公的サービスを受けるために母の住民票を我が家へ移し、扶養義務者は同居の実子ということで私になり、結果としてこうなつたことを説明



した。それでも彼は怒りの収まらないようだった。

兄の強腰

翌二十四日の土曜日、私が母の遺族年金のことで電話したことを、自分の妻から聞いた兄が、激しい口調で電話をしてきた。遺族年金の管理をDホームには任せないという。遺族年金の受給手続きは自分が休暇を取ってしたものだし、その時手続きに必要な書類を取りに行ったAホームも、手続きをした役所も何もいかなかったというのだ。また遺族年金は両親が四年前まで住んでいた時の赤字（四年前、両親が兄宅へ引っ越した後も光熱費などを払っていたのでそのことだ）と思う。また屋根の修理もしたと兄がいつていた、昨年八月、母の特別養護老人ホーム入所時までの母の入り用として私が請求した三十万円、昨年八月以後私に渡している月々の三万円、そんなことに使っているという。そのことを月曜日に市の担当者で説明に行くという。

「以前に私、いうたでしょ！ 公費でみてもらってるから、お母ちゃんの遺族年金は預けるべきと思うよ！」

兄と同じように私も強い調子でいった。

「おまえ、その市の担当者と、よくしゃべってるのか！」

兄は喧嘩腰でいった。

その夜、帰宅した夫に事の顛末をいうと、夫は「自己負担金を兄さんが遺族年金から出さないというなら、僕が必ず払うからと市役所に電話しておき」といつてくれた。

二十六日、月曜日の朝、遺族年金の一件を心配したDホームから電話があった。私が、兄が遺族年金の管理をホームに任せざることを承知していないことをいい、

「兄が母の個人負担金を（母の遺族年金から）出さないなら、私の夫が必ず払いますので、どうか入所をよろしく願います」

と頼んだ。担当者は兄が母の遺族年金をホームに渡さず、自分が受け取っていたことにつ

いて、

「事情はどうあれ、遺族年金を受け取っていたことを隠していたということになりま
す！」

と怒った。

その晩、市の担当者から電話があった。兄は市の担当者の説明に行くといっていたが、
電話もしていないのである。遺族年金の管理をホームに任せることについて兄は納得して
いないし、私がいつても到底承諾しないといひ、

「ホームに非協力的と見なされることとか、必ずしも預けなくてもいいがこんな例はない
こととか、あなたのほうからいつていただいたら兄も納得するかもしれない」

と彼が私にいつたことをそのまま、彼から兄に直接いつてほしいとお願いした。彼はそれ
なら自分が直に電話するといひ、

「あなたの依頼ということでもいいですね」
と念を押した。私は、

「兄が母の遺族年金をホームに預けず、自己負担金も出さないなら、私の夫が必ず出しま
すので、どうかくれぐれも入所をよろしく願ひします」

とホームの人にお願ひしたことを、市の担当者にもお願ひした。

「そのこと、兄さんにもいつてもいいですか！」

と彼はいつた。そんなことをいつと兄を刺激するのはわかりきつてゐる。私は兄との摩擦
はできるだけ避けたい。とにかく今は母が無事入所できることが先決である。

「いえ、やめてください」
と私はいつた。

間もなく彼から電話があつた。

「お兄さん、快く納得して下さいました」

と彼は明るい声でいつた。



その直後、今度は兄からにこやかな声で電話があった。担当者の説明を聞いて、遺族年金の管理をホームに任せることを承知したという。そして今までは私になっていた母の身元引き受け人には今度は兄がなり、入り用は兄が申し出て出してもらえらしい。私に毎月三万円渡したいから、と兄はいった。最後に兄は上機嫌で、

「あの人、ええ人やな」という。

なぜ兄がこんなに上機嫌なのか不思議だった。ただ市の担当者がどういつて兄に年金を預けることを快く承知させたのだろうとは思った。理由が分かったのはずっと後になってからである。

何とか転所に漕ぎつける

翌日の二十七日（火）、Dホームに電話し、兄が遺族年金証書をホームに預けることを承諾したことを伝えたと、副園長は、

「よかったですね。生活保護を受けている人でも預けています。こんな人初めてです。お兄さんには今まで苦労してこられたでしょう」と同情の口調だった。

続いて副園長は、身元引き受け人は実際に母の面倒を見ている私になってほしいといった。今の市外のAホームでも私が身元引き受け人になっていることだし、私は気楽に考えて、ホームがそう希望するなら私になっても問題はないと思った。

その日の午後、母をAホームへ迎えに行き、一年五カ月毎週送り迎えしたこのホームを母は退所した。

—つづく—

わいわい がやがや

一枚のガム

千葉県茂原市●米良恭子

自宅から五分ほどの所に幼稚園があり、園庭はいつも開放されていた。周りは囲いもなく、そこへ行けばいつでも必ず誰かがいて、子供達の格好の遊び場所になっていた。親も安心していられた。息子も常連の一人だった。

ところが、四年生になった時、瞬く間に周りに金網が張り廻らされて、鍵が付けられたばかりか、「部外者立入禁止」の立札までがしっかりと立てられてしまった。

ガラスを割ったり、事故があったのではなく、園長が替ったためだった。

前園長の心遣いで木登りが許されていた大きな木があり、そ

の木陰は休んだりおしゃべりしたりする場所でもあったのに、バツサリと切り倒されてしまった。



園庭は賑わいもなくひっそりとして、あつという間に全く違う寂しい風景と化してしまった。年少組から六年間も遊びなじんだ場所がいきなりなくなってしまうた。

そんな時、六年生の兄は日曜

毎に、クラス対抗の野球の試合に喜々として出掛けて行った。弟はそれに目を付けて一緒にくつついて通っていたが、当然ただ見ているだけだった。それにあきたらなくなり、入れて欲しいと兄に頼んでも、六年対六年の試合だからダメだと言われる。それではと別の子に頼んでも答えは同じだったが、懲りずに通い続けた。

そのうちに後ろのほうでチョロチョロと球拾いをやっていたらしい。

ある日の夕方、喜び勇んで「今日に入れてもらえた!!」と帰って来た。

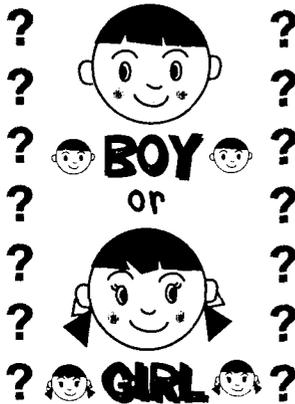
行く前にガムを二個買って行き、みんなに一枚ずつ配って頼んだらすぐ入れてくれたと言う。この時、「この子は大人になっても世間をじょうずに渡っていける」そう確信した。

それからは欠員が出ると声を

かけてくれて、時々仲間に入れてもらえた。
あの時の四年生は一月に成人式を迎える。

男ってやつは……

東京都葛飾区●吉長真子（32歳）
「男の子は立ってするの。女の子は座ってするの」。保育園のトイレで男児用の便器を使うよ



うになつてからというもの、息子は家でも繰り返し言う言つて、男・女を意識するようになつた。そのうち「おかあちゃんは女の子なの？」と確かめるようになったと思つていたら、最近「おかあちゃんは女の子だから入っちゃだめ!」とか「やつくんは男の子だからいいの。おかあちゃんは女の子だからここで待って!」と言つて私の動きを制し、自分だけ何かしうとする。その言い草の憎らしいこと! まだ三歳になつたは

かりなのに、何でもこんな言い方するわけ? 一体どこで覚えてくるの? 息子に悪意があるとと思わなければ、こんな言われ方をすると本気で腹が立つ。ところが先日、担任の保母さんが連絡ノートにこんな会話を書き留めてくれた。

やすひさ(うちの息子)、
「さやかちゃんは女の子なんだから……」
さやか(クラスのお友達)、

「女の子じゃないよ、いながきさやかだよ!」

痛快、痛快! 「女・男である前に、私は私よ!」とは素晴らしい。さやかちゃんに拍手! 久しぶりに心の底から気持ちよく笑つて、夫に連絡ノートを見せると、「何がそんなにおかしいの?」と一言。やつぱりあなたには理解できないのね。あーあ、ため息。

(え・山田京子)

自費出版は
“わいふ”へどうぞ!

“わいふ”編集部では自費出版の制作をしています。本をお出しになりたい方は、ぜひご利用ください。

自分史、回想録、旅行記、
童話、詩集、歌集、句集、同人雑誌、絵本、コミックまで何でも作れます。

費用はモノによりいろいろ違つてきますが、市価よりは確実に安いです。事情を伺いご相談に応じますので、ぜひお問い合わせください。

イラストも用意できますし、文章をお書きになれない方のために、聞き書きのまとめもいたします。

人生の記念に計画なさつてはいかがでしょうか。

幸平、ナイスシュート!



〔作〕 続木敏博
〔絵〕 タカダカズヤ

この物語は、少年サッカーチームのキャプテンで大活躍している幸平が、ある日突然「白血病（血液のがん）」と診断され、つらい闘病生活に入るといところから始まる。様々な化学療法もよい結果が得られず、残さ

れた道は「骨髄移植」のみ、と医師に宣告される。

幸平の命を救うため、家族・クラスメート・PTA・サッカーチームのみんなが協力して、ドナー（骨髄提供者）を呼びかける活動を始める。ポランティ

ア活動に目覚めていく幸平の仲間たちが何ともさわやかですばらしい。
私も早速パンフレットを取りよせた。この本で、ドナーが増えることを心から願う。
あけび書房 一四〇〇円(田)

生きる愉しみ 老いる愉しみ

女と男のシニア・ライフ



金森トシエ 著

筆者は長年読売新聞の記者を勤めた後、神奈川県立女性センターの館長として約十年間、地域の女性達の活動を支える中心的役割りを果たしてきた。

職業柄これまで多くの人と接し、またさまざまなドラマにも直面してきたが、この本はそう

した出会いの中から掬いとつた人生風景の、点描ともいえる小文をいくつか集めたものである。
女が仕事と家庭を両立させながら働き続けるのは、さぞ厳しい道のりだったろうと察せられるが、そうした思い出話もカラリとユーモアまじりに綴られて

いて、苦労の跡を見せないところはすこい。しかも文体は歯切れよく、話題も豊富で人生経験の幅広さがうかがわれる。
老いて生きることを心から愉しんでいる筆者の心意気が、そのまま伝わってくるような本だ。

海竜社 一五四五円(辻)

警告！ 早期教育が危ない

臨床現場からの報告



高良 聖 編著

「早期教育」とは何か、その結果子どもたちにどんな危険が迫っているのか——現場からその影の部分をあぶり出す臨床心理士、教育心理学者、教師など、八人の人々の筆になる充実したレポート。一読、慄然とする。

遊びを奪われて、一、二歳のときから塾通いに駆り立てられる子どもたち。子どもはけなげに親の期待に応えようとする。「自分が喜んで行っているのだから」という安心のかげに、失われているものがどんなに多い

か。ある日それが病的症状として噴き出すまで親にはわからな

い。
教育産業による子育ての頹廃が、ついにここまでできたか、と驚かされる一冊である。
日本評論社 一六四八円(伴)

失速するよい子たち



三好邦雄 著

精神科医の著者は十年前から、ある日突然エネルギーが枯渇して、何もやる気が起こらなくなってしまう中学生をみてきた。そのころは冷静で論理的なおとなおとなの母親のもとで育った子に多かった。

しかし、いまは普通の家庭で起こっている。母と子が密着して育つ結果、子どもらしい遊びの時間がなく、そばにいる親の影響を受けすぎることからくる。緊張度が非常に高いのがこわい子の子の特徴。幼い時からよい

子で親のいうことをよく聞き、成績もよい。おとな子どもと著者は呼ぶ。親も時には自分の子どもの部分を出して一緒に遊び、「適切な子ども扱い」をして育てる工夫が必要ということだ。
主婦の友社 一、二〇〇円(間)

ボクが弁護士になった理由



伊藤芳朗 著

「エライ人、稼ぎの多い人」と思って弁護士を目指した「せこいナニワのガキ」は、灘中に入学したものの、中三にして友達を作り方を知らない自分に気付き人格改造を開始。

家族、クラブ活動、灘高での生徒会活動、東大時代のカルト

集団との接触、塾講師や家庭教師の体験、ハチャメチャな司法修習生時代、同期同班だった坂本堤弁護士のおウム事件をへて、子供の人權、カルト宗教問題に取り組むようになる。シビアな話も脱線に継ぐ脱線に笑ってしまうのだが、どこを読んでも確

かに教育問題を語る本である！
女子高生コンクリート詰殺人やオウムのような事件を「特殊な事件」と切り捨ててしまいがちな私達に、そこに学ぶべき何かがあることを示唆している。マンガも楽しく若者にもお薦め。
教育史料出版会 一五四五円税

あなたの老後の運命は

徹底比較ルポ デンマーク・ドイツ・日本



大熊一夫 著

デンマークの高齢者介護費用はざっと年十二兆円、ドイツのそれは五兆円、日本は二兆円。金額の差はそのまま、病に倒れた高齢者の体に現れている。福祉にお金(＝人手)をかけるデンマークの老人病院の患者に床

擦れはなく、ドイツはあつても硬貨大、日本は草履大だぞうだ。本書はデンマークとドイツ、日本の福祉の実態を比較ルポし、日本の高齢者いじめを浮き彫りにした一冊。同時に、経済発展だけに奔走する日本の政治

の問題点も如実に示している。今、税金を何に使うべきか？本書を読んだ多くの人がそう考えるだろう。それが人間の尊厳に、いつかは必ず老いる私たちの未来に繋がっているのだから。
ぶどう社 一七〇〇円(佐)

私も ひとこと

同じ雑誌でも……

東京都目黒区 クワシイ智美

「わいふ」のメンバーって婦人公論をどう思っているのかな。敵対心持つてるとか毎月買つて熟読しますとか。投稿もしたことある人とか……。あちらは毎月出てるし原稿料もあるんですよ。私は婦人公論は立ち読みか図書館で借ります。あとベネッセの雑誌は絶対買わない。だってあの会社高い託児所で稼ごうとしてるから。ポリシー持つて雑誌買うのって自身の選択！ だから「わいふ」！

つまらない

大阪府茨木市 三好敬子

成人して、これが何回めの選挙だろう。結果はいつもガツカリだけど、今回ほど直前まで完全浮動票だったのは初めてだ。変なシステムだと思うが、それを許したのもわたしたち？ 投票率の低いのが、何とも歯痒い。

ただ、今回は、たまたま購読している週刊誌に判事の詳しい判決姿勢などが載っていた、きちんと不信任の表明のできたのが、うれしかった。公報だけでは、資料不十分だ。

初恋に関する投稿

熊本県天草郡 松本とみよ（40歳）

国沢さんの初恋の投稿がポツになったというのを読んだ。私も同じく、初恋物語がポツになったので、自分のことを書いてあるのでは？と思つたほど。これが不倫物語だったら絶対ポツにはならなかったと思う。それほど初恋がありふれてて、本人にとつてのみ貴重な話だということか。私の、けっこう奇想天外な話のはずだったのだが、誰か自信のある方、初恋の話に挑戦してみて下さらない？

「アメリカ家族留学記」に思う

千葉県君津市 山橋ゆり（48歳）

「わいふ」を手にして二年、この二年の毎号に必ず登場される方々、いささか辟易。確かに内容豊か、キマった文章で、感心もするが、関心も薄れる。もう投稿される方も固定化しているってことか。仲良しクラブにしたくないとか、レベルを保つとか、問題提起するとかつていうことでそうなら（なおのこと）もうやめたい。下手でも初めての人とか、たまに登場という人のを読みたい。

愛知県春日井市 伊藤てる子

「お母さん、わいふ」の「アメリカ家族留学記」読んでる？」「読んでるよ、どうして」「あの方はね、私と同じ大学で同級生なの」「へえー、そうなの、幼いお子様をお連れしてご勉学立派ね」と娘と電話で話した。

今回が最終回、厳しい条件の異国で精一杯のご努力の姿勢には、ただただ頭がさがる。私も平尾さんに刺激され、ワープロ教室に行き始めた。人間は情熱が大切だと思つて。

二者択一？

川崎市宮前区 布施孝子

二六二号の「おさない子を育てる」のコーナーでの井上いずみさんの保育園考を拝見して、今手元で育てている娘とお腹の子供のこれからについて考えさせられた。保育園でのびのび過ごさせたい。そんな気持ちと裏腹に、子供と一緒におやつを作ったり工作したりする喜びも充分味わいたい。絵本や散歩、外遊びも堪能したい、とも思う。果してどの選択がベストなのか!? しばらくは悩める秋。

幼稚園ママは知らない

埼玉県富士見市 高田晴美（34歳）

「保育園なんて、預けるところじゃないよ」と幼稚園ママに言われ、複雑な気分になる。我が子二人は、幼稚園に通園したが、私は、幼稚園でも、保育園でも、働いた事があるのだ。私が思う違いとは、預けている母親が違うということだ。母親同士おしゃべりする暇があるか? ないか? の違いで、私立の保育園は今、英会話を教え、学くんのコンピュータを導入したりして、ニーズに答えている。

肌のぬくもり

神戸市垂水区 木村ますみ

二歳の長女が落ちた。高さ一・五メートル。下はコンクリート。救急車の中で抱きしめながらこのぬくもりがなくなってしまうことを思い、いやそんなことあつてたまるかと思死で祈った。幸いにも異状なく助けられた。

その事があつてから、一日に何度も子供を抱きしめてしまう。肌のぬくもりを感じ、汗の臭いと甘い香りを嗅ぐ。生きていてくれることの幸せを実感し、感謝してやまない。

見るだけ……

新潟県長岡市 大原清子

親とは、木の上に立つて見ているだけ。まさしく字のごとく。おしめを替え、手をつないで歩き、泣くと抱けばよかった。それが、突然、できなくなる日が、やつてくる。何もしてやれずただ見ただけ。じっとしていることの何と辛いことか。

母の背を越した長男。私の子育ては、いよいよこれからが本番のような気がする。やつと一人前の親になれるのかもしれない。

お母さんのようにはならへん

埼玉県所沢市 塩野直子

娘だったころの私は、大変キャリア志向が強く、専業主婦で頭の中は常に子供のことが気がかりな母とケンカをする度に、「私は絶対お母さんのようにはならへん」と、言い放っていた。今、二歳と生後まもない子供と格闘しながらの毎日、ひたすら、彼らのためにだけに生きていくかのように、一人苦笑いしている。わいふが私の社会復帰、第一歩になりそうです。

老人クラブ様へ

静岡県浜松市 あひる

シニアクラブ、熟年クラブと、老人会が元氣印に変身しているらしいのはうれしい。でも六十歳では勧誘に来ないで下さいね。入会したい時は、こちらからお伺いしますから。早く老人にさせないで!

高齢者時代に突入するので、高齢者同士の支えあいも大切かも知れませんが、高世代こそ、趣味や生きがいと同じいろいろな世代から生命力を吸収したほうがよいのではないかと。

下痢しなかった？

川崎市宮前区 山田浩子

実家で二泊し帰ってくる、夫が自炊した形跡がある。どうやら「冷やし中華」を食べたらしい。流しに目をやると、一瞬ぞっとした。「これ、クレンザーつけたまま置いてあったのに……。きつとそのまま使ったんだろなあ」ステンレスの鍋に中華めんが少しこびりついていた。「でも、冷やすために水で洗い流すから大丈夫だよ」と自分に言い置き、夫には黙っておいた。

ライター気分

東京都保谷市 関 由美子（24歳）

あの時の私は頑張っていた。マスコミの世界に興味を持っていたがどうも一歩踏み出せずにいた。しかし、あの雑誌の「ページを見た日から、変わったのだ!!」マスコミ講座全十二回」。やってよかった。文章を書くってこんなに楽しいの。毎週の課題をこなすのは大変だったけど、三ヶ月のライター気分。あれから一年。また、文章が書きたくなってこうして、わいふに初投稿してみる。

十河さんの文を読んで

東京都北区 河重悦子

私も夫の母の介護をしました。八年間自宅療養を今年の七月四日で終わり、今は小さな骨つぼの中で眠っています。私の覚悟を決めた理由は、長男の嫁だから当たり前だということ、私の主人の弟はまだ独身だから無理だ、ということを決めました。拘束感がつらいとあるが、これは本当だ。私は、絵を見に行ったり、泳ぎに行ったり、短時間のリフレッシュを作ることができました。

被服費

静岡県清水市 鈴木美奈（32歳）

子供が成長して服を買い替えるのは当然ですが、夫が太ったという理由ではどうも無駄遣いのような……。背広から何から全部新調した夫に「太らなきゃいいの。お金がもつたない」と言ってしまうのは私だけでしょうか。

私ですか？ 十五年前の服まで着られます。おかげで私の服は「必要なし」と買ってもらえませんが、どちらが損なのかな。

最後の断乳

愛知県一宮市 石黒久美

母乳のみで育ててきた二女が一歳を過ぎたので断乳することにした。もう後がない!!自分の乳を与えるのも最後ということ。そう思うと妙に寂しくてずるずると先延ばししていたのだ。思い切って決行したら案外すんなりとあきらめてくれて物足りないくらい。その後食欲も増し夜もぐっすり寝てくれるようになり、私の睡眠不足も解決しそうだ。書くための時間もとれるかな?と期待している。

愛することは難しい

埼玉県三郷市 庄子予吏子

二六二号の渡辺初子さんに一言。実家に内孫ができ、帰省するにもお客になった感じで気が重いということだが、親と子、夫と妻の関係で、相手を愛するが故に傷つけてしまったり許せなかつたりする。自分を大切にすること、他人を愛すること。愛するとはなんて簡単なようで難しいんだろう。一日一声心の発散をしよう。毎日を喜びを持って受け入れ、ご両親にも笑って長生きしてもらおうよ。

特別養護老人ホーム

福祉施設の最後は特別養護老人ホームです。

特別養護老人ホームは平成五
年十月現在で約十九万五千人分
設置されています。

新ゴールドプランによると平
成十一年度までに二十九万人分
にする計画です。これ以上多く
する計画は現在のところありま
せん。

しかし平成五年でも要介護の
寝たきり老人、痴呆性老人数は
百万人おり、将来の発生見通し
によると平成十二年には百四十
万人になると推定されています。
虚弱老人を含めると要援護
老人の数は二百八十万人にもの
ぼります。

特別養護老人ホームはまった
く足りないわけです。現在でも
入所できるまでに二年〜三年待

ちといわれていますが、将来と
うなるのでしょうか。

老人福祉計画は高齢者をめく
る状況の変化に対応して、より
実態に即したものにしていくな
め、必要に応じて見直しが行な
われるとあります。

老人ホーム情報センターの窓
口で相談を受けていますと、こ
の特別養護老人ホームが多くあ
り、すぐに入居できるならば、
高齢者の悩みの多くが解決でき
るのにと感じます。特別養護老
人ホームはもつともつと必要で
す。

入居資格は次のようになって
います。
・六十五歳以上
・身体上または精神上著しい障
害があるために常時介護を必要
としている人

特別養護老人ホームは養護老
人ホームと同じ、措置施設で
す。居住している市区町村の福
祉事務所に入所の申請をし、措
置を待って入所します。

申し込みに所得制限はありま
せん。

●利用料

入所者本人の負担能力に応じ
て費用徴収されます。

- ・入所者本人
0円〜二四万円
- ・扶養義務者
0円〜二八万九五六〇円

入所者からの徴収額が措置費
の金額に満たない場合、差額は
扶養義務者の負担能力に応じて
徴収されます。

居室の定員は四人以下と決め
られています。最近個室も
作られるようになってきまし
た。しかしまだまだわずかで
す。

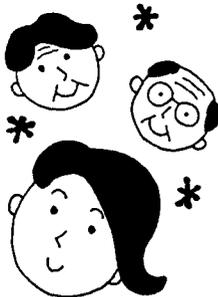
(水落)

親が倒れた！
どうしよう！

高齢者の介護の問題は、待っ
たなしで突然襲ってきます。
病院から退院を迫られている、
どこか入院できる施設はないか。
父がどうもボケ始めたらしい。
寝たきりの母親をどうしたらいい
かなど、など。

緊急避難的に対応できる施設、
一生涯入居できる施設など、身
体状態の如何に関わらず、どな
たにも対応できるさまざまなタ
イプの高齢者用住宅の情報を提
供します。(資料は有料)

無料相談
月・木 午前十時半〜午後五時
老人ホーム情報センター

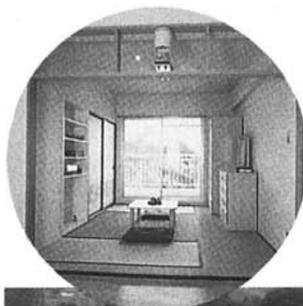


都市と田園が共存する立地 同一施設内介護型ホーム

鈴木由美子

四日市と聞いて公害を思い出す人は多いが、リバティハウスの建つ丘陵の空気は、美しく澄んでいた。かつての大気汚染も海に近い一部地域に限られていたし、悪名を馳せた自治体だからこそ、その後の環境行政に力を入れているという。

「リバティハウス第一」と「第二」、



二つの棟の庭には、点々とブロンズ像が立ち、小さな「彫刻の森美術館」のよう。「老いを過す場所だからこそ、感性の豊かさが大切。理事長の美術趣味によるのですが、三重県下でこれだけ彫刻作品が見られる場所は、美術館以外ではここだけです」と、園長の坂井さん。若くておしゃやかな感じの男

性である。

ここは、特定有料老人ホーム。「特定有料」とは、特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人が、同じ敷地内に設置した小規模な有料老人ホームをいう。厚生省の指導で、月々の利用料しか徴収してはならないことになっており、充実したサービスの割に入居者の経済的負担が軽いのが特徴である。

リバティハウスでは、最初に「入居預り金」として一人なら三百五十万〜五百五十万円、二人の場合四百五十万〜七百五十万円かかるが、退去後に全額返済というしくみ。一カ月の生活費は、一人入居の場合、家賃・管理費・食費を合わせ十四万円、二人なら二十二万円程度である。

部屋は二五〜三五平方メートル、タミ六畳間にダイニングキッチン六畳分がつくタイプと、それが八畳―八畳になったタイプとがあり、押入れなど収納部分が大きく取られていた。自室にユニット式のトイレとバスがある

が、各階にある大きめの浴場のほうが
人気があるとか。

介護については、よそへ移る不安の
ない「同一施設内介護型」。定期的な
健康診断があり、週二回出張医師によ
る診療室が開かれるほか、提携病院へ
の優先入院や、外部医院への送迎サー
ビスがある。病気の間、自室で静養す
るか、隣接の特別養護老人ホームのシ
ョートステイを利用するかを自分で選
ぶことができる。もし寝たきりになっ
たときは、月六万円の追加で終身介護
が受けられる。

エレベーターで一緒になった七十代
男性はにこやかに「女性のかた、お先
にどうぞ」と譲ってくれた。廊下で
園長をつかまえ用事を頼んだ女性もい
きいきとした印象だった。入居者の間で
は、ダンス・俳句・合唱・囲碁などの
サークル活動が盛んに行なわれてい
る。外に働きに出る人もいるし、自室
で設計図を描く仕事をしている人もい
る。敷地内にあるグリーンハウスで、
知的障害の子らの万能ネギ作りを手伝

私が訪ねた
有料老人ホーム

特定有料老人ホーム リバティハウス

〒510 三重県四日市市西坂部町1126
TEL 0593-31-7960
FAX 0593-31-5184

って収入を得ることが出来る。畑を借
りて野菜や花づくりを楽しむ人も多い。
食堂は清潔で広々としており、ラウ
ンジには喫茶とバー、ピアノ、ビリヤ
ード台、チェス台、図書コーナーなど
がある。室内アスレチック器具、水着
で入るクアハウス、屋外プールなども
充実している。一流企業の豪華な保養
所といった雰囲気。坂井園長は、善意
でつくす福祉でなく、近代的なホテル
のサービス水準を目指したいという。
水流に逆らって泳ぐプールやハード
な筋力鍛練器具を見て、若い人にしか
無理ではないかと聞いたところ「子ど
も夫婦や孫たちが来て、ここで楽しく
一日過ごせるようになっていきます。親

孝行の気持ちだけでは訪問が間違にな
りますが、ここで遊ぶのが楽しみなら
ひんぱんに来る気になりますから」
宴会場になる別棟もあり、おじい
ちゃんやおばあちゃんのもとに一族が集
まって、孫や曾孫の七五三の宴を開い
たりするそうだ。

ここから六キロの近鉄四日市駅周辺
は、近鉄百貨店や松坂屋のある三重県
一の繁華街。日に三回、近所のスパー
ーマーケット経由で四日市駅に行く専
用バスが出ている。また四日市駅から
名古屋駅へは近鉄で三十分である。

現在、入居者の平均年齢は七十四
歳。第一と第二各五十人ずつの定員は
ほぼ満杯で、県外の人が六割だとい
う。意外なことに待ち人数は多くない。近
畿地方といえば白浜温泉に目が向くた
めか、このあたりは盲点らしい。

サラリーマン階層の人が、資産を減
らさずに入居して年金の範囲で生活で
き、健康を害したときも心配がない。
都市と田園、両方のよさを味わえる。
知名度が上がれば、入居希望者が殺到
しそうなホームである。

ファミ・ポリティク編集室より

小選挙区制とマスコミ

田中喜美子

▼案の定のすさまじい低投票率で総選挙が終わりました。

実際、何とも気の乗らない選挙ではありました。原因は何といっても、鳴り物いりで発足した民主党も含め、各政党のかかげる政策の内容が、変わりばえがしなかつたことではなかつたでしょうか。

社民党は起死回生の手段として、土井さんを党首に担ぎ出しましたが、この「夢よ、もう一度」はまったく当たらず。

▼国民はたしかに利口になりました。

新進党が消費税を三パーセントに据え置くことぶちあげても、票が伸びなかつたのは、党首が三年前、消費税は一〇パーセントにしなれば日本はやっていけない、と本まで書いて主張したのを忘れてはいなかつたのでしょうか。

▼では消費税の五パーセントを堅持した自民党が「復調」したのは、国民がその政策を支持したのかというと、そうもいえません。よくよく数字を調べると、意外な事実がわかるのです。

自民党の小選挙区での得票数は、前回より一五〇万票も減っています。得票率

は前回より一・四ポイント伸びて三九パーセント。これも全体に投票率が下がったので相対的に高くなったにすぎません。

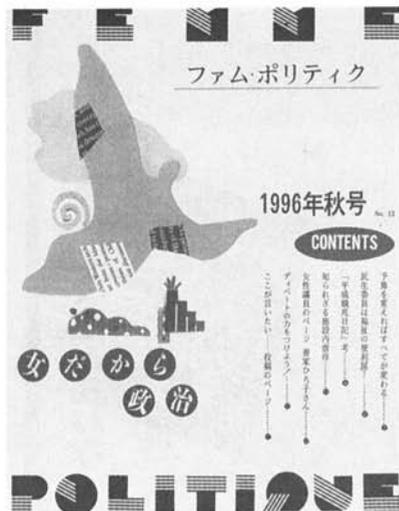
問題はこの三九パーセントの得票率で全体の五六パーセントの議席を獲得したこと。ちなみに新進党の得票率は二八パーセントで議席数は三二パーセント。

小選挙区制は、第一党と第二党に有利にはたらく、という予測はみごとに的中したのでした。自民が伸びたのは、支持する国民が増えたわけではなく、小選挙区制というしくみのためだったのです。

得票数と議席数のアンバランスがこれほどはなはだしい、こんな制度が合理的といえるでしょうか。

▼小選挙区制度がいい、といわれている理由は、①金がかからない、②地元への利権誘導がなくなる、③政党政治の基本である「政策」によってじっくり候補者を選ぶことができる、ということでした。

ところがふたをあけてみたら、前よりよほど金がかかり、もつと地元密着型である、政策は似たり寄ったりで選ぶ決め手にはならない、という始末。



ファム・ポリテイク (Femme Politique=仏語で「政治的女性」の意) 1993年創刊。わいふ編集長でもある田中喜美子が編集長を務め、女性のための政治情報誌として出発したが、最近「政策提言」をするために、読者のオピニオンを載せるページも設けた。A4判20ページ・季刊・300円・年間購読料1560円(送料含む)。わいふ読者の方もぜひお読みください

要するに小選挙区制は、英国のように二大政党がはっきり国論を分ける国ならともかく、日本では結局は自民党を利用するものにすぎない、ということがはっきりしたのです。

これまで他の政党が、小選挙区制の話が持ち上がる毎に猛反対してきたのは、たしかにもっともといわねばなりません。どうしてこんな制度になったのか。

▼その背後にマスコミの力があつたことは見逃せません。五年ほど前から、マスコミは「小選挙区制こそ「政治改革」の目玉商品であるかのように持ち上げ、世論を誘導して「小選挙区制こそ政治改革」のムードづくりをしてきました。朝日新聞は途中から論調を変えたものの、他のマスコミでこの選挙制度を持ち上げなかつたところはほとんどありません。

▼「ファム・ポリテイク」をはじめてからというものの、世間のいほど政治家は悪くない、それよりもっと悪いのはマスコミではないか、という印象が日に日に深まるのを感じています。この問題もそ

のひとつです。

マスコミの一番悪いところは、厳正中立のような顔をして、少しずつ誘導的な記事を出し、ムードづくりをして世論を一定の方向に引っ張っていくことです。はっきり「わが社の主張はこれこれ」というのではなく、ムードで世論を動かそうというのがマスコミというもののおそろしさです。

▼これからもマスコミが同じ動きをするのではないかと案じられてなりません。いま、マスコミでもっとも幅をきかしているのは、小選挙区で落ちた候補者が比例代表並立制で救われるのはおかしい、という論です。たしかにこの制度は分かりにくく、不合理でもあるのですが、本質的な問題はそんなことではなく、小選挙区制そのものにあるのです。それを指摘する人がマスコミにほとんど登場してこないのは何としたことでしょうか。

戦前、私たちを戦争にひっぱこんだ責任は、軍部と同じほど、マスコミにもありました。悲しいかな、日本のマスコミはあの当時とそれほどかわらない論理で動いているように思われてなりません。

わいふ 投稿規定

●定期購読者はどなたでも(男性でも)投稿できます。原稿には住所(郵便番号、都道府県名から)、氏名、会員番号を明記のこと。誌上匿名・ペンネーム可。

次のコラムを設けています。

●エッセイスト・クラブ
(二六〇〇字まで)

ぴたりとキマった文章、豊かな内容を持った随筆をお寄せください。

●ズバリ一言(二六〇〇字まで)

オピニオン、評論、改善策の提案などの欄。政治、事件、芸術から身辺の商品、サ

ービス、その他細かいことまで何でも遠慮なく言ってください。ただしなるべくあなた独自の考えを。

●マイジヨブ・マイホビー
(二六〇〇字まで)

本格的な職業生活から、パート、アルバイト、内職までの仕事について、また楽しみ、生きがいとしての趣味について等々、あなたの活動報告をお待ちします。

●家族と私(二六〇〇字まで)

一つ屋根の下にいる夫や子供はもとより、別居している親(舅・姑も含み)、成人して離れた子供、他人の始まりといわれる兄弟姉妹など、とにかく「身内」とあなたの関係レポートをどうぞ。

●おさない子を育てる(二六〇〇字まで)

子育てではやはり、女性にとつての最大の関心事です。おさない子はかわいい、けど子育てはホントにしんどい!

現実のなかから、あなたと子供のありのままの関係を浮きぼりにしてください。

●サブレシーブ(八〇〇字まで)

本誌の投稿や記事についての反響をお載

せします。感想、反論、何でもどうぞ。

●大人になりかかった子供たち
(二六〇〇字まで)

反抗期、思春期、青年期の子供と親の関係についてお書きください。大きくなった子供の問題は、これまであまり言い立てられなかったと思いますが、若いお母さんにも将来の参考になるはず。体験談をお待ちします。

●忘れ得ぬ人々(二六〇〇字まで)

印象の深かった人の姿を描写してください。想い出の中にある人、現在関わっている人どちらでもけっこうです。いやな奴、すばらしい人、奇人変人、あなたの詳しい観察を。

●フリースペース(二六〇〇字まで)

どんなテーマでも書けます。思想・信条にかかわらず、一〇〇パーセント言論の自由のある「わいふ」ならではのコラム。

●わいわいがやがや(八〇〇字まで)

誰でも気軽に書けるコラム。

●私もひとこと(二八〇字まで)

何でも。添付の原稿用紙でお願いします。

●わいふネット（一八〇字まで）

教えてほしいこと、聞きたいこと、それに対する答えも。読者参加のQ&Aです。

●ワーキングマザー（一六〇〇字まで）

まだまだ母親が働くことへの偏見が残る中で、頑張っているお母さんたち、子育てのこと・職業のこと・家事のこと、悩み、喜び、充実感、言いたいこと叫びたいこと、何でも彼でもお書きください。

●おすすめの一冊（八〇〇字まで）

書評のコラム。女性問題にかぎらず、視野の広い読書体験を。

●情報コーナー（四〇〇字まで）

お知らせ、募集、お願い、探しもの、交換、相談、何でも。なるべく短く、要点をまとめてください。

コラム以外の投稿募集

●特集テーマ原稿

毎回テーマを設定して募集しています。

●特別寄稿

ルポルターージュ、自分史、伝記、旅行記、その他の体験記、評論、小説、どんなジャンルのものでもけっこうです。枚数も

自由。本誌に適当と思われるものは掲載します。長編なら連載になります。

本誌には合わないが、価値ありと思われるものは、出版社に紹介、推薦します。

●カット・イラスト・写真・コミックも募集しています。ご自分の投稿にイラストや写真が用意できる方は、あわせてお送りください。

注意

●投稿は一人一篇に限ります。

●ただし次のコラムへのご投稿とはだぶつてかまいません。サブレシーブ・私もひとこと・情報コーナー・わいふネット。

●投稿は原稿用紙に。本誌はタテ組みですので、ヨコ書きはご遠慮ください（書き直すことになるので）。

●ワープロ打ち原稿は、字詰め二十字、二十行を一枚に、行間をあまり詰めないよう、また禁則処理をしないで打ってください。

●ファクスでの投稿は受け付けません。

●投稿は多少添削することがありますのでご了承ください。

●締め切りは原則として偶数月の二十五日

（当日必着）。それ以後に着いたものは次号まわしとなります。規定枚数はきっちりでなくともよく、長くても内容がよければお載せします。

●他誌との二重投稿はお断わりします。

●原稿はお返しできませんので、必要な方はコピーをとってからお送りください。

●匿名、ペンネームは原稿の最初に。住所本名は、そのすぐあとに併記してください。また整理の都合上、住所には郵便番号を付記し、本名には会員番号（本誌送付封筒の宛名の下と、振替用紙にあります）を付記してください。

●ペンネームをいくつも使い分けるのは、ご遠慮ください。居住地もとくに理由がなければ記載したいのでよろしく。ただし匿名・ペンネームは原則として自由であり、書くことでの自由を守るためであれば、むしろ積極的に評価します。濫用は困る、ということです。

●年齢をお書きそえくださる方は、名前の下に算用数字で。

●おたよりで掲載ご希望でない場合は、必ず私信とお断わりください。

次号投稿募集

●特集テーマ原稿

二六五号の特集テーマは、「私の初体験」です。もちろんセックスの初体験。

「わいふ」では性の特集を何回かしましたが、その度に反発なさるかたも結構多く、ウーンやつぱりセックスの問題はタブーの方も多いのだ、と感じたりもしたものです。でも性の問題は、人生にとつてのひとつの基本ですから、避けて通ることばかりはできません。

今回は、性について、どんな思いを持っている人が、どんなかたちで初体験をし、それがその人の後にどんな影響を及ぼしたか、あるいは通念とちがって、まったく何の意味もないものかを探ってみたいと企画しました。

さまざまないもかけないレポートが集まるといいな、と期待しています。

四千字前後

締め切り日 二月十日

●二六四号への投稿は締め切り日が早まります。十二月十八日必着です。

●時事放談

二六四号のテーマは、「あなたの子どもはノーと言えますか？」です。

いじめられている子どもたちが、はつきり「いやだ」ということをいえない現象を、つねづね不思議に思っていたのですが、実はよく考えてみると私たち親は子どもに、対人関係において「ノー」という意志表示をすることの大切さをしっかりとつけていないのではないのでしょうか。

このことは大人にとつても同じこと、日本人は「ノー」とはつきりいうことが大の苦手なのです。

私たち親は、どんなときに子どもに「ノー」ということを仕込んでいるのか。そして自分もまたそういつているのか。そもそも感じよく「ノー」をいうことが可能なのだろうか、というところまで話を煮詰めたと思います。ふるってご出席を。

日時 十二月十七日(火) 午後二時より
場所 「わいふ」分室

参加ご希望の方は十三日までに電話でお申し込みください。

子育て通信教育を

始めます

「わいふ」では来年の二月早々から、子育ての通信教育という新しい仕事を始めます。一月末ごろに受講生をつくる予定ですが、希望者がかなり多い場合には、手伝ってくださる方が五、六人は必要になると思っています。

そこで、子育ての問題に興味と関心のある方、首都圏にお住まいの方で手伝ってみたい方は、編集長の田中まで一報いただけませんか。どんなかたちで仕事をしていただけるか、ご相談してみたいのです。

仕事の密度や、スタッフが何人必要になるか、オープンしてみないと分からない部分もあるので恐縮なのですが、どうぞよろしく願ひ申し上げます。

ご希望の方は、ファクス、ハガキに住所、氏名、電話番号を明記し、田中あて、十二月二十日までにご連絡ください。

FAX ○三十三六〇一九三九八

父母と子の立場から教育・学校を考える

母と子 11月号

五〇〇円・〒七六円
(見本誌(旧号)進呈)

今月の視点

環境を考えるセンス・続

「母と子」のテーマ別編集・保存版
「母と子」'96年7月 臨時増刊 1030円・〒100円

子どもの権利条約 市民・NGO意見集

子どもの権利条約 市民・NGO
報告書をつくる会 編

全国から寄せられた政府への
意見書を一冊に収録！
子どもの権利条約のために
国連への「共同のひとつの報告
書」づくり運動の手がかり！

お申し込みは書店か母と子社へ

〒203 東久留米市中央町五-四-八
☎〇四二四-七四一九-一二五

母と子社

創刊50年をすぎた女たちの情報紙

女の視点で創るもう一つのメディア



自分史・インタビュー・映画・CD・書評・催し

アジア・さべつ・たべもの・からだ・老い・そだてる・はたらく

WOMEN'S DEMOCRATIC JOURNAL

5日・15日・25日発行・年間9000円 ●見本紙どうぞ！

婦人民主新聞

ふえみん

東京都渋谷区神宮前

TEL 03(3402)3244

TEL 03(3402)3244

FAX 03(3401)3453

FAX 03(3401)3453

編集室から

●FAXや留守番電話の公書ってありませんか。仕事やボランティア活動の仲間からの、連絡なのに……。思いやりのない内容に心を傷める私は感情的？

●相手を受け取る状況により、受け止め方もさまざまです。一方通行的な送信や発信には、十分気をつけたいものです。(菊池)

●「まだわいふが届かないんですけど……」十月の初めに何本かの電話が編集室にありました。わいふが発刊以来？のアクシデントで発送が遅れたための問い合わせです。思わぬことに大慌てしましたが、わいふを待ちわびている読者がいることを知って感激しています。(成井)

●初めてのアメリカ行きに命を賭けたお話。出発十日前に義妹がクモ膜下出血で倒れたのに、ブラジル航空格安チケットに保

険をたくさんかけて旅立った。機内で揺れるとビクッ。現地で電話が鳴るとビクッ。無事帰国した今、義妹も快方に向かい結果オライでしようか？(野村)

●「投稿を呼ぶ女」としては、最近の投稿数増加傾向に満足。

で、「わいふネット」コーナーを始めます。会員交流の場にしたかったので、どんなことでも、お寄せください。ほんの数行で結構。また、こんなわいふにしたいというアイデアも募集します。

(少々、バテ気味だよ) (浅野)

●連休は故郷で紅葉を満喫。義兄や弟の一家と、深谷でいも煮(さといもとお肉と野菜を煮た鍋もの)会。だが、ゆつくりする間もなく高速道路を二二〇キロでとばして帰る生活。みなさまからのお便りと原稿が励みです。初めての方の投稿は特に。(これってひいきかな?) (間瀬)

●わいふの印刷を担当して

くださる伊倉君。今回のハブニングで、手作業でなおす製本屋さんとの往復、製版所、外注の印刷屋さん、身体がいくつあっても足りない状況で、ついに腰痛!! でも納品が完了したとたん、「僕！ なおりました」ヨカッタ。

(望月)

●ベトナム帰りの息子は帰国後しばらくはベトナム人になりきっている。今朝もみやげのアルミの器を使って器用に珈琲をいれている。のんびり、うまそうに飲んでいる。立ち働く私の後姿に「ケッ！ その体型ではアオザイは無理だ」と。大きなお世話だぜ、ドクちゃん。(山本)

●去年の十一月、二匹のネコを飼いだしてちょうど一年。前のネコは二十一年生きていたのでこの年して責任持てないかなと思っただけ、私が死んだら娘が引き取るという約束ができて飼ったのです。

長年の夢だった、首に白い月の輪のある黒ネコと、色うつりのよい三毛ネコをそろえることができてとても満足。編集部写真を持ってきて自慢しています。

●ネコの本が売れると。また企画してみようか。ベストセラーになったら「わいふ」は助かるんですけれどね。(和田)

●六月このかた「わいふ」でよびかけた子育ての実験？に、あまりに多くの方が応えてくださり、一人一人の方の子育てを分析するのに大変な時間がかかり、もうフラフラ。でもおかげさまで、実にいろんなことが手にとるように分かり、自分のシステムにも自信ができました。何よりもよく分かったことは、自分らしく幸福に生きている母親から、幸福な子どもが育つということ。こまかいノーマウは二の次です！ みなさん、幸福になりましょうね。(田中)

編集だより

●二六二号の発送当日、出来上がってきたわいふを開いてみたら、何と扉がなくてグラビアがページ目に！大騒ぎになりました。

もちろんこれは完全な印刷ミスで、すぐやり直してもう一度になりましたが、表紙をはがし、ページを入れ替えて綴じ直すのは全部手作業とか。発送が結局一週間ちかく遅れてしまいました。読者のみなさまにご迷惑をかけ、ほんとうに申しわけなく思います。

●その上読者のお一人から、なかのページが一部分逆さになっていた、というご抗議がありました。これも製本上のミスですが、まったく泣きつ面に蜂、ご迷惑の上乗せで、心からお詫び申しあげます。同じような乱丁本に当たった方、お取り替えしますのでどうかお知らせください。

●新しいシリーズの投稿を募集します。「私の職場体験記」です。わいふではこれまで結婚前の職場について、投稿を寄せてくださった方がほとんどありません。

しかし最近「任専」におつとめだった十文字さん、N総研と外資系の会社を体験なさった田村さんが、それらの職場について寄せてくださった投稿が大変充実していたので、今後毎月募集することになりました。ある程度まとまったら一冊の本にしたいとも思っていますので、どうか奮ってかつての職場について書いてください。（職場の名は編集部には実名でお知らせください。誌上匿名は自由です）

●また次回から新しく、読者のネットワークづくり役立つ「わいふネット」というページをつくりました。お知らせが九三ページに出ていますので、ご覧になってください。

共通の興味をもつ仲間づくりや情報入手のために、どなたでもご利用になれる、パソコンのインターネット的なページです。育児で忙しい方、とてもペンをとるヒマがない方、書くのは苦手という方、どんな方でも気軽にどうぞ。

●二六三号への投稿数は一〇四通でした。では、ご投稿をお待ちしています。二六四号の締め切り日は十二月十八日です。

□購読のお申し込みは……

ハガキか電話、ファクスでどうぞ。すぐ本に振替用紙を添えてお送りしますので、折り返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様に。●年間購読料は割引となっております。

WIFE・263

(隔月刊)

1997年1月1日発行

編集・わいふ編集部

定価550円(本体533円)

(年間購読料送料共4500円)

印刷・平河工業社

発行所・(株)グループわいふ

〒162 東京都新宿区矢来町115

東海神楽坂マンション406

☎(03)3260-4771・FAX3260-4773

郵便振替00150-3-110430

加入者名 わいふ編集部

□購読中止は……

必ずお申し出ください。送金をお忘れになる方が多いので、誌代が切れても引き続き送本しています。お申し出がないとお送りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

21世紀へのヒューマン・セクソロジー

シリーズ

科学・人権 自立・共生の性教育

全8巻 ● B5判 ● 定価各2,400円
“人間と性”教育研究協議会編
編集代表 ● 高柳美知子・村瀬幸
浩・山本直英

- [1] 性教育 その考え方・進め方
 - [2] 小学校の性教育
 - [3] 中学校の性教育
 - [4] 高等学校の性教育
 - [5] 障害者・マイノリティの性と性教育
 - [6] 共生・人権をめざすエイズ学習
 - [7] 性的ふれあい・性交をどう教えるか
 - [8] 性教育 その用語と教材
- [1]、[2]、[3]、[4]、[5]、[6]、
[7]、好評発売中 [8]続刊

心とからだの主人公に

性と生の教育

Human Sexuality

No.8

編集長 ◆ 山本直英 編集 ◆ “人間と性”教育研究協議会
隔月刊 ◆ B5判・112ページ ◆ 定価1200円

《特集》Body is Good～からだっていいな
ダイエット考 ● やせることで「幸せ」が見えてくるジェンダーの刷り込み / 障害者とからだ ● 鏡の中の自分を本当に好きになる旅を終えたときに / 論考 ● 自分を商品化する子どもは何を求めて彷徨しているか !! / 《パトリック＝人生で一番よかったことはHIVに感染したこと》編集長対談 ● 性器を変えないと他人のからだで生きている感じ・ゲスト 虎井まさ衛

- 定期購読者受付中
- 全国どこのお書店でもお申し込いただけます。
- 郵便振替 00100-8-10590 1年間 9,000円

〒112 東京都文京区春日2-17-3

あゆみ出版

☎03(3815)5511 FAX03(3815)3777

死ぬのに
必要な
手続きのすべて

ど う せ ら 死 ぬ な ら 上 手 に 死 の う

『わいふ』編集長
田中喜美子 編

グループわいふから育ったライターたちが取材

よりよい老後を過ごすために、今しておかなくてはいけないこと、
してはいけないことなど、100以上の生きた実例をもとに、
上手に死ぬための方法を具体的でわかりやすくまとめた熟年必読の書!

集英社 定価1300円(本体1262円)

古代から現代までの伝統食の技術を現地に取材し映像化

映像記録 日本の味 伝統食品

縄文人の食からコンブロー、魚醬、佃煮、豆腐、凍豆腐…。日本人の食品加工をビデオに再現！
●石毛直道氏他制作協力

- 日本人は何を食べてきたか？
- 集巻 第1巻 ●日本の味のルーツを探る(全5巻)
 - 315 第2巻 ●伝統食品の知恵と工夫を探る(全5巻)
 - 全全 第3巻 ●風土の味と技を探る(全5巻)



ベトナム家庭料理入門

●台所にあがりこんで教えてもらった50の味！
三浦行義・大野尚子著 中国料理よりさっぱりしていて、タイ料理ほど辛くなく、フランス料理の洗練が加味された日本と同じ着文化料理。
●カラー16頁付
A5判*1700円



- エスニックな家庭料理入門シリーズ *各7000円
- タイ家庭料理入門 うめ子アランチの味、ラタから酒のつまみの味も
- インド家庭料理入門 ロイチョウワリ他、アーユルヴェーダの味
- ネパール家庭料理入門 山田安美 日常食から祭礼食まで50
- フィリピン家庭料理入門 原田通美 各国まぜこぜ料理味

農文協

http://www.ruralnet.or.jp/
〒107 東京都港区赤坂7-6-1
☎03(3585)1141 ●内容見本屋(全て税込価格)

「食」業おこしガイド ●危ない加工食品
「農」業を、加工・販売・観光を総合的に含む「食」業に変えつつある元気な全国の女性の技と地域の特産。『現代農業増刊*9000円』P.121頁

「食」業おこしガイド ●女性起業の完全ガイド
樋口恵子・あだちゆき編著 女性ならではのアイデアと技術を生かした「食」の仕事おこしと運営法を詳細に解説した初の本。*18000円

お年寄りの食事

こんな風に作ってました

●高齢者と暮らす方々のヒントになれば

働きながら母の晩年をみとった「高齢者準備軍」を自称为主婦が、立き笑いのなかで磨いた食べやすさの工夫から手抜きのかんごころまでを、作る人・食べる人の目線に立って描く。食事作りを通して「老い」と向き合う本。
料理名一覽十素材別索引付 ●B6判・18頁*1000円



平田静子著
一九四二年東京生まれ。料理で働きながら食研究中。

●楽しい実験遊びを通して、「科学する心」を育む本！
かかくを感じる あそび事典 ●したいさせたい ビックリ実験100集



山田卓三文・三田イチロー絵 水ロケットや熱気球など、身近なモノで遊ぶ楽しさをくわしくもたふに必ずうけるビックリ実験100集を、イラストと原理の解説とともに完全紹介。圧力を利用しての「ドラム缶つぶし」は大迫力。*16000円

●姉妹図書 好評発売中！

- 「あそび事典」 300集 ●したいさせたい原体験を感じる *19000円
- 「あそび事典」 200集 ●したいさせたいおもし感じる *18000円



▼ペットボトルの「水ロケット」
うへんもろ 33233か

ネイチャー・草木で染める
林立直著 身近な自然の素材で染めあげる草木染め。ハンカチから浴衣まで17作品の染め方作り方紹介 ●イラスト・写真多*27000円

探検教育で子どもが変わる
斎藤 毅著 探検行動と子どもの知の形成との関わりと手だてを解説。総合教科としての環境教育や野外教育の大切さを説く。*15000円